4-116-402-**04**(1)

SONY

ブルーレイディスク/DVDプレーヤーホームページ
本機に関するさまざまな情報が確認できます。
操作情報などについて知りたいときは、以下のホームページをご覧ください。
http://sony.jp/bd-player/

「Q&A」ホームページ
お客様からよくあるお問い合わせと解決法に関する情報を、以下のホームページで確認できます。
http://www.sony.jp/support/faq.html

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。 **http://www.sony.co.jp/support**

使い方相談窓口
フリーダイヤル················0120-333-020
携帯電話・PHS・一部のIP電話···0466-31-2511

修理相談窓口
フリーダイヤル················0120-222-330
携帯電話・PHS・一部のIP電話···0466-31-2531
※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX（共通） 0120-333-389

左記番号へ接続後、最初のガイダンスが流れている間に「103」＋「#」を押してください。直接、担当窓口へおつなぎします。

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

4-116-402-**04**(1)

この説明書は、古紙70%以上の再生紙と、VOC（揮発性有機化合物）ゼロ植物油型インキを使用しています。

Printed in Japan

ブルーレイディスク/DVDプレーヤー
取扱説明書

BDP-S5000ES

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告　電気製品は安全のための注意事項を守らないと火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、間違った使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

2 ～ 3ページの注意事項をよくお読みください。製品全般の注意事項が記載されています。6ページの「使用上のご注意」もあわせてお読みください。

定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかり差し込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにお買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

1. 電源を切る。
2. 電源プラグをコンセントから抜く
3. お買い上げ店またはソニーサービス窓口に修理を依頼する

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

火災

感電

指のケガに注意

行為を禁止する記号

禁止

分解禁止

接触禁止　ぬれ手禁止

行為を指示する記号

指示

プラグをコンセントから抜く

下記の注意事項を守らないと**火災・感電**により**死亡**や**大けが**の原因となります。

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

➡万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニーサービス窓口に交換をご依頼ください。

禁止

本機の上に重たいものや不安定なものを置かない

感電や故障の原因となります。

禁止

湿気やほこりの多い場所や、油煙や湯気のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場や加湿器のそばなどでは絶対に使用しないでください。

禁止

内部に水や異物を入れないようにする

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。本機の上に花瓶など水の入ったものを置かないでください。また、本機を水滴のかかる場所に置かないでください。

➡万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはソニーサービス窓口にご相談ください。

禁止

本機は室内専用です

乗物の中や船舶の中などで使用しないでください。

指示

キャビネットを開けたり、分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。

➡内部の点検や修理はお買い上げ店またはソニーサービス窓口にご依頼ください。

分解禁止

雷が鳴り出したら、本体や電源プラグには触れない

感電の原因となります。

接触禁止

本機は国内専用です

交流100Vの電源でお使いください。海外などで、異なる電源電圧で使用すると、火災・感電の原因となります。また、コンセントの定格を超えて使用しないでください。

指示

⚠注意 下記の注意事項を守らないと**けが**をしたり周辺の**家財**に**損害**を与えたりすることがあります。

ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

風通しの悪い所に置いたり、通風孔をふさいだりしない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上、または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさぐなど、自然放熱の妨げになるようなことはしないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。

禁止

大音量で長時間続けて聞かない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。特にヘッドホンで聞くときにご注意ください。

➡呼びかけられたら気がつくくらいの音量で聞きましょう。

禁止

安定した場所に置く

水平で丈夫な場所に置いてください。ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度も充分に確認してください。

禁止

本体の前に物を置かない

ディスクトレイが開く際に、物が倒れて破損やけがの原因となることがあります。

禁止

幼児の手の届かない場所に置く

ディスクの挿入口などに手をはさまれ、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようにご注意ください。

指のケガに注意

コード類は正しく配置する

AVケーブルや電源コードは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。充分に注意して接続、配置してください。

禁止

移動させるとき、長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。絶縁劣化、漏電などにより火災の原因となることがあります。

プラグをコンセントから抜く

移動させるとき、すべてのAVケーブルや電源コードを抜く

AVケーブルや電源コードは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。

指示

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだまま、お手入れをすると、感電の原因となることがあります。

プラグをコンセントから抜く

ひび割れ、変形したディスクや補修したディスクを再生しない

本体内部でディスクが破損し、けがの原因となることがあります。

禁止

電池についての安全上のご注意

液漏れ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠警告

電池の液が漏れたときは

素手で液をさわらない

電池の液が目に入ったり、身体や衣服につくと、失明やけが、皮膚の炎症の原因となることがあります。そのときに異常がなくても、液の化学変化により、時間が経ってから症状が現れることがあります。

接触禁止

必ず次の処理をする

➡液が目に入ったときは、目をこすらず、すぐに水道水などのきれいな水で充分洗い、ただちに医師の治療を受けてください。

➡液が身体や衣服についたときは、すぐにきれいな水で充分洗い流してください。皮膚の炎症やけがの症状があるときは、医師に相談してください。

指示

電池は乳幼児の手の届かない所に置く

電池は飲み込むと、窒息や胃などへの障害の原因となることがあります。

➡万一、飲み込んだときはただちに医師に相談してください。

禁止

電池を火の中に入れない、加熱・分解・改造・充電しない、水でぬらさない

破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

禁止

⚠注意

指定以外の電池を使わない、新しい電池と使用した電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

電池の性能の違いにより、破裂したり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

➡マンガン電池をお使いください。電池の品番を確かめ、お使いください。

禁止

＋と－の向きを正しく入れる

＋と－を逆に入れると、ショートして電池が発熱や破裂をしたり、液が漏れたりして、けがややけどの原因となることがあります。

➡機器の表示に合わせて、正しく入れてください。

指示

使い切ったときや、長期間使用しないときは、電池を取り出す

電池を入れたままにしておくと、過放電により液が漏れ、けがややけどの原因となることがあります。

指示

リモコンの電池フタを開けて使用しない

リモコンのフタを開けたまま使用すると、漏液、発熱、発火、破裂などの原因となることがあります。

➡マンガン電池を使用し、フタを閉めて使用してください。

指示

目次

接続と準備

再生する

設定を変更する

困ったときは

「Q&A」ホームページ
http://www.sony.co.jp/faq/BD/

その他

本書の読みかた

- BD など説明の最初にあるマークは、その機能を使用可能なディスクの種類を示しています。
- 本書の操作説明は、リモコン操作を基本としています。本体のボタンは、リモコンの同じ名前のボタンと同じ働きをします。
- 本書で使われている画面イラストと、実際に表示される画面は異なることがあります。
- 下線の項目はお買い上げ時の設定です。
- 本書中の[　]内の項目は画面上に表示される項目です。
- 本製品のご使用を開始される前に必ず、本製品に含まれる「ソフトウェア等に関する重要なお知らせ」（74ページ）をお読みください。お客様による本製品の使用開始をもって、このお知らせの内容をご確認のうえ、ご同意いただけたものとさせていただきます。

使用上のご注意

本機は、コンセントの近くでお使いください。
本機をご使用中、異常な音やにおい、煙が出たときはすぐにコンセントから電源プラグを抜き、電源を遮断してください。
通常、本体の I/⏻（電源）ボタンを切っただけでは、完全に電源から切り離せません。

本機の起動と終了について

本機はシステム全体の最適化を図るため、電源入切時に I/⏻（電源）ボタンを押してから、実際に起動するまでと実際に電源が切れるまでしばらく時間がかかります。
電源が切れる前にコンセントから電源プラグを抜くと、故障の原因になります。

電源を「切」にしているときのご注意

次のようなときは、電源が「切」の状態でもファンが回り続けることがあります。
– [高速起動モード]が[入]に設定されているとき

残像現象（画像の焼きつき）のご注意

本機のメニュー画面などの静止画をテレビ画面に表示したまま長時間放置しないでください。画面に残像現象を起こす場合があります。

設置場所について

次のような場所には置かないでください。
- 振動の多い所。
- 直射日光が当る所、湿度が高い所。
- 極端に寒い所、極端に暑い所。

また、本機の上に花瓶など水の入った容器を置いたり、水のかかる場所で使用しないでください。本機に水がかかると故障の原因となります。

設置場所を変えるときは

BDやDVD、CDを入れたまま本機を動かさないでください。ディスクを傷めることがあります。
配線/接続作業を行うときは本機の電源を切り、本機の電源が切れていることを確認してから電源プラグをコンセントから必ず抜いてください。

結露(露つき)について

結露とは空気中の水分が冷えた金属の板などに付着し、水滴となる現象です。本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋で、本機の表面や内部に結露が起こることがあります。

結露が起きた場合、結露がなくなるまで、そのまま放置してください。

- 電源プラグをコンセントに差し込んでいない場合
  電源プラグをコンセントに差し込まないで、そのまま放置してください。
- 電源を入れていない場合
  電源を入れないで、そのまま放置してください。
- 電源を入れている場合
  電源を入れたまま放置してください。

結露があるときにご使用になると、故障の原因になります。

本体のお手入れのしかた

キャビネットやパネル面の汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。シンナーやベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください。

再生を開始するときは

音量を必ず下げておきましょう。初めから音量を上げていると思わぬ大きな音が出てスピーカーを破損させたり、ヘッドホンで聞いている場合には耳を傷めるおそれがあります。

映画や音楽を楽しむときは

映画や音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。特に、夜は小さめな音でも周囲にはよく通るものです。窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

クリーニングディスクについて

レンズ用のクリーニングディスクは、本機では使わないでください。故障するおそれがあります。

BDやDVD、CDの取り扱い上のご注意

- 再生面に手を触れないように持ちます。

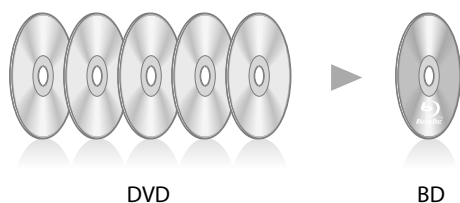
- 直射日光が当る所など温度の高い所、湿度の高い所には置かないでください。
- ケースに入れて保存してください。
- 指紋やほこりによるディスクの汚れは、映像の乱れや音質低下の原因になります。いつもきれいにしておきましょう。
- 柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭きます。汚れがひどいときは、水で少し湿らせた柔らかい布で拭いた後、さらに乾いた柔らかい布で水気を拭き取ってください。
- ベンジンやレコードクリーナー、静電気防止剤などは、ディスクを傷めることがありますので、使わないでください。
- ディスクにラベル印刷した場合は、印刷が乾いてから再生してください。
- 次のようなディスクを使用すると本機の故障の原因となることがあります。
  – 円形以外の特殊な形状(カード型、ハート型、星型など)をしたディスク
  – 紙やシールの貼られたディスク
  – セロハンテープやレンタルディスクのラベルなどの糊がはみ出したり、はがした跡のあるディスク

- ディスク読み取り面の傷を取るために磨いたり削ったりしないでください。

著作権に関するご注意

- 本製品は、著作権保護技術を採用しており、マクロビジョン社および<u>その他の著作権利者が保有する米国特許およびその他の知的財産権</u>によって保護されています。この著作権保護技術の使用は、マクロビジョン社の許可が必要で、また、マクロビジョン社の特別な許可がない限り家庭用およびその他の一部の鑑賞用の使用に制限されています。分解したり、改造することも禁じられています。
- 本機は、無許諾のBD/DVD(海賊版等)の再生を制限する機能を搭載しており、このようなディスクを再生することはできません。

主な特長

ブルーレイディスクについて

ブルーレイディスク(BD)は、高密度・大容量の新しい光ディスクの規格です。DVDに用いる赤色レーザーよりも短波長の青紫色レーザーを用いることで、同じ面積により細かいピッチで信号を記録します。この技術により、DVDと同じサイズにもかかわらず、約5倍(25GB:片面1層ディスク)あるいは約10倍(50GB:片面2層ディスク)の大容量を実現。1枚のBDにハイビジョン映像を2時間以上収録できます。そのため、ハイビジョン画質で映画など長時間の映像を楽しめます。

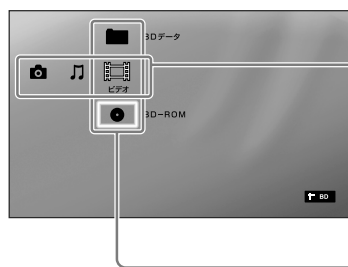
本機の特長

1 便利なメニューにアクセスしやすいリモコンボタン

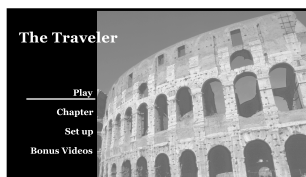
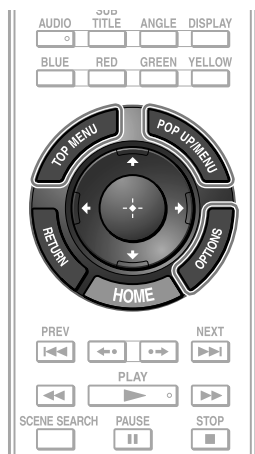
BD-ROMやDVDビデオを楽しむうえでの便利なメニューが用意されています。リモコン中央部のメニューボタンからそれぞれのメニューを表示できます。

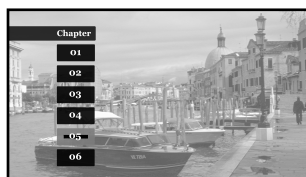
HOME
"XMB"(クロスメディアバー)
ディスクを再生したり、お好みの設定に変更する入り口となるメニューです。

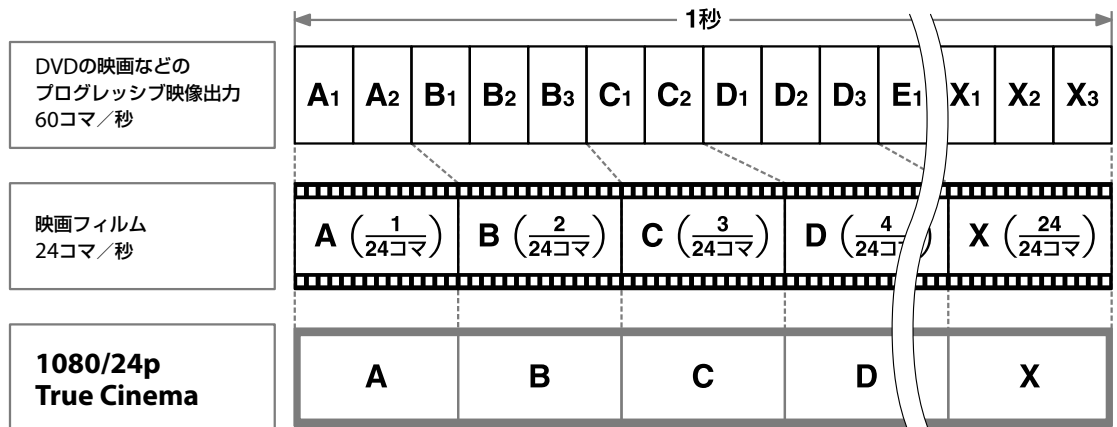
1 HOMEを押す。

ホームメニューが表示されます。
例:BD-ROMが入っているとき

2 ←→を押して、カテゴリーを選ぶ。
- 映像を再生(35ページ)
- 音楽を再生(41ページ)
- 写真を再生(42ページ)
- 各種設定(44ページ)

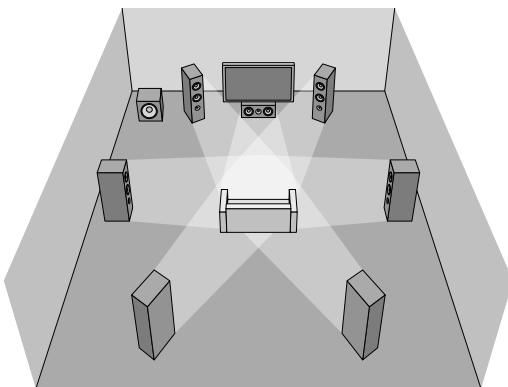
3 ↑↓を押して項目を選んで、⊕を押す。

その他のメニュー

TOP MENU
BD-ROMやDVDビデオのメニューを表示します。

OPTIONS
状況に応じて操作できるオプションメニューを表示します。

POP UP/MENU
BD-ROMを再生しながら操作できるポップアップメニューを表示します。

2 1080/24p True Cinema

市販のBD-ROMには、オリジナルの映画フィルムと同じ毎秒24コマで記録されているものがあります。通常のテレビにつないだ場合、24コマのBD-ROMの映像は、60コマ（プログレッシブ）に変換して表示されます。

本機を1080/24pの映像方式に対応したテレビとHDMIケーブルでつなぐと、オリジナルと同じ24コマで本機から出力され、映画製作者の意図や映画の質感がより忠実に伝わります（19ページ）。

3 7.1チャンネル高音質サラウンド

BD-ROMの中には、映画館のような迫力ある音場を生み出す非圧縮方式の「リニアPCM 7.1チャンネル」サラウンドや、「ドルビーTrueHD」や「DTS-HD」といったロスレス（可逆型）音声が収録されているものがあります（HD音声）。

本機とデコーダー搭載AVアンプを、ハイスピードタイプのHDMIケーブルでつなぐと、音の遠近感や位置までが感じられる高音質サラウンドで、ハイビジョン映像の世界をリアルに体感できます。

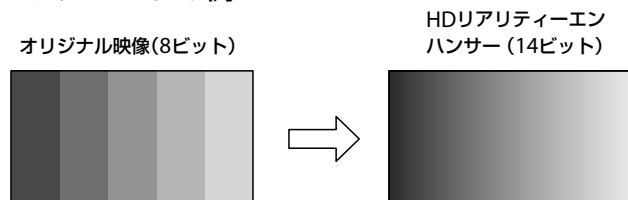
また、7.1チャンネルの音声ケーブルでデコーダー非搭載のAVアンプにつないでも同等の高音質サラウンドが再現されます。この場合、本機に内蔵のデコーダーを使用します。

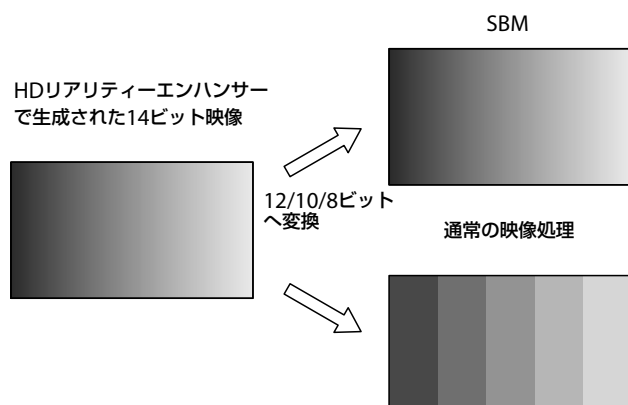
これらの高音質サラウンドでは、これまでの映像ソフトでは味わえなかった臨場感をリビングで満喫できます。（24、25ページ）

高画質のためのテクノロジー

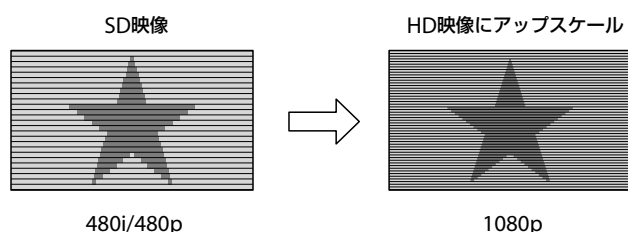
本機の高画質を実現するテクノロジーの一部を紹介します。

HDリアリティーエンハンサー

スムージングの例

デジタル放送やBDソフトの映像は、オリジナル素材を8ビットで量子化した後にMPEGなどにより圧縮しています。HDリアリティーエンハンサーでは、圧縮された8ビット（256階調）の映像に発生するノイズや階調表現の乱れ、色の損失などを画素単位で検出します。埋もれたディテールを再構成する「エンハンス」、滑らかな映像を再現する「スムージング」、気になる粒子や輪郭部に発生するざわつきを軽減する「FGR」の効果を加えて、64倍の14ビット（16,384階調）の階調の豊かな映像を生成します。（39ページ）

Super Bit Mapping for Video

デジタルの信号処理では、グラデーションの部分で階調が粗くなる現象が目立つ場合があります。階調性能は量子化ビット数によって決まり、ビット数が少なくなるほど量子化誤差が増えて階調が粗くなります。

HDリアリティーエンハンサーによって14ビット化された映像を、テレビのパネル性能に応じたビット数に変換する際、Super Bit Mapping (SBM)では量子化ノイズを人間の視覚特性が低下する高い周波数に変換します。それによりテレビ本来のパネル性能よりもなめらかな階調表現を可能にします。（48ページ）

Precision Cinema HD Upscale

BD-ROM、DVDビデオの主流は、フィルムで撮影された映画作品（フィルム素材）ですが、音楽コンテンツのようにビデオカメラで撮影されたソフト（ビデオ素材）も多くあります。これらさまざまなディスクの映像を、素材に応じて美しくHigh Definition（HD）解像度で出力します。

市販されているDVDビデオのソフトは、Standard Definition (SD)で記録されています。本機では、ストリームの情報も参照してI/P変換し、周辺の画素を参照して1080pの解像度へアップスケーリングします。テレビとHDMIケーブルでつなぐことによって、DVDビデオもBD-ROMと同じ1080pの解像度で楽しめます。

視覚的な調整が可能なフレキシブルガンマ補正

視聴環境や映像ソースに合わせて輝度信号のバランスを視覚的に調整できます。輝度信号の0%（黒）から100%（白）までに6つの調整ポイントを設けてあり、それぞれのポイントを自由に調整することが可能です。液晶テレビやプロジェクターなどそれぞれのディスプレイ装置の特性や、視聴環境の明るさに合わせて、細かな補正を行えます。（39ページ）

ハイビット・ハイサンプリングDACによる高品位アナログ出力

HDMIの高品位出力に加え、アナログコンポーネント出力の映像品位にも特に配慮しています。
アナログ映像回路では、14ビット/297 MHzの映像D/Aコンバーターを採用。HD映像で297 MHzの4倍オーバーサンプリング、SD映像で216 MHzの16倍オーバーサンプリングを行います。補間データが生成されることで、より細やかで精度の高いD/A変換が行えます。
D/A変換後に不要帯域をカットするローパスフィルターには、Super Sub-Alias Filter (SSAF)™ を採用。このフィルターは、一般的なローパスフィルターで不要帯域に発生していた折り返しノイズをほとんど除去でき、鮮明な映像を実現しています。また、通過帯域内ではフラットな特性のため、解像度の高い映像が楽しめます。

独立ビデオ基板設計

オーディオ回路とは独立した、ビデオ専用の回路基板を使用しています。ビデオ基板とオーディオ基板を分離することで、相互の干渉を排除しています。
また、このビデオ基板では多層基板を採用し、あらゆる信号の基準となるグラウンド電位を安定化させ、周波数が高く高速処理が求められるHD信号で安定した高画質の基礎を築いています。

高音質のためのテクノロジー

本機の高音質を実現するテクノロジーの一部を紹介します。

プレシジョンクロックコンディショナー

HDMIによるデジタル音声伝送では、映像信号の隙間に音声信号と信号フォーマット情報を挿入して伝送するシステムになっています。そのため、時間軸を管理する映像クロック信号の精度により、音質が左右されます。本機では、厳しい特性が要求される移動体通信の基地局用の信号復調用回路として開発されたLSIを使用し、送り出しのHDMIクロック信号の精度を大幅に向上しました。

独立した7.1チャンネルオーディオ出力

本機は「ドルビー TrueHD」や「DTS-HD」といったロスレス（可逆型）のサラウンド音声デコーダーを搭載し、7.1チャンネルのアナログ信号として出力できます。
高品位なアナログ音声出力のために、アナログオーディオ回路は独立した基板構成とし、ビデオ系やサーボ制御系との干渉を排除しています。
また、アナログオーディオ回路へのデジタルノイズの干渉を抑えるため、磁束漏洩と振動が少なく音質の優れた大容量Rコアトランスをアナログ回路専用に搭載しています。

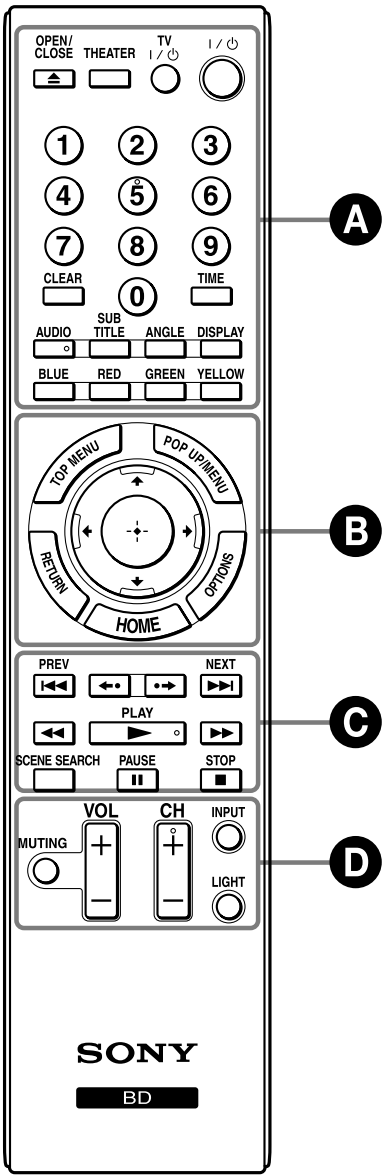
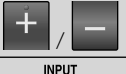
FBシャーシによる振動低減

振動はサーボ回路の負担を増し、電源を不安定にさせ、画質や音質に悪影響を与えます。本機は、外部からの振動と、メカ部をはじめとする内部からの振動の両方から回路を守るために、FB（Frame and Beam）シャーシを採用しました。外周を取り囲むフレーム（Frame＝枠）と前後に渡したビーム（Beam＝梁）で、シャーシ全体を一つのボックスとして強固に固めました。異なる形状と厚みの素材を組み合わせることで、固有振動を相互に打ち消し、シャーシ全体としての強度を上げながら、振動を低減しています。

各部の名前

リモコン

リモコンのボタンは本体の同じ名前のボタンと同じ働きをします。
＊のボタンには凸(突起)がついています。(数字ボタンは「5」のみ、CH＋/－ボタンは「＋」のみ)。操作の目印としてお使いください。
各ボタンの説明は(　)内のページをご覧ください。

A 表示切り換え・テレビ操作部

ボタン	説明
OPEN/CLOSE	**ディスクトレイ開/閉(35)** ディスクトレイを開閉します。
THEATER	**シアター（20）** テレビと本機の映像を映画の視聴に最適な画質に設定します。また音声はAVアンプからの出力に自動的に切り換わります。 元の設定に戻すときは、再度ボタンを押してください。 この機能を利用するには、本機をHDMIケーブルでブラビアリンク対応のテレビやAVアンプにつなぎ、HDMI機器制御の設定をしてください。
TV I/⏻	**TV電源(34)** テレビの電源を入れる、またはスタンバイ状態にします。
I/⏻	**電源(30)** 本機の電源を入れる、またはスタンバイ状態にします。
1～0	**数字ボタン**＊(34、38、57) チャプター番号などを入力します。
CLEAR	**クリア(38、58)** 入力内容を消去します。
TIME	**時間表示(15)** 再生している映像の経過時間または残り時間を本体表示窓に表示します。ボタンを押すたびに、経過時間と残り時間が切り換わります。
AUDIO	**音声切換**＊(53) 視聴しているBDやDVDにセリフが複数の言語で録音されている場合、言語を選べます。 CDでは音声トラックを選べます。
SUB TITLE	**字幕切換(53)** 視聴しているBDやDVDに字幕が複数の言語で記録されている場合、言語を選べます。
ANGLE	**アングル** 視聴しているBDやDVDに他のアングルからの映像が記録されている場合、映像が切り換わります。
DISPLAY	**画面表示(38)** ディスクの種類や再生時間などの各種情報を画面に表示します。
BLUE RED GREEN YELLOW	**カラーボタン(37、58)** Javaを利用したコンテンツの操作や通信設定時の文字入力画面で使用します。またBDによっては各種メニューへショートカットできます。

Ⓑ画面操作部

ボタン	説明
	トップメニュー（8、37） BDやDVDのトップメニューを表示または閉じます。
	ポップアップ/メニュー（8、37） BDのポップアップメニューやDVDのメニューを表示または閉じます。
	オプション(8、36、41、42) 表示画面で使用できるオプション機能を画面に表示または閉じます。
	ホーム(8、44) ホームメニューを表示します。CDのときにもう一度押すとホームメニューを閉じます。
	戻る ホームメニューや操作画面でひとつ前の画面に戻ります。
	↑↓←→/決定(8) 上下左右に動かして項目を選び、決定ボタンを押して決定します。

Ⓒ再生操作部

ボタン	説明
PREV NEXT	**前/次** 前または次のチャプター／トラック／ファイルの先頭に進みます。
	フラッシュ 少し前に戻る、または少し先に進みます。
	早戻し/早送り 再生中に押すと早送り再生または早戻し再生します。押すたびに次のように速さが切り換わります。 早送り： ▶▶1（10倍）→ ▶▶2（30倍）→ ▶▶3（120倍） 早戻し： ◀（1倍）→ ◀◀1（10倍）→ ◀◀2（30倍）→ ◀◀3（120倍） ボタンを押し続けると、離すまで選んだ速さで再生します。 • 速さの数値はおおよそのものです。 • CDの速さは1段階です。 通常の再生に戻すには、PLAY（再生）ボタンを押します。
PLAY	**再生*(35)** 再生します。 前回STOP（停止）ボタンを押した位置からつづけて再生できます（つづき再生）。 JPEG形式の画像ファイルが記録されているディスクのときにボタンを押すと、スライドショー再生します。
SCENE SEARCH	**シーンサーチ(37)** 再生中のタイトル内ですばやく場面を移動できる「シーンサーチ」に切り換えます。
PAUSE	**一時停止(35)** 一時停止または再生を再開します。
	停止(35) 停止すると同時に停止した位置を記憶します。再開する位置は、動画では最後に停止した位置、音楽では最後に再生したトラック、写真では最後に再生した写真ファイルになります。

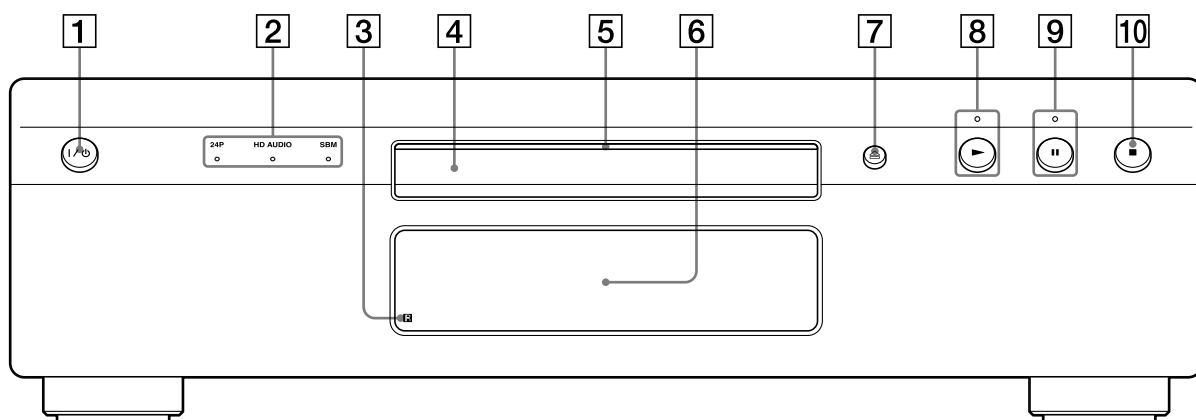
Ⓓテレビ操作部

ボタン	説明
MUTING	**消音(34)** テレビの音声を消します。
VOL +/–	**音量+/–(34)** テレビの音量を調節します。
CH +/–	**チャンネル+*/–(34)** テレビのチャンネルを選びます。
INPUT	**入力切換(34)** テレビの入力を切り換えます。
LIGHT	**ライト** 押すとⒷとⒸのボタン(↑↓←→/決定を除く)が点灯します。暗い場所での操作時に便利です。

次のページにつづく⇨

本体

本体のボタンはリモコンの同じ名前のボタンと同じ働きをします。
各部の説明は（ ）内のページをご覧ください。

本体前面

1 I/⏻（電源）ボタン（30）
本機の電源を入れる、またはスタンバイ状態にします。

2 24Pランプ（47）
映画フィルムと同じ毎秒24コマの映像が収録されたBD-ROMを、1080/24pの映像方式に対応したテレビに出力したとき点灯します。

HD AUDIOランプ（70）
BDを再生中、次の場合に点灯します。
- 再生タイトルのオーディオコーデックが、ドルビーデジタルプラス、ドルビー TrueHD、DTS-HD High Resolution、DTS-HD Master Audioのとき
（コアデコードのときは点灯しません。）
- 再生タイトルのオーディオコーデックが、LPCM 3ch以上またはLPCM 2ch 192 kHz のとき

SBM（Super Bit Mapping）ランプ（48）
「ビデオ設定」の「SBM」が「入」（初期設定）で、映像信号をHDMI OUT端子から出力しているときに点灯します。

3 リモコン受光部（17）

4 ディスクトレイ（35）

5 BDランプ
本機がBDを認識したとき点灯します。

ちょっと一言
はじめて本機の電源を入れたとき、かんたん設定が完了するまでランプが点灯します。

6 表示窓（15）

7 ⏏（開/閉）ボタン（35）
ディスクトレイを開閉します。

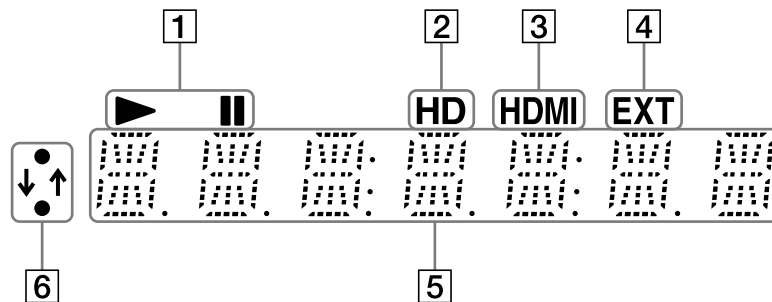
8 ►（再生）ボタン（35）
ディスクを再生します。
再生中はランプが点灯します。

9 ❚❚（一時停止）ボタン（35）
ディスクを一時停止します。
一時停止中はランプが点灯します。

10 ■（停止）ボタン（35）
ディスクを停止します。

ディスクトレイをロックする（チャイルドロック）

誤ってディスクトレイを開けないようにロックできます。
ディスクトレイをロックするには、本機の電源を入れて、本体表示窓に［LOCKED］と表示されるまで本体の ❚❚（一時停止）ボタンを10秒以上押し続けます。
ロックを解除するには、本体表示窓に［UNLOCK］と表示されるまで本体の ❚❚（一時停止）ボタンを押し続けます。

本体表示窓

1 再生一時停止表示
それぞれのディスクの再生/一時停止動作を表示します。

2 HD表示（47）
HDMI OUT端子から720p/1080i/1080pの映像信号が出力されているとき、またはD1/D2/D3/D4 VIDEO OUT端子、COMPONENT VIDEO OUT端子から720p/1080iの映像信号が出力されているときに点灯します。

3 HDMI表示（19）
HDMI機器との接続が認識されたとき点灯します。

4 EXT表示（26）
外部メモリーを認識したとき点灯します。

5 再生情報表示
再生時間などの情報を確認できます。
TIME（時間表示）ボタンを押すたびに、表示は次のように変わります。

- BD-ROM/DVD再生時
  再生中のタイトルの経過時間
  ↓
  再生中のタイトルの残り時間
- CD再生時
  再生中のトラックの経過時間
  ↓
  再生中のトラックの残り時間
  ↓
  再生中のディスクの経過時間
  ↓
  再生中のディスクの残り時間

ちょっと一言

再生するディスクの種類によって、[T]（タイトルまたはトラック）や[C]（チャプター）、[D]（ディスク）のいずれかが表示されます。

6 通信表示
ソフトウェアをダウンロードしているとき点灯します。
ソフトウェアのダウンロードについては、45ページをご覧ください。

表示窓の表示文字

使用状況によって表示される内容は異なります。下記は表示窓に表示される文字の一例です。

ディスクが入っていないとき

NO DISC

対応していないディスクを入れたとき

UNKNOWN

ディスクがエラーで読み込めないとき

CANNOT

ロック設定されたBD-REやBD-Rを読み込み中のとき（36ページ）

D. LOCKED

データをダウンロード中のとき

DL 1/9

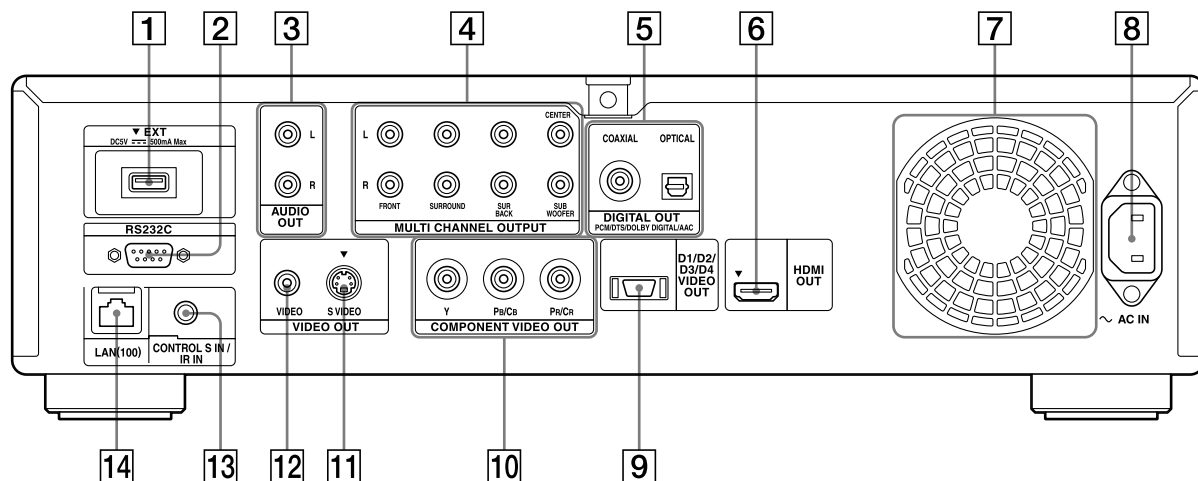
ソフトウェアをアップデート中のとき

VUP 1/9

ディスクを読み込み中のとき

LOAD

次のページにつづく⇨

本体後面

1 EXT（外部メモリー）スロット（26）

2 RS232C端子
保守、サービス用です。

3 AUDIO OUT L/R
音声出力左/右端子（21、22、25）

4 MULTI CHANNEL OUTPUT
マルチチャンネル出力端子（25）

5 DIGITAL OUT（COAXIAL/OPTICAL）
デジタル音声出力（同軸/光）端子（24）

6 HDMI OUT
HDMI出力端子（19、24）

7 通気口
内側に冷却ファンがあります。

8 AC IN
電源入力端子（30）

9 D1/D2/D3/D4 VIDEO OUT
D1/D2/D3/D4映像出力端子（21）

10 COMPONENT VIDEO OUT
（Y, PB/CB, PR/CR）
コンポーネント映像出力端子（21）

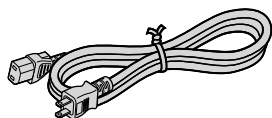
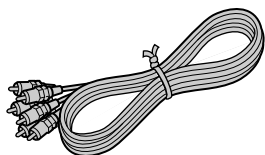
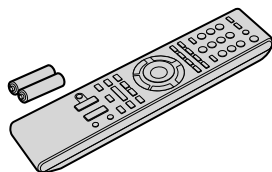
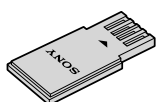
11 S VIDEO OUT
S映像出力端子（22）

12 VIDEO OUT
映像出力端子（22）

13 CONTROL S IN
コントロールS入力/IR入力端子
コントロールS対応のソニー製テレビやAVアンプのコントロールS端子（出力）とコントロールSケーブル（別売り）でつなぎます。詳しくはテレビやAVアンプの取扱説明書をご覧ください。

14 LAN（100）端子（27）

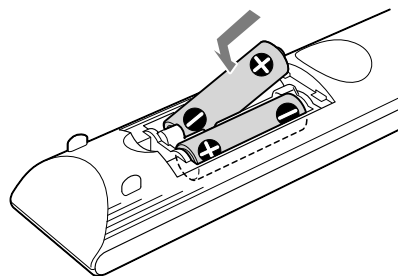
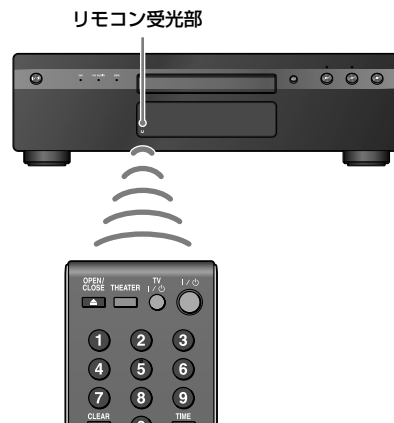
［準備1］付属品を確認する

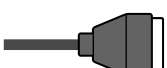
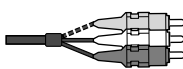
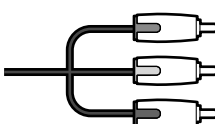
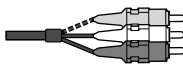
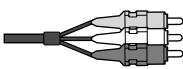
箱を開けたら、付属品が揃っているか確かめてください。

電源コード（1本）

映像/音声ケーブル（1本）

リモコン（1個）と
単3形（R6）乾電池（2個）

外部メモリー（1個）

取扱説明書（本書）
保証書
ソニーご相談窓口のご案内
（各1部）

付属品の確認が終わったら、［準備2］から［準備7］の手順にしたがって本機を準備してください。そのとき電源コードは必ず、すべての接続が終わってからつないでください（「［準備6］電源コードをつなぐ」（30ページ））。

リモコンを準備する

付属のリモコンで本機を操作できます。
リモコンに単3形（R6）乾電池（付属）を2個入れます。
⊕と⊖の向きをリモコンの表示に合わせます。

リモコンを使うときは、リモコンを本体のリモコン受光部 🅁 に向けて操作します。

ご注意

付属の電源コードは、本機専用です。他の電気機器では使用できません。

［準備2］テレビにつなぐ

テレビの種類やつなぎかたによって再生できる画質（映像解像度）が異なります。お使いのテレビの入力端子をご確認のうえ、つなぎかたを選んでください。テレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。
テレビにHDMI入力端子がある場合は、HDMIケーブルでつなぐと高画質・高音質でお楽しみいただけます。
映像解像度について詳しくは、「映像の解像度について」（68ページ）をご覧ください。

映像解像度	ケーブル	
ハイビジョン画質 HD：1080/24p、1080p、1080i、720p 標準画質 SD：480p、480i	**別売り** HDMIケーブル（1本） 	➡ **HDMIケーブルでつなぐ（19ページ）**
ハイビジョン画質 HD：1080i、720p 標準画質 SD：480p、480i	**別売り** D映像ケーブル（1本） **付属** 映像／音声ケーブル（1本） 	➡ **D映像ケーブルでつなぐ（21ページ）**
ハイビジョン画質 HD：1080i、720p 標準画質 SD：480p、480i	**別売り** コンポーネント映像ケーブル（1本） **付属** 映像／音声ケーブル（1本） 	➡ **コンポーネント映像ケーブルでつなぐ（21ページ）**
標準画質 SD：480i	**別売り** S映像ケーブル（1本） **付属** 映像／音声ケーブル（1本） 	➡ **S映像ケーブルまたは映像ケーブルでつなぐ（22ページ）**

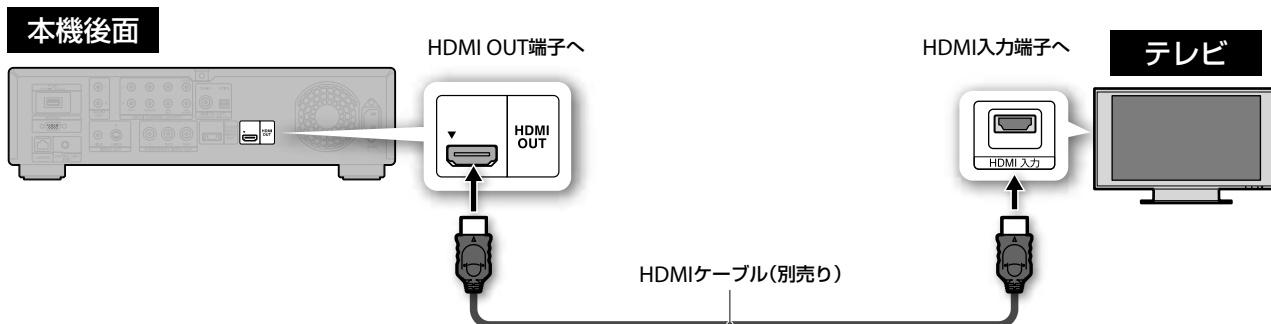
ご注意

- 映像入力端子がないテレビには接続できません。
- つないでいるケーブルに無理な力を加えないでください。本機と壁の間にはさまれると、ケーブルが損傷することがあります。

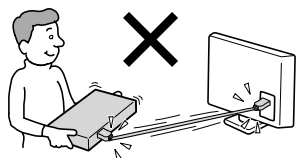
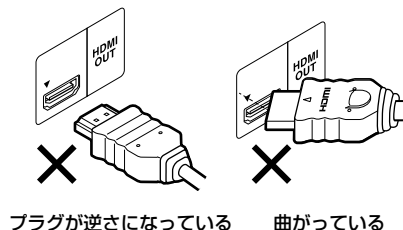
HDMIケーブルでつなぐ HD SD

HDMIケーブル(別売り)1本で映像と音声を出力できます。デジタルで劣化の少ない高精細映像と音声が楽しめます。

HDMI機器制御やブラビアリンク対応のソニーのテレビとつなぐときは、「HDMI機器制御を利用する」または「ブラビアリンクを利用する」(20ページ)もあわせてご覧ください。

1080/24pの映像方式に対応しているテレビとつなぐと、1080/24p True CinemaでBD-ROMの映画を楽しめます(9ページ)。

HDMI端子につなぐときのご注意

次のような場合、HDMI端子やコネクターを破損させるおそれがありますのでご注意ください。

- 本機を移動させるときは、必ずHDMIケーブルを抜いてください。

- 本機を台などに設置する場合、キャビネットの壁に向けて力を加えないでください。HDMI端子やケーブルが破損することがあります。
- ケーブルを差し込むときは、HDMI端子とコネクターの形や向きに注意してください。
- HDMIケーブルを抜き差しするときは、コネクターをねじったり回したりしないでください。

DVI入力端子のあるテレビにつなぐには

HDMI-DVI変換ケーブル(別売り)を使います。DVI端子は音声信号を受け付けないため、別途に音声接続をする必要があります(23ページ)。ただし、本機のHDMI OUT端子をHDCPに準拠していないDVI端子(PCディスプレイのDVI端子など)につなぐことはできません。

ご注意

- HDMIの接続機器の認証には時間がかかるため、映像や音声が途切れる場合があります。
- すべてのハイビジョンテレビとの互換性を保証するものではありません。つないでいるテレビによっては映像が乱れることがあります。480i/480p/720p/1080i/1080pの解像度で映像が正しく表示されない場合は、他の映像端子への接続をお試しください。ハイビジョンテレビと本機の互換性について不明な点がありましたら、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。
- HDMIケーブルでつなぐときは[映像設定]の[出力映像解像度設定]から[HDMI]を[自動]に設定してください(47ページ)。映像が不自然または不鮮明なとき、お好みに合わないときは、解像度を変更してください。
- HDMIケーブルはHDMIロゴの入っているものを使用してください。
- HDMI出力で1080p、Deep Color(48ページ)を楽しむ場合はハイスピードタイプのHDMIケーブルを使用してください。

次のページにつづく⇨

HDMI機器制御を利用する

HDMI機器制御対応のソニー製テレビと本機をHDMIケーブル(別売り)でつなぐと、それぞれの機器間で連動した操作ができるようになります。

HDMI機器制御とは

HDMI機器制御は、HDMIで規格化されているHDMI CEC (Consumer Electronics Control)を使った機器間相互制御の機能です。
ソニーのHDMI機器制御対応のテレビやAVアンプなどをHDMIケーブルでつなぐと、それぞれの機器間で連動した操作ができるようになります。3台までの機器を制御できます。

HDMI機器制御機能を使うには

1 **本機とテレビをHDMIケーブルでつなぐ。**
接続方法については19ページをご覧ください。

2 **つないだ機器でHDMI機器制御の設定をする。**
手順**1**でHDMI機器制御設定連動に対応しているソニー製テレビにつないだ場合は、本機の電源を入れてからテレビのHDMI機器制御設定を有効にしてください。テレビのHDMI機器制御を有効にすると、本機のHDMI機器制御設定も自動的に[入]になります。詳しくは、お使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。
本機の設定については[本体設定]の[HDMI機器制御](56ページ)をご覧ください。
テレビ側の設定方法については、お使いのテレビの取扱説明書をご覧ください。

HDMI機器制御でできること

- リモコンでテレビの電源を切ると、連動して本機の電源も切ることができます(本機の電源を切っても、テレビの電源は入ったままです)。
- 本機で下記ボタンを押すと、テレビの電源が自動的に入り、テレビの入力が本機をつないでいる入力に自動的に切り換わります。
  – I/⏻ (電源)
  – HOME (ホーム)
  – PLAY (再生)
- テレビの入力を選ぶだけで、本機の電源が入ります。

ブラビアリンクを利用する

ブラビアリンクのリンクメニューに対応しているソニーのテレビに本機をHDMIケーブル(別売り)でつなぎ、本ページのHDMI機器制御の設定をすれば、テレビのリモコンで連動操作ができます。

THEATER (シアター)ボタンを使う

テレビと本機の映像を映画の視聴に最適な画質に設定します。
またブラビアリンク対応のAVアンプにつないでいる場合は、音声はAVアンプからの出力に自動的に切り換わります。元の設定に戻すときは、再度ボタンを押してください。

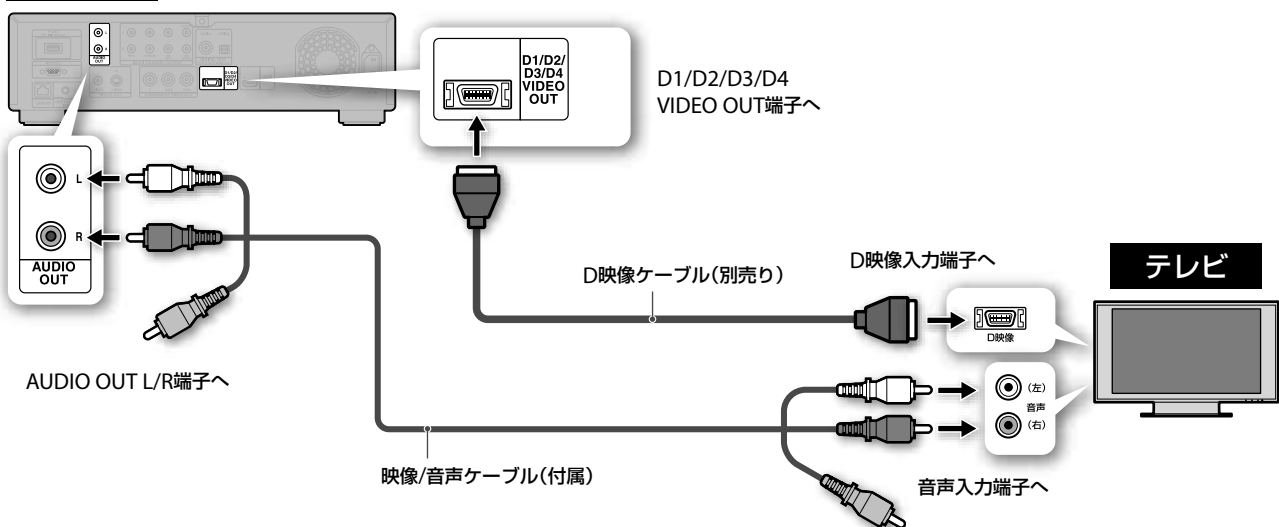
その他、テレビのリモコンでブラビアリンク対応機器を操作する方法については、お使いのブラビアリンク対応テレビの取扱説明書をご覧ください。

お客様からよくあるブラビアリンクについてのお問合わせと解決方法については、以下のホームページで確認できます。
http://www.sony.co.jp/faq/BD/

ご注意

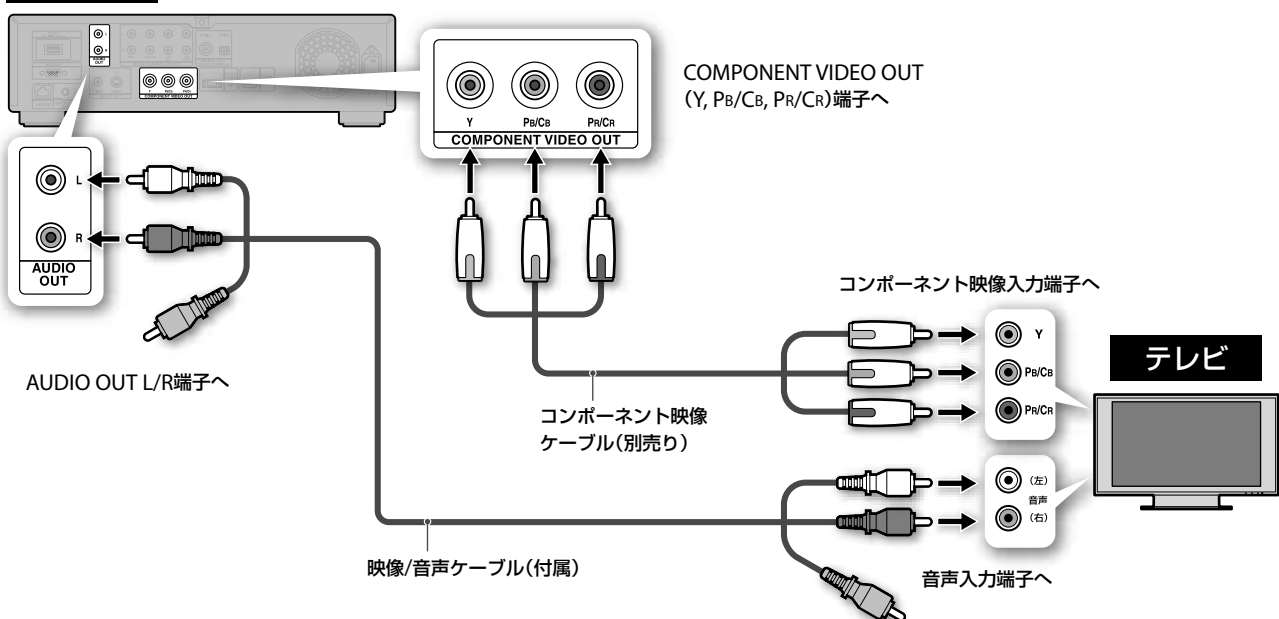
- つなぐ機器によってはHDMI機器制御が働かないことがあります。つなぐ機器の取扱説明書もご覧ください。
- ソニー製ブルーレイディスクレコーダーはリモコンモードが3つありますが(BD1、BD2、BD3)、本機のリモコンモードはBD1に固定されています。

D映像ケーブルでつなぐ HD SD

D映像ケーブル（別売り）1本でコンポーネント映像を出力でき、映像本来の色を忠実に再現します。
D映像ケーブルの接続だけでは音声が出力されません。音声ケーブルを必ずつないでください。

本機後面

コンポーネント映像ケーブルでつなぐ（Y, PB/CB, PR/CR） HD SD

コンポーネント映像ケーブル（別売り）でコンポーネント映像を出力でき、映像本来の色を忠実に再現します。
コンポーネント映像ケーブルだけでは、音声が出力されません。音声ケーブルを必ずつないでください。

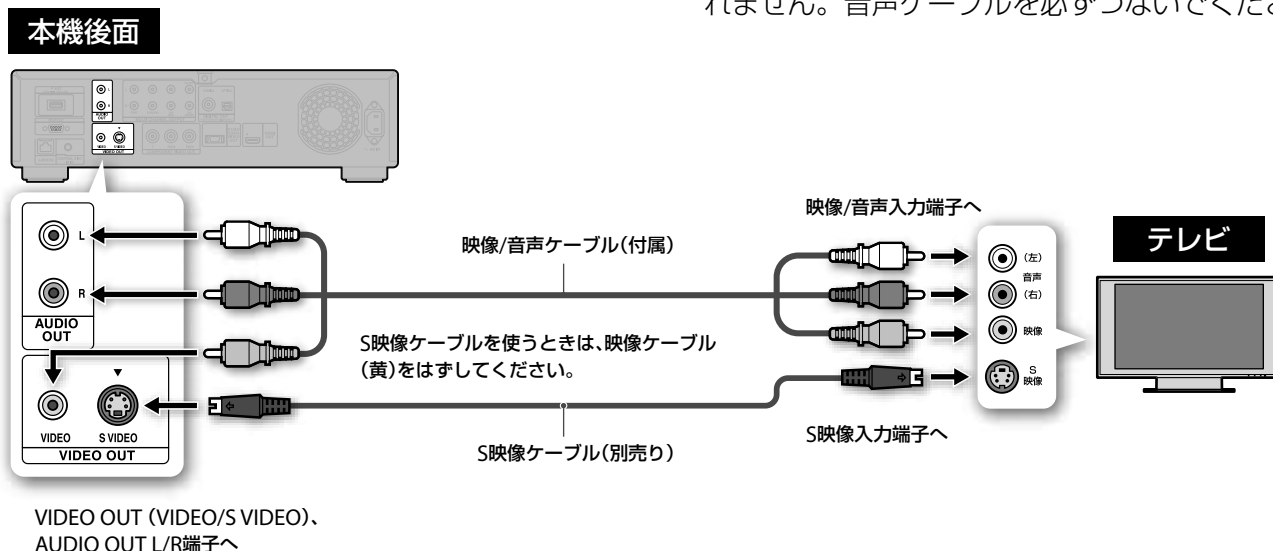
本機後面

ご注意

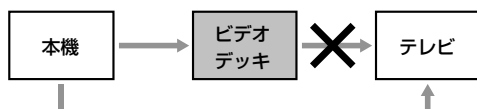
［出力映像解像度設定］で［自動］または［1080p］の解像度を選んでいるときは、D1/D2/D3/D4 VIDEO OUT端子やCOMPONENT VIDEO OUT端子から映像信号が出力されないことがあります（47、69ページ）。

次のページにつづく⇨

S映像ケーブルまたは映像ケーブルでつなぐ SD

標準画質が楽しめます。S映像ケーブル（別売り）を使うと、付属の映像ケーブル（黄）よりきれいな映像が楽しめます。出力信号は480i固定となります。S映像ケーブルや映像ケーブルだけでは音声が出力されません。音声ケーブルを必ずつないでください。

VIDEO OUT（VIDEO/S VIDEO）、AUDIO OUT L/R端子へ

ご注意

- 本機はテレビに直接つないでください。本機からビデオデッキなどを経由してテレビに信号を出力すると、映像が乱れる場合があります。

- 本機はS1映像に対応しています。
- ［出力映像解像度設定］で［自動］または［1080p］の解像度を選んでいるときは、S VIDEO OUT端子やVIDEO OUT端子から映像信号が出力されないことがあります（47ページ）。

［準備3］AVアンプにつなぐ

再生したい音声の種類により、AVアンプの種類や必要なケーブルが異なります。次の中から再生したい音声に必要なAVアンプとケーブルを確認してください。

BDの高音質を楽しむ場合は、[音声設定]の[BD音声設定]で[ダイレクト]を選んでください。セカンダリーオーディオ、インタラクティブオーディオを楽しむ場合は[ミックス]を選んでください。お買い上げ時は[ミックス]に設定されています(51ページ)。

音声フォーマットについて

再生するBDやDVDが対応しているかについては、BDやDVDのパッケージの裏側で確認できます。

ドルビーデジタル*1、DTSまたはAACデコーダー付きAVアンプに光デジタル接続ケーブルでつないでいる場合は、本機の[音声設定]の[ドルビーデジタル]、[DTS]、または[AAC]の設定を変更してください(51、52ページ)。

*1 ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

*2 DTSはDTS, Inc.の登録商標です。そして、DTS-HD Master AudioはDTS, Inc.の商標です。

*3 [BD音声設定]を[ダイレクト]に設定すると、AVアンプでデコードした音声を楽しめます。

*4 音声ケーブルでつなぐ場合、マルチチャンネル入力(7.1チャンネル)のあるAVアンプが必要です。

7.1チャンネル音声でBDを楽しみたい

5.1チャンネル音声でBDやDVDを楽しみたい

ステレオ音声でBDやDVDを楽しみたい

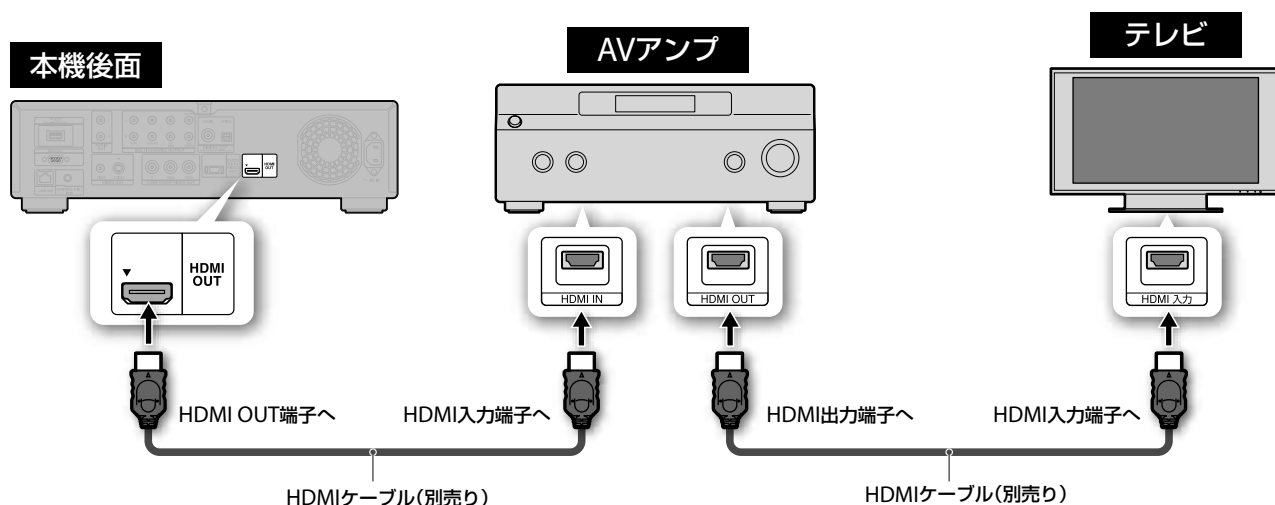
ちょっと一言

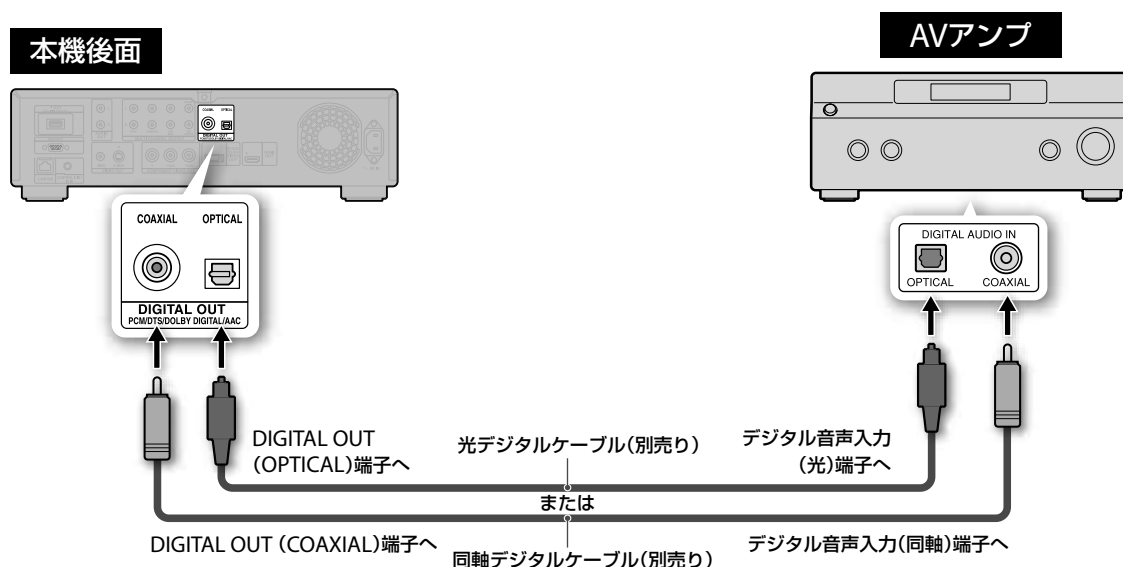
音声出力の詳細については、「音声出力信号について」(70ページ)をご覧ください。

ご注意

- AVアンプによって、音声入力端子や再生できる音声が異なります。接続するAVアンプの取扱説明書もあわせてご覧ください。
- 選んだ音声信号に適合していない機器につないだ場合、音が出ない、またはスピーカーから大音量が出てスピーカーや聴力を損なうおそれがあります。

次のページにつづく⇨

HDMIケーブルでつなぐ

本機とAVアンプをHDMIケーブルでつないだ場合は、AVアンプとテレビをHDMIケーブルでつなぎます。テレビにHDMI入力端子がない場合は、別の映像ケーブルで本機とテレビを直接つなぎます（18ページ）。7.1チャンネル音声を楽しむ場合は、ハイスピードタイプのHDMIケーブルをご使用ください。

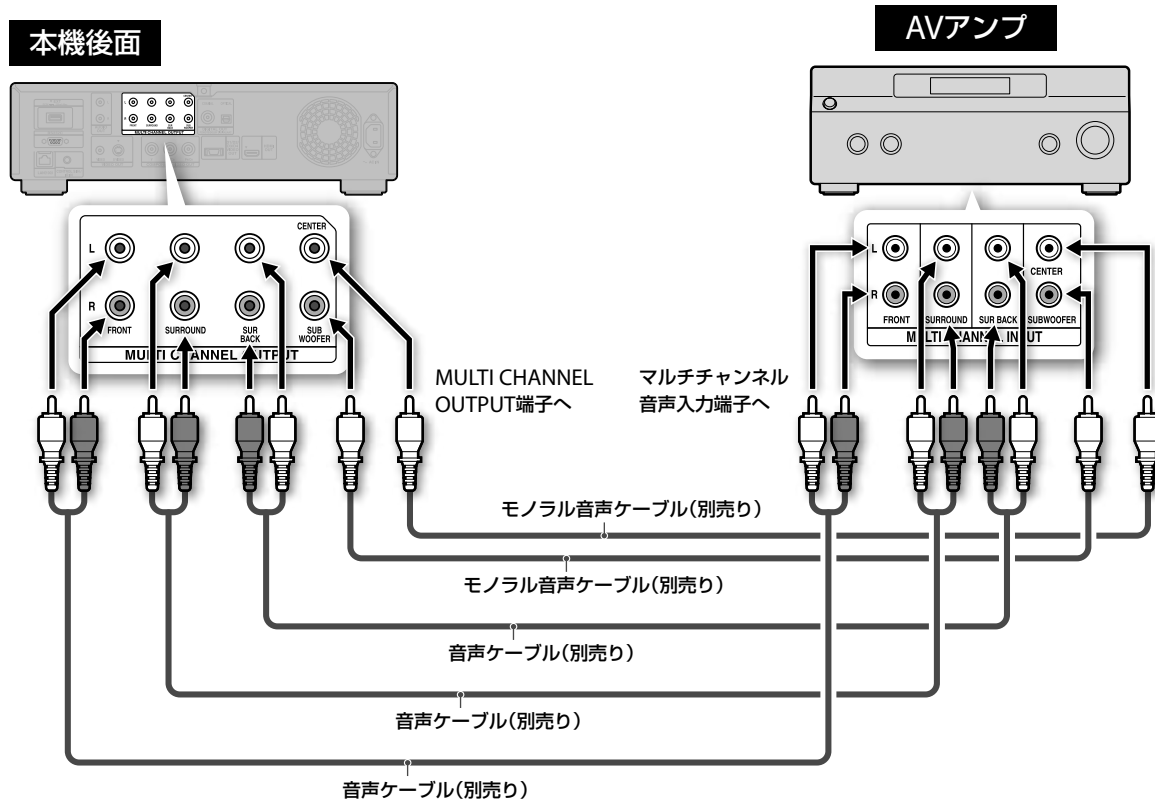
光デジタルケーブルまたは同軸デジタルケーブルでつなぐ

1 **光デジタルケーブルまたは同軸デジタルケーブルで本機とAVアンプをつなぐ。**

2 **ホームメニューで［音声設定］→［優先音声端子］→［デジタル音声］の順に選ぶ（49ページ）。**

3 **［音声設定］の［ドルビーデジタル］と［AAC］、［DTS］を設定する（51、52ページ）。**
これらの手順が正しく設定されていない場合、音が出ない、または大音量が出ることがあります。

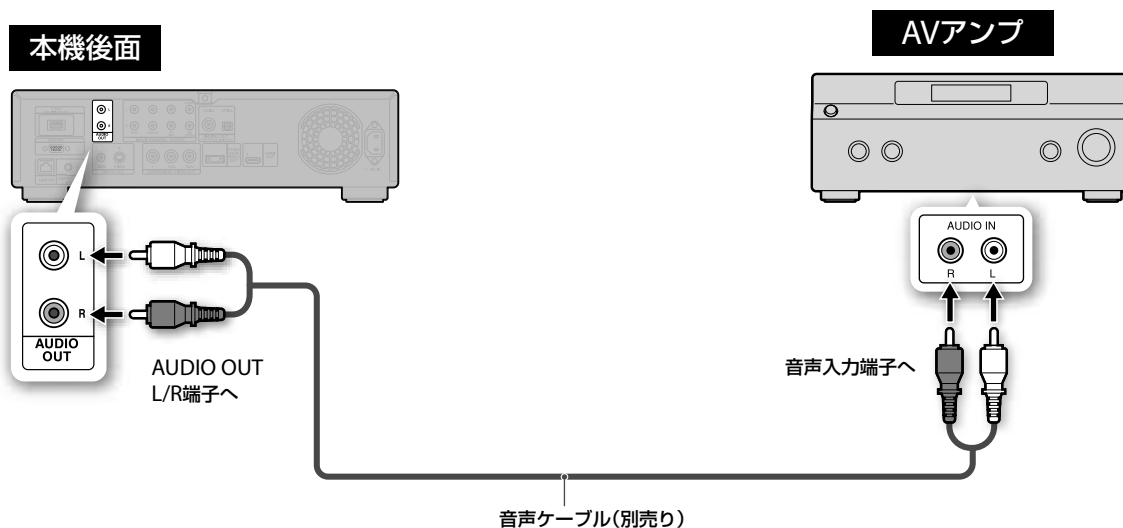
ご注意

一部のHDMI対応AVアンプで7.1チャンネルリニアPCM信号に対応していないことがあります。つないだAVアンプの取扱説明書をご確認ください。

音声ケーブルでつなぐ(7.1チャンネル)

1 音声ケーブルおよびモノラル音声ケーブルで本機とAVアンプをつなぐ。

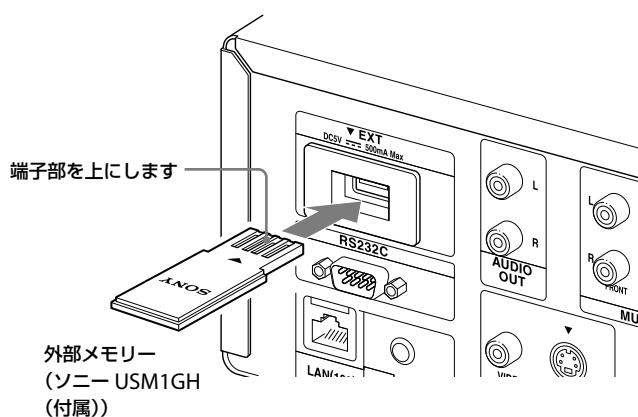
2 ホームメニューで[音声設定]→[優先音声端子]→[マルチチャンネル音声]の順に選ぶ(49ページ)。

3 [音声設定]の[スピーカー設定]を設定する(49ページ)。

音声ケーブルでつなぐ

［準備4］外部メモリーを差し込む

本機をインターネットに接続のうえ、「BonusView（ボーナスビュー）」や「BD-Live（BDライブ）」に対応したディスクを再生すると、追加のコンテンツを楽しめます。追加コンテンツの中にはダウンロードサービスもあり、EXTスロット（挿入口）に差し込んだ付属の外部メモリーをローカルストレージ"local storage"として、コンテンツをダウンロードできます。

外部メモリーと本機の▼の位置を合わせて、EXTスロット（挿入口）の奥までしっかりと差し込みます。

電源を入れたときに、本体表示窓のEXT表示が点灯していることをご確認ください。

外部メモリーを取りはずすには

1 I/⏻（電源）ボタンを押して、電源を切る。

2 EXTスロット（挿入口）から外部メモリーを取りはずす。

ご注意

- 外付けハードディスクなど、USBフラッシュメモリー以外のものをEXTスロット（挿入口）に差し込まないでください。
- 外部メモリーはEXTスロット（挿入口）に向けてまっすぐに差し込んでください。無理に差し込んだ場合、本機と外部メモリーが破損するおそれがあります。
- 小さなお子様のいるところに外部メモリーを放置しないでください。誤って飲み込んでしまうおそれがあります。
- 外部メモリーに無理な力を加えないでください。故障の原因となります。
- ソニー製外部メモリーの使用をおすすめします。
- USM1GH以外の外部メモリーも本機能に対応していることがあります。ただし、すべての外部メモリーとの互換性を保証するものではありません。
- USM1GH以外の外部メモリーを使用するときは、向きを確認してから差し込んでください。
- 外部メモリーによっては、EXTスロット（挿入口）からはみ出すことがあります。スロットに無理やり押し込んだり、はみ出した部分に無理な力を加えないでください。
- 外部メモリーを抜き差しするときは、必ず本機の電源を切ってから行ってください。外部メモリーやメモリー内のデータが破損するおそれがあります。
- 外部メモリー内のデータが破損・消滅した場合など、いかなる場合においても、記録内容の補償およびそれに付随するあらゆる損害について、当社は一切責任を負いかねます。また、いかなる場合においても、当社にて記録内容の修復はいたしません。あらかじめご了承ください。
- 本体表示窓のEXT表示が点灯しない場合、本機の電源を切って、外部メモリーを差し直してから本機の電源を入れてください。
- 写真や音楽ファイルなどが入った外部メモリーを差し込まないでください。外部メモリーのデータが破損するおそれがあります。

［準備5］ネットワークにつなぐ

LANケーブルを使って、本機をインターネットにつなぐことで、ネットワーク経由で以下のことができます。

- ネットワーク経由で本機のソフトウェアをアップデートする（45ページ）。
- BD-Live（BDライブ）を楽しむ（37ページ）。

1 **LANケーブルで、本機とインターネット接続機器をつなぐ。**
インターネット接続方法には次のものがあります。
- LANケーブルを直接つなぐ場合
- 無線LANを経由してつなぐ場合

接続方法については、インターネット接続機器の取扱説明書もご覧ください。

2 **［通信設定］の［ネットワーク設定］（57ページ）を設定してください。**

LANケーブルを使うときは

- LANケーブルには、ストレートケーブルとクロスケーブルの2種類があります。
モデムやブロードバンドルーターなどの種類により、使用するケーブルの種類が異なります。詳しくは、モデムやブロードバンドルーターの取扱説明書をご覧ください。
- 100BASE-TXタイプのLANケーブルをお使いください。
詳しくは、モデムやブロードバンドルーターの取扱説明書をご覧ください。

ネットワーク経由でソフトウェアをアップデートするには

「ネットワークアップデート」（45ページ）と「ソフトウェアアップデート通知」（56ページ）をご覧ください。

BD-Live（BDライブ）を楽しむには

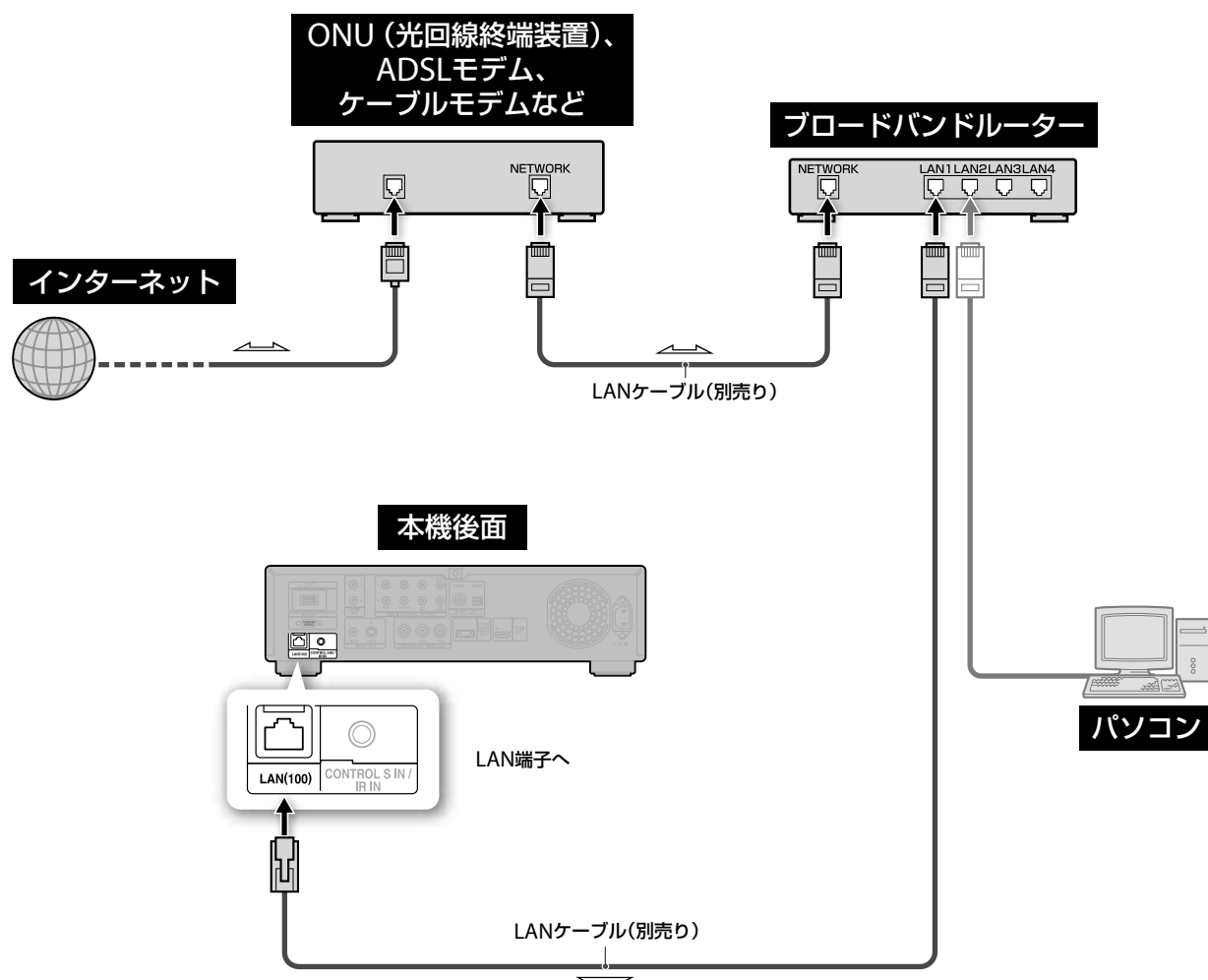
BD-Live（BDライブ）を楽しむには、接続環境やネットワークの状況によりますが、実効速度1Mbps以上の回線をおすすめします。
「BonusView（ボーナスビュー）やBD-Live（BDライブ）を楽しむには」（37ページ）をご覧ください。

ご注意

LAN端子に電話回線をつながないでください。誤ってつなぐと故障の原因になります。

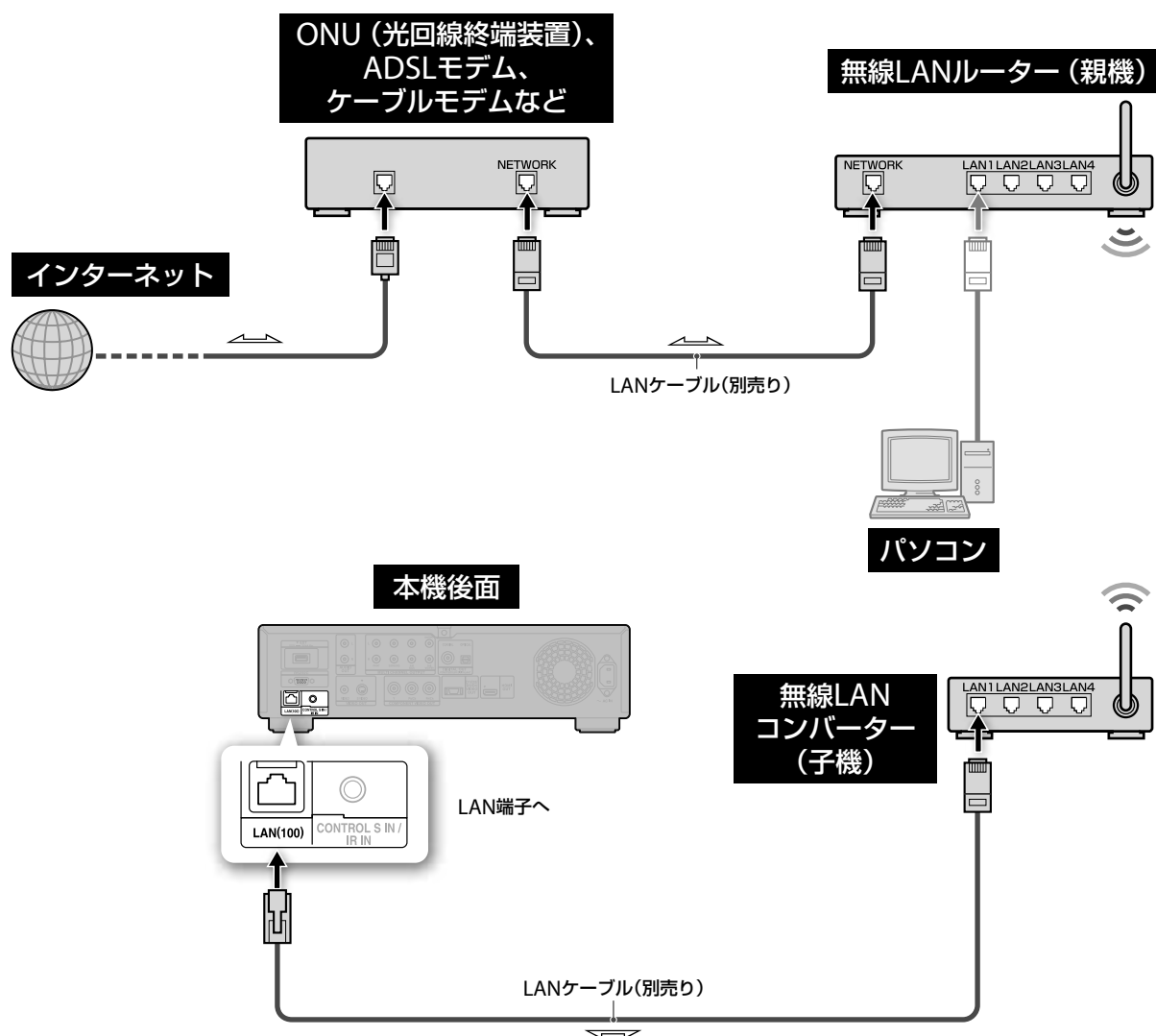
次のページにつづく⇨

LANケーブルでつなぐとき

LANケーブルでインターネットに接続する方法です。

ご注意

- モデムやブロードバンドルーターの設定は、それぞれの機器の取扱説明書をご覧のうえ行ってください。
- ご契約のプロバイダーによっては、モデムとブロードバンドルーターが一緒になった機器をご使用の場合もあります。
- 契約によっては、本機やパソコンなどの端末を複数台接続できないことがあります。ご利用の回線事業者へご確認ください。
- ご契約のプロバイダーによっては、PPPoE方式を採用している場合があります。この場合、PPPoE方式に対応したブロードバンドルーターが必要になります。詳しくは、プロバイダーにご確認ください。
- 本機にはウェブブラウザ機能が搭載されていないため、モデムやブロードバンドルーターなどの設定を本機から行うことはできません。
モデムやブロードバンドルーターなどの設定にはパソコンなどが必要になりますのでご注意ください。
- ブロードバンドルーターなどに装備されているLAN端子の数が接続する端末数より少ない場合は、ハブが必要となります。
- CATV（ケーブルテレビ）会社によっては、ブロードバンドルーターの接続を許可していない場合があります。
あらかじめCATV（ケーブルテレビ）会社にご確認ください。
- LANケーブルで本機とパソコンをつながないでください。

無線LAN経由でつなぐとき

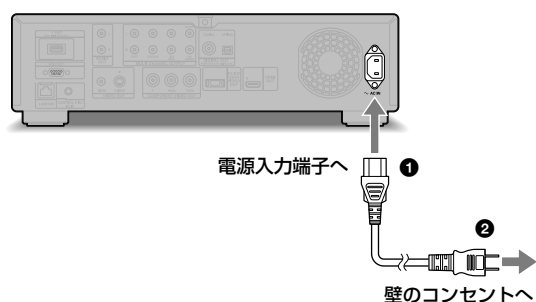
無線LANなどワイヤレスでインターネットに接続する方法です。

ご注意

無線LANルーターやコンバーターの設定は、それぞれの機器の取扱説明書をご覧のうえ行ってください。

［準備6］電源コードをつなぐ

電源コードは必ず、すべての接続が終わってからつないでください。

付属の電源コードを下図の❶、❷の順につなぎます。電源コードをつなぐと本機の表示窓に「WAIT」と点滅表示されます。表示が消えるまでそのまましばらくお待ちください。

本機後面

電源を入れる

電源を入れると、本体の表示窓は次のように表示されます。

を押して電源を「入」にすると

WELCOME

起動中

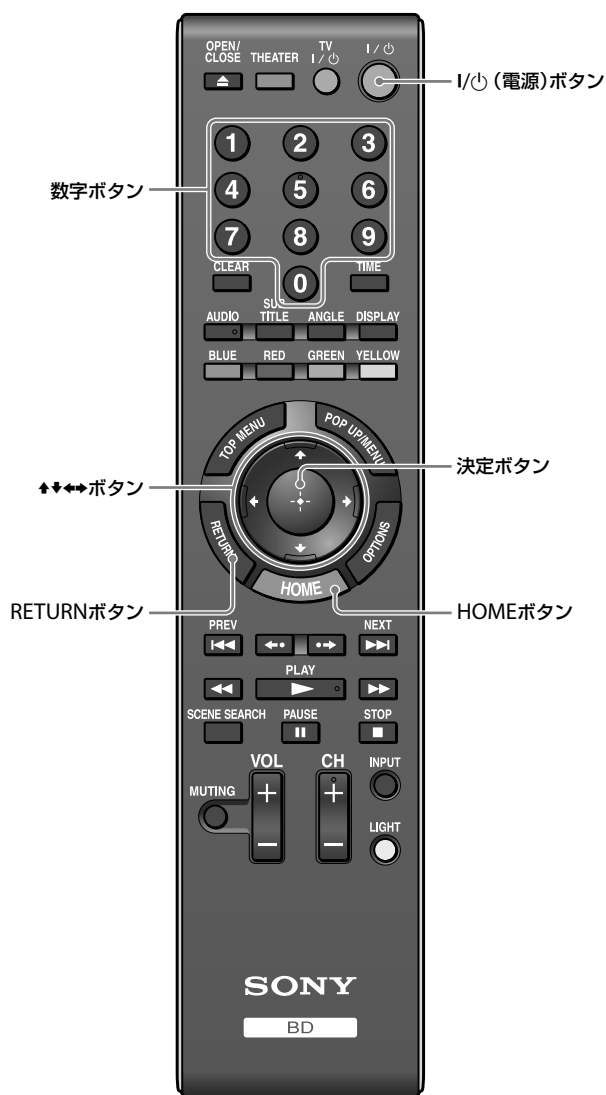
WAIT

「WAIT」は本機が起動するまで表示されます。
表示が消えるまで、お待ちください。
その他の表示については15ページをご覧ください。

ちょっと一言

、を押した場合にも、本機が起動します。

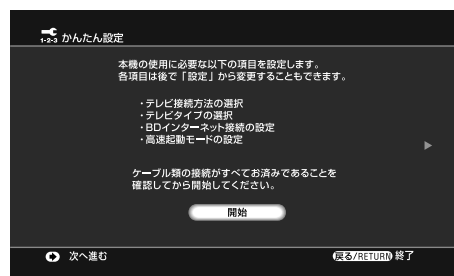
［準備7］かんたん設定をする

お買い上げ後、はじめて本機の電源を入れると、かんたん設定画面が表示されます。本機を使う前に必ず以下のかんたん設定を行ってください。本機とテレビの接続方式、テレビの解像度や、見えかたの調整などを行います。

1 **テレビの電源を入れ、本機の映像が映るようにテレビの入力を「ビデオ1」や「HDMI」などに切り換える。**

2 **I/⏻ を押す。**

かんたん設定画面が表示されます。
初めて本機の電源を入れたときは、起動するまでしばらく時間がかかります。
かんたん設定画面が表示されないときは、HOMEを押して 🧰 の［かんたん設定］を選びます。

3 **［開始］を選んで ⊕ を押す。**

かんたん設定画面が表示されないときは、手順**1**に戻り、テレビの入力が正しい入力になっているか確認してください。

ちょっと一言

- かんたん設定を正常に終了しないと、電源を入れるたびに、かんたん設定画面が表示されます。
- かんたん設定を正常に行うと、次に電源を入れたときにはかんたん設定画面が表示されません。再度設定し直すときは、HOME を押して 🧰 から［かんたん設定］を選んでください。
- 画面上に◀、▶が表示されているときは、←→ボタンで、前の画面/次の画面に移動できます。

ご注意

接続状態や設定内容によっては、表示されない画面があります。

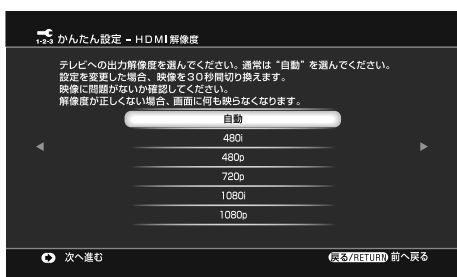
次のページにつづく⇨

4 本機とテレビを接続したケーブルを↑↓で選び、(+)を押す。

HDMI：HDMIケーブルで接続したときに選びます。
D映像またはコンポーネント映像：D映像ケーブルまたはコンポーネント映像ケーブルで接続したときに選びます。
映像またはS映像：映像ケーブルまたはS映像ケーブルで接続したときに選びます。

接続ケーブルに応じて、以下の手順へ進んでください。
[HDMI]の場合：手順5のⒶへ
[D映像またはコンポーネント映像]の場合：手順5のⒷへ
[映像またはS映像]の場合：手順6へ

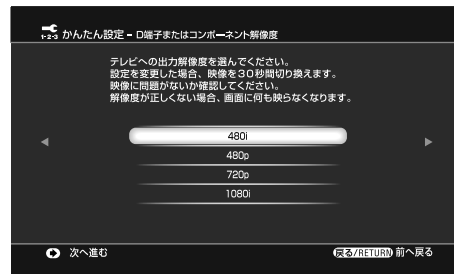
5 テレビへの出力解像度を↑↓で選び、(+)を押す。

Ⓐ 手順4で[HDMI]を選んだとき

自動：通常はこの設定にします。
480i：480i（525i）の映像信号を出力します。
480p：480p（525p）の映像信号を出力します。
720p：720p（750p）の映像信号を出力します。
1080i：1080i（1125i）の映像信号を出力します。
1080p：1080pの映像信号を出力します。

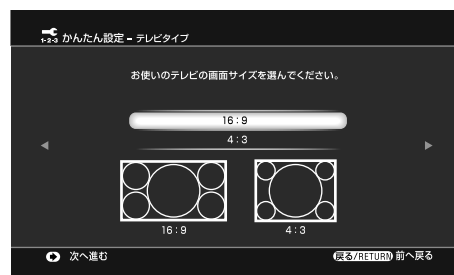
HDMI OUT端子とそのほかの映像出力端子が同時に接続されているときに、[自動]または[1080p]を選ぶとHDMI以外の出力端子から映像信号は出力されないことがあります（69ページ）。

他の機器と接続している場合は、RETURNボタンを押して[テレビ接続方法]に戻り、設定を変えてください。

設定を変更すると、選んだ解像度で30秒間、確認画面が表示されます。画面の指示にしたがって手順6に進んでください。

Ⓑ 手順4で[D映像またはコンポーネント映像]を選んだとき

480i：D1 480i（525i）の映像信号を出力します。
480p：D2 480p（525p）の映像信号を出力します。
720p：D4 720p（750p）の映像信号を出力します。
1080i：D3 1080i（1125i）の映像信号を出力します。
通常は1080iを選ぶようにします。

設定を変更すると、選んだ解像度で30秒間、確認画面が表示されます。画面の指示にしたがって手順6に進んでください。

6 お使いのテレビの横縦比を↑↓で選び、(+)を押す。

16：9：ワイドテレビに接続したときに選びます。
4：3：4：3のテレビに接続したときに選びます。

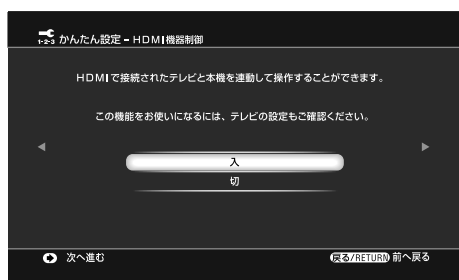
テレビタイプの設定について詳しくは、「テレビに表示される画面の横縦比について」（64ページ）をご覧ください。

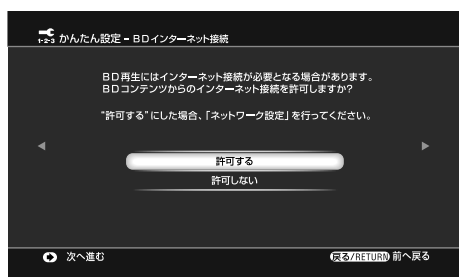
ちょっと一言

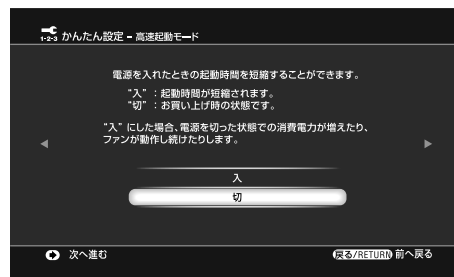
- 映像が乱れたときや不自然なとき、お好みに合わないときは、ディスクやお持ちのテレビ/プロジェクターなどに合わせて手順5、6で他の設定を試してください。詳しくは、テレビ/プロジェクターなどの取扱説明書もご覧ください。

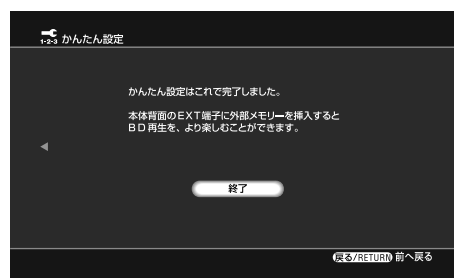
ご注意

- HDMIケーブルと他の映像ケーブルを同時につないでいる場合は、手順4で[D映像またはコンポーネント映像]を選んでください。
- 手順5で出力解像度を選んだあと、映像が乱れるまたは何も表示されない場合は、何もボタンを押さずに30秒間お待ちください。30秒後に、設定変更前の解像度で、解像度設定画面に戻ります。
  もし画面に何も映らなくなった場合は、本体の■（停止）ボタンを10秒以上押し続けてください。設定がリセットされ、最も低い解像度になります。映像出力解像度を変更したいときは、[映像設定]の[出力映像解像度設定]で設定してください。

7 HDMIケーブルでテレビと接続している場合は、HDMI機器制御の設定を↑↓で選び、⊕を押す。

入：HDMI機器制御機能を使ってHDMI機器制御対応の他機器と相互制御できます。
切：HDMI機器制御による相互制御ができません。

8 BDコンテンツからのインターネット接続の設定を↑↓で選び、⊕を押す。

許可する：BDコンテンツからインターネットに接続して、BD-Live（BDライブ）などを楽しむことができます。詳しくは、「BonusView（ボーナスビュー）やBD-Live（BDライブ）を楽しむ」（37ページ）をご覧ください。
許可しない：BDコンテンツからインターネットに接続しません。

9 高速起動モードの設定を↑↓で選び、⊕を押す。

"入"：電源「切」（待機状態）時からの起動時間を短縮できます（電源を切った状態での消費電力が増えたり、ファンが動作し続けたりします）。
"切"：起動時間を短縮しません。

10 [終了]を選んで⊕を押す。

かんたん設定が終了します。

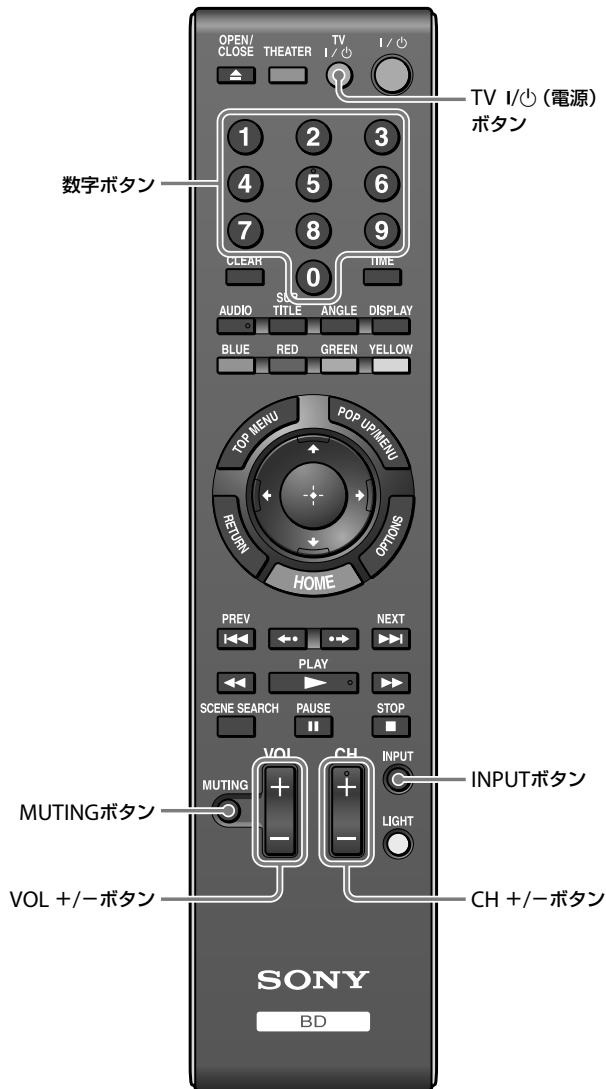
1つ前の手順に戻るには

設定中に、RETURN（戻る）を押します。

ちょっと一言

設定を誤って変更し、元に戻せなくなったら、[設定初期化]の[お買い上げ時の状態に設定]（58ページ）を選び、お買い上げ時の設定に戻します。その後、[かんたん設定]（58ページ）をやり直してください。

本機のリモコンでテレビを操作する

本機に付属のリモコンでソニー製テレビの音量や入力、チャンネル、電源などを操作できます。

ボタン操作について

つないでいるテレビによっては、一部のボタンが使えない、またはまったく操作できない場合があります。

ボタン	操作
TV I/⏻	テレビの電源を入れたり切ったりします。
VOL +/－	テレビの音量を調節します。
CH +/－	テレビのチャンネルを選びます。
INPUT	テレビにつないでいる機器の間で、テレビへの入力を切り換えます。
MUTING	音を消します。

ソニー製以外のテレビを操作するには

本機のリモコンでソニー製以外のテレビも同様に音量や入力、チャンネル、電源などを操作できます。
下の表でお使いのテレビのメーカーを確認して、対応する番号を設定してください。

1 **TV I/⏻（電源）ボタンを押しながら、数字ボタンでメーカー番号を入力する。**
「09」を入力する場合は、「0」、「9」の順に押してください。

操作できるテレビとメーカー番号について

下の表に複数のメーカー番号がある場合は、実際にお試しいただき、テレビが操作できた番号に設定してください。

メーカー	メーカー番号
ソニー	01*
パナソニック	02、13
東芝	03
日立	04
三菱	05
JVC	06
三洋	07、15
シャープ	08、16
NEC	09
パイオニア	10
富士通ゼネラル	11
フナイ	14
アイワ	17
SAMSUNG	18、19

* お買い上げ時の設定です。

2 **TV I/⏻（電源）ボタンをはなす。**

ご注意

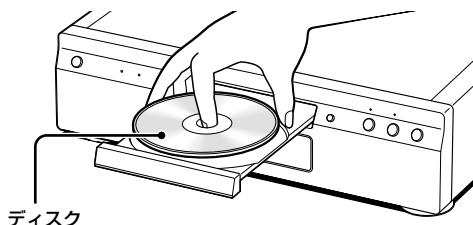
- リモコンを使うときは、リモコン受光部 🅁 に直射日光や照明器具などの強い光が当たらないようにご注意ください。リモコンで操作できないことがあります。
- 電池を交換するとメーカー番号がリセットされ初期設定に戻ります。その場合、もう一度設定してください。
- 新しい番号を入力した場合、それ以前の番号は消去されます。

BDやDVDを再生する

BD DVD

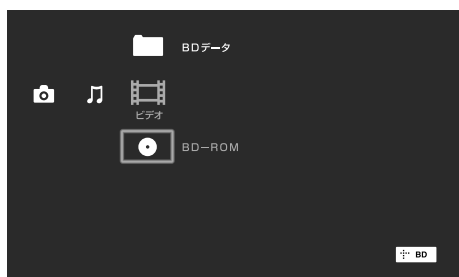
1 本機および本機をつないでいるテレビの電源を入れる。

2 テレビの入力を、本機をつないだ入力に切り換える。

3 OPEN/CLOSE を押してディスクトレイを開き、再生面を下にしてディスクをのせる。

4 OPEN/CLOSE を押してディスクトレイを閉める。
市販のBD-ROMやDVDビデオの場合、ディスクを入れると、自動的に再生が始まる場合もあります。

5 HOME を押す。

6 ←→で ▯ を選ぶ。

7 ↑↓で ● を選び、PLAY（再生）または ● を押す。

市販のBD-ROMやDVDビデオの場合、再生が始まります。
他の機器で録画されたBDやDVDの場合は、● を押すとタイトルリストが表示されます。↑↓で見たいタイトルを選んで PLAY（再生）または ● を押します。
再生中は、本体表示窓に再生経過時間が表示されます。

再生をやめるには、STOP（停止）を押します。
一時停止するには、PAUSE（一時停止）を押します。

再生をやめたところから再生するには（つづき再生）

前回停止した位置から再生できます。

1 ←→で ▯ を選ぶ。

2 ↑↓で ● やタイトルを選び、PLAY（再生）または ● を押す。
前回 STOP（停止）ボタンを押した位置から再生します。

ディスクの先頭から再生するには、OPTIONS を押して［始めから再生］を選び、●を押します。

つづき再生が解除される条件について

- ディスクトレイを開けたとき
- 他のタイトルを再生したとき
- 本機の設定を変更したとき
- 外部メモリーを取りはずしたとき（BD-ROM）

視聴年齢制限されたBDやDVDを再生するには

視聴年齢制限されたBDを再生する場合は、 から［BD/DVD視聴設定］－［BD視聴年齢制限］の設定を変更してください。
視聴年齢制限されたDVDの場合、再生するとき暗証番号を入力する画面が表示されます。4桁の暗証番号を入力し、● を押すと再生が始まります。
暗証番号の登録や変更については、［暗証番号設定］（54ページ）をご覧ください。

ちょっと一言

オリジナルタイトルを編集して作成したタイトルをタイトルリストに表示した場合、［PL］（Playlist）と表示されます。

ご注意

- ディスクトレイが開いている状態では PLAY（再生）は働きません。
- ディスクの種類によっては、一部の再生操作ができないことがあります。ディスクの取扱説明書をご確認ください。
- 他の機器で録画したBDまたはDVDによっては、タイトルリストやタイトル名が表示されないことがあります。
- ディスクの種類や停止位置によっては、つづき再生できない場合があります。

次のページにつづく⇨

ロック設定されたBD-REやBD-Rを再生するには

ロック設定されたBD-REやBD-Rを入れると、暗証番号を入力する画面が表示されます。

1 **数字ボタンで登録してある4桁の暗証番号を入力して、⊕ を押す。**

2 **タイトルを選び、PLAY ▶（再生）または ⊕ を押す。**
再生が始まります。

HDMI機器制御を使って再生する

HDMI機器制御機能のあるソニー製テレビと本機をHDMIケーブルでつなぐと、かんたんに再生できます。
HDMI機器制御の準備方法については、「HDMI機器制御を利用する」（20ページ）をご覧ください。

PLAY ▶（再生）を押す。
本機とテレビの電源が入り、テレビの入力が、本機が接続されているHDMIの入力に切り換わります。

再生中にOPTIONSボタンでできること

使用状況によって、表示されるオプションが異なります。

項目	できること
画音設定	画質・音質を調整します（39ページ）。
始めから再生	タイトルを始めから再生します。
トップメニュー	ディスクのメニュー画面を表示します（37ページ）。
メニュー／ポップアップ	DVDビデオのメニューやBD-ROMのポップアップメニューなどを表示します（37ページ）。
再生停止	タイトルの再生を停止します。
タイトルサーチ	タイトルを選んで頭出しします（38ページ）。
チャプターサーチ	チャプターを選んで頭出しします（38ページ）。

ディスクやタイトル選択中にOPTIONSボタンでできること

使用状況によって、表示されるオプションが異なります。

項目	できること
ディスクを開く	タイトルリストを表示します。
再生	前回 STOP ■（停止）ボタンを押した位置からタイトルをつづき再生します。
始めから再生	タイトルを始めから再生します。

ご注意

- つないだ機器によっては、HDMI機器制御機能が働かないことがあります。つないだ機器の取扱説明書をご覧ください。
- HDMI接続のとき、映像が表示されるまでに時間がかかる、または映像の最初の部分が表示されないことがあります。

BD-ROMやDVDビデオのメニューを使うには

BD DVD

トップメニューを表示する

BDやDVDの再生中に、ディスクのメニュー画面を表示できます。

1 **再生中に TOP MENU（トップメニュー）を押す。**

2 **↑↓←→で項目を選ぶ。**

ポップアップメニューを表示する

BD-ROMによっては、再生を止めることなくメニューを表示できるポップアップメニューが収録されています。

1 **再生中に POP UP/MENU（ポップアップ/メニュー）を押す。**

2 **↑↓←→やカラーボタン、数字ボタンなど画面の指示にしたがって項目を選ぶ。**

BonusView（ボーナスビュー）やBD-Live（BDライブ）を楽しむには

BD

BD-ROMによっては、スペシャルコンテンツ（Bonus View）や、ネットワークから外部メモリー（ローカルストレージ "local storage"）にダウンロードして楽しむコンテンツ（BD-Live）などが用意されているものがあります。

1 **本機の電源を切る。**

2 **本体後面のEXTスロットに外部メモリーを差し込む。**
外部メモリーをローカルストレージ "local storage" として使います。
外部メモリーが本機に正しく差し込まれていることを確認してください（26ページ）。

3 **ネットワークにつなぐ（27ページ）。**

4 **本機の電源を入れる。**

5 **［BD/DVD視聴設定］から［BDインターネット接続］を［許可する］に設定する（54ページ）。**

6 **BonusView（ボーナスビュー）やBD-Live（BDライブ）対応のBD-ROMを入れる。**
操作方法はディスクによって異なります。ディスクに付属の取扱説明書をご覧ください。

外部メモリーのデータを消去するには

外部メモリー内の不要なデータを消去できます。
ディスクが入っていない状態で行ってください。

1 **HOME を押す。**

2 **←→で [アイコン] を選ぶ。**

3 **↑↓で［BDデータ］を選び、(決定) を押す。**
外部メモリー内のデータを一括して消去するには、OPTIONS を押して［全消去］を選び、(決定) を押します。この後、手順6に進んでください。

4 **消去したいデータを選び、OPTIONS を押す。**
データはディスク名で表示されます。

5 **［消去］を選び、(決定) を押す。**

6 **［はい］を選び、(決定) を押す。**

すばやく見たい場面を探す（シーンサーチ）

BD DVD

シーンサーチを使うと、再生中の映像（タイトル内）ですばやく場面を移動できます。

1 **再生中または一時停止中に、SCENE SEARCH（シーンサーチ）を押す。**
シーンサーチになり、画面下部にバーとシーンインジケーターが表示されます。再生中の場合、画面は一時停止します。

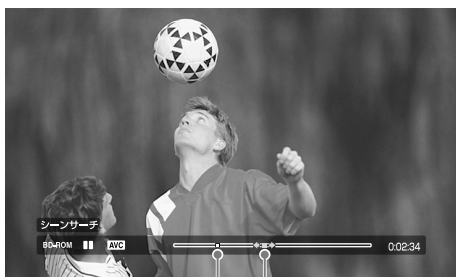
ちょっと一言

外部メモリーのデータを消去するとき、手順4で のかわりに (決定) を押すと手順6に進みます。

ご注意

- 外部メモリーのデータを消去するとき、ディスクによってはディスク名が表示されない場合があります。
- ディスクによってはシーンサーチ機能は使えません。
- シーンサーチは100秒以上100時間未満のタイトルでのみ有効です。

次のページにつづく⇨

2 ◀▶または ◀◀ ▶▶ で、見たい場面の位置までシーンインジケーターを動かす。

バー上のシーンインジケーターは場面のおおよその位置を表示します。

3 見たい場面の位置まで来たら、ボタン操作をやめる。
シーンインジケーターを止めた位置の場面が、一時停止で表示されます。
場面を選び直すには、◀▶または ◀◀ ▶▶ でシーンインジケーターの位置を動かします。

4 SCENE SEARCH（シーンサーチ）または ⊕ 、PLAY（再生）、PAUSE（一時停止）を押す。
再生が始まります。

シーンサーチを途中でやめるには

SCENE SEARCH（シーンサーチ）または ⊕ 、PLAY（再生）、PAUSE（一時停止）を押します。押した場面から再生が始まります。

チャプター番号やタイトル番号で頭出しする

BD DVD

タイトル内にチャプターマークがある場合、それを選んで頭出しできます。
また、市販のBD-ROMやDVDビデオでは、タイトル番号を選んで頭出しできます。

1 再生中または一時停止中に OPTIONS を押す。

2 ▲▼で［チャプターサーチ］または［タイトルサーチ］を選び、⊕ を押す。
チャプター番号/タイトル番号入力画面が表示されます。

例：チャプターサーチの場合

3 ❶～⓿ で見たいチャプター番号またはタイトル番号を入力する。

番号の入力を間違えた場合は、CLEAR（クリア）を押してから、もう一度入力し直してください。

4 ⊕ を押す。
場面が少しの間一時停止したあと、再生が始まります。

再生時間など再生情報を表示する

BD DVD

タイトル情報や再生情報などを確認できます。

DISPLAY（画面表示）を押す。
ディスクの種類や本機の状態によって、表示される情報は異なります。
例：BD-ROMの場合

1 画面アングル
2 タイトル番号、タイトル名
3 音声、字幕設定

ちょっと一言

- 本体表示窓（15ページ）でも再生情報を確認できます。
- SUBTITLE（音声切換）やAUDIO（音声切換）、ANGLE（アングル）ボタンでそれぞれの情報を確認できます。

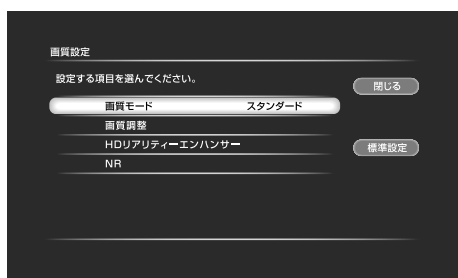
4 使用可能な機能（アングル／音声／字幕）
5 再生情報
ディスクの種類／再生モード／ビデオコーデック／ビットレート／再生位置表示バー／再生時間（残り時間*）
6 出力解像度／フレームレート

* TIME（時間表示）ボタンを押すと切り換わります。

再生の画質や音声を調整する

BD DVD

画質を調整する

1 再生中に を押して、[画音設定]－[画質設定]を選び、⊕ を押す。
画質設定画面が表示されます。

2 各設定項目を選び、⊕ を押す。

項目	設定
画質モード（スタンダード/明るい部屋/暗い部屋/メモリー）	視聴環境の明るさに合わせて設定します。お買い上げ時の設定は、[スタンダード]です。画質調整を行う場合は、[メモリー]を選んでください。
画質調整	[画質モード]が[メモリー]に設定されているときに選べます。
HDリアリティーエンハンサー	この設定は映像信号がHDMI OUT端子またはCOMPONENT VIDEO OUT端子から出力されているときに働きます。
NR	画面上のノイズを低減します。

3 ↑↓←→でお好みの設定、または設定項目を選び、⊕ を押す。
[画質調整]、[HDリアリティーエンハンサー]、[NR]について詳しくは、それぞれ以下の「[画質調整]の設定」、「[HDリアリティーエンハンサー]の設定」、「[NR]の設定」をご覧ください。

[画質調整]の設定

1 「画質を調整する」の手順2で[画質調整]を選び、⊕ を押す。

2 設定したい項目を選び、⊕ を押す。
お買い上げ時は、下線の値です。

項目	設定
コントラスト（(弱) –3 ～ 0 ～ 3(強)）	コントラストを調整します。
ブライトネス（(暗) –3 ～ 0 ～ 3(明)）	全般的な明るさを調整します。
色の濃さ（(薄) –3 ～ 0 ～ 3(濃)）	色の濃淡を調整します。
色あい（(赤) –3 ～ 0 ～ 3(緑)）	全般的なカラーバランスを調整します。
ガンマ	明るい領域と暗い領域のバランスを調整します。

3 ↑↓←→でお好みの値を選び、⊕ を押す。

4 設定が終わったら、[閉じる]を選び、⊕ を押す。
画質設定の画面に戻ります。

[HDリアリティーエンハンサー]の設定

1 「画質を調整する」の手順2で[HDリアリティーエンハンサー]を選び、⊕ を押す。

2 設定したい項目を選び、⊕ を押す。
お買い上げ時は、下線の値や設定です。

項目	設定
エンハンス（–3 ～ 0 ～ 3）	ピクセル単位で映像の埋もれたディテールを再構成します。
スムージング（切/標準/強）	映像の平坦な部分の階調をなめらかにします。
FGR（0 ～ 3）	映像に含まれる粒状感やざわつき感を低減します。

3 ←→でお好みの値または設定を選び、⊕ を押す。

4 設定が終わったら、[閉じる]を選び、⊕ を押す。
画質設定の画面に戻ります。

ご注意
- 本機の画質モードを[スタンダード]以外に設定したときは、テレビ側の画質モードを標準（スタンダード）に設定してください。
- 本機をブラビアリンクに対応したソニー製のテレビとつないだ場合、テレビの画質設定が[シネマ]になっていると、本機の画質設定はできません。
- 再生している場面によっては、エンハンスやスムージング、FGRの効果がわかりにくいことがあります。

ちょっと一言
- [HDリアリティーエンハンサー]は、映像と写真の再生に対して個別に設定できます。

次のページにつづく⇨

[NR]の設定

1 「画質を調整する」の手順2で[NR]を選び、 を押す。

2 設定したい項目を選び、 を押す。
お買い上げ時は、下線の設定です。

項目	設定
FNR (切/自動)	画面上にざわざわと発生するランダムなノイズ成分を低減するための調整をします。
BNR (切/自動)	画面上にモザイクのように現れるブロックノイズを低減するための調整をします。
MNR (切/自動)	映像の輪郭部に現れる細かいノイズ(モスキートノイズ)を低減するための調整をします。

3 ←→でお好みの設定を選び、 を押す。

4 設定が終わったら、[閉じる]を選び、 を押す。
画質設定の画面に戻ります。

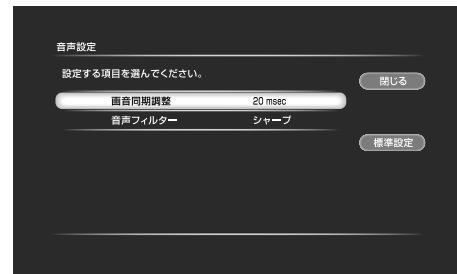
プレイバックメモリー機能を使う

本機は再生中のBD*1やDVD*2について、ディスクごとに画質設定を保存することができます。そのため、特定のBDやDVDは毎回同じ画質設定で再生可能です。保存できる画質設定はディスク50枚分までです。設定が50枚を超えたときは、古い設定から順に消去されます。

*1 BDMVモードのBD-ROM/BD-RE/BD-R
*2 DVDビデオ、VideoモードのDVD-RW/DVD-RおよびVRモードのDVD+RW/DVD+R

[プレイバックメモリー]を[入]に設定します(54ページ)。

音声を調整する

1 再生中に OPTIONS を押して、[画音設定]－[音声設定]を選び、 を押す。
音声設定画面が表示されます。

2 各設定項目を選び、 を押す。
お買い上げ時の設定は、下線の設定や数値です。

項目	設定
画音同期調整	映像と音声のずれを調整するための設定をします。映像に対して音声を遅らせます。 (短) 0 ～ 20 ～ 120 msec (長)
音声フィルター*	• シャープ ⇨ フラットな音質で明瞭な音像定位が得られます。通常はこの設定にします。 • スロー ⇨ 雰囲気のあるあたたかい音が得られます。

＊この機能は、デジタル音声出力には効果がありません。

3 ↑↓←→で設定を選び、または調整し、 を押す。
他の項目も調整するときは、手順2 ～ 3をくり返します。

ご注意

- 再生している場面によっては、FNRやBNR、MNRの効果がわかりにくいことがあります。
- ディスクの種類や視聴条件によっては、音声フィルターの効果がわかりにくいことがあります。

ちょっと一言

プレイバックメモリー機能は映像再生時の画質設定を保存できますが、写真再生時の画質設定は保存できません。

CDを再生する

CD

本機にCDを挿入すると、自動的にミュージックプレーヤー画面が表示されます。

PLAY ▶（再生）を押す。

CDの始めの曲から再生が始まります。

トラックを選ぶには

1. HOME を押す。
2. ←→で ♫ を選ぶ。
3. ●（音楽CD）を選び、⊕ を押す。
4. ↑↓で聴きたい曲（トラック）を選んで、PLAY ▶（再生）または ⊕ を押す。

OPTIONSボタンでできること

使用状況によって表示されるオプションが異なります。

項目	できること
再生	トラックを再生します。
始めから再生	トラックを始めから再生します。
再生停止	トラックの再生を停止します。

再生中の操作

項目	できること
PLAY ▶（再生）	停止した位置からつづき再生
STOP ■（停止）	再生の停止
PAUSE ❚❚（一時停止）	再生の一時停止／一時停止の解除
PREV ⏮ NEXT ⏭（前/次）	PREV（前）ボタンを押すと、現在再生中のトラックの先頭に戻ります。（1つ前のトラックの先頭に戻るには、PREV（前）ボタンを2回続けて押してください。） NEXT（次）ボタンを押すと、次のトラックの先頭に進みます。
◀◀ ▶▶（早戻し/早送り）	音楽CDの早戻し／早送り
TIME（時間表示）	画面と本体表示窓に表示される時間情報の切り換え（15ページ）

ご注意

次の場合、つづき再生が解除されます。
- ディスクトレイを開けたとき
- 本機の電源を切ったとき

写真を再生する

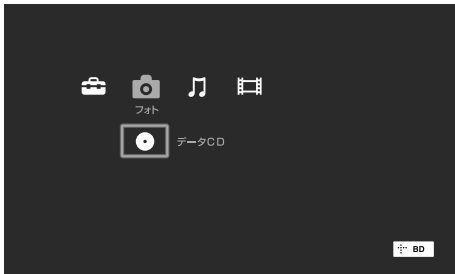
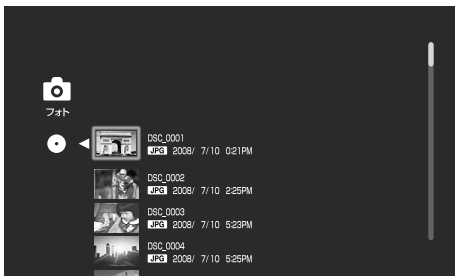
ディスクに保存されている写真を再生する

BD *1 DATA DVD *2 DATA CD *3

*1 JPEG形式の画像ファイルが記録されているBD-RE/BD-R
*2 JPEG形式の画像ファイルが記録されている DVD+RW/DVD+R/DVD-RW/DVD-R
*3 JPEG形式の画像ファイルが記録されているCD-RW/CD-R

1 本機にディスクを入れる。

2 HOME を押す。

3 ←→で 📷 を選ぶ。

4 ● を選び、⊕ を押す。
アルバムおよび写真の一覧が表示されます。
本機ではフォルダのことをアルバムと呼びます。

5 ↑↓でアルバムまたは写真を選び ⊕ を押す。
アルバムを選んだときは、↑↓でアルバムから写真を選び ⊕ を押すと、選んだ写真が表示されます。

順番に再生する（スライドショー）

ディスク（BD-RE/BD-R/データDVD/データCD）のアルバムに保存されている写真を順番に表示します。
アルバム内のすべての写真の表示が終わるとアルバムの先頭からくり返し再生されます。

アルバムを選んで、PLAY ▶（再生）を押す。
または、OPTIONS を押して［スライドショー］を選び、⊕ を押します。

再生中にOPTIONSボタンでできること

項目	できること
HDリアリティーエンハンサー	この設定は映像信号がHDMI OUT端子またはCOMPONENT VIDEO OUT端子から出力されているときに働きます。詳しくは、下記「［HDリアリティーエンハンサー］の設定」をご覧ください。
スライドショーの速さ	スライドショーの表示の速さ（速い／標準／遅い）を設定します。
停止	スライドショーを停止します。
回転（左）	写真を左周りに90度回転させます。
回転（右）	写真を右周りに90度回転させます。

［HDリアリティーエンハンサー］の設定

1 表示されたオプションから［HDリアリティーエンハンサー］を選び、⊕ を押す。

2 設定したい項目を選び、⊕ を押す。
お買い上げ時は、下線の値や設定です。

項目	設定
エンハンス（–3 ～ <u>0</u> ～ 3）	ピクセル単位で画像の輪郭を強調します。
スムージング（切/<u>標準</u>/強）	画像の平坦な部分の階調をなめらかにします。
FGR（<u>0</u> ～ 3）	フィルム映像の粒状感を低減します。

3 ←→でお好みの値または設定を選び、⊕ を押す。

4 設定が終わったら、［閉じる］を選び、⊕ を押す。

ちょっと一言

［HDリアリティーエンハンサー］は、映像と写真の再生中にそれぞれ個別に設定できます。

ディスクのアルバムや写真の一覧を表示中にOPTIONSボタンでできること

使用状況によって、表示されるオプションが異なります。

項目	できること
スライドショーの速さ	スライドショーの表示の速さ（速い／標準／遅い）を設定します。
表示	写真を表示します（42ページ）。
スライドショー	スライドショーで表示します（42ページ）。

再生中の操作

項目	できること
STOP ■（停止） RETURN（戻る）	スライドショーの停止
PAUSE II（一時停止）	スライドショーの一時停止／一時停止の解除
PREV NEXT（前/次） ←→	前または次の写真を表示します。
DISPLAY（画面表示）	写真の情報を表示します。

より高画質な写真を楽しむ（ブラビア プレミアムフォト）

「ブラビア プレミアムフォト」に対応したソニー製テレビをお使いの場合、以下の接続と設定を行うことで、よりよい画質で写真を見ることができます。

1 **「ブラビア プレミアムフォト」に対応したソニー製テレビと本機をHDMIケーブル（別売り）でつなぐ。**

2 **［映像設定］の［出力映像解像度設定］で［HDMI］を選び、［自動］または［1080i］、［1080p］に設定する（47ページ）。**

3 **テレビの映像設定を「ビデオ-A」モードにする。**

「ビデオ-A」モードについて詳しくは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

ブラビア プレミアムフォトとは

写真らしい高精細で微妙な質感や色合いの表現を可能にする機能です。「ブラビア プレミアムフォト」対応のソニー機器同士の組み合わせで写真を今までになかった感動のFull HD高画質で楽しめます。

また、人肌や花びらの繊細な描写、砂浜の波の質感など、美しいフォト画質を大画面で楽しめます。

再生する

ご注意

- 本機で再生できる写真は、圧縮形式がJPEG形式で、ファイル名形式がDCF形式*のものです。
  - * （社）電子情報技術産業協会にて制定された統一規格"Design rules for Camera Files systems"のことです。
- DCF形式以外のJPEG形式の写真（パソコンで加工した静止画像など）では、一部の機能が正しく動作しないことがあります。
- 次のような写真を再生しようとすると、[アイコン]が表示され再生できません。
  - 縦または横のいずれかが、8192ドット以上の写真
  - 縦または横のいずれかが、15ドット以下の写真
  - ファイルサイズが32MBを超える写真
  - 横縦のサイズ比が50:1より横長、あるいは1:50より縦長の写真
  - プログレッシブJPEG形式の写真
  - 拡張子がjpeg/jpgだが、JPEG形式でない写真
  - ファイル名が極端に長い写真
- BD-RにUDF2.6以外で記録した場合は再生できません。
- BD-REにUDF2.5以外で記録した場合は再生できません。
- 次の写真やアルバムは、写真一覧やアルバム一覧に表示されません。
  - 拡張子がjpeg/jpg以外の写真
  - ファイル名が極端に長い写真
  - 5階層目以降にある写真
  - 1つの階層で501番目以後にある写真やアルバム
- パソコンで編集した写真は本機で再生できないことがあります。
- ファイルによってはサムネイル画像が表示されない場合があります。
- ファイルサイズが大きい写真は表示されるまで、またはスライドショーが始まるまでに時間がかかることがあります。

本機の設定を変更する

設定画面で映像や音声、通信などのさまざまな設定ができます。

1 テレビの入力を本機をつないだ入力に切り換える。

2 HOME を押す。

3 ←→で を選ぶ。

4 ↑↓で設定したい項目を選び、 を押す。

各設定項目の詳細については、右の設定カテゴリー一覧に記載されているページをご覧ください。

設定カテゴリー 一覧

アイコン	説明
	ネットワークアップデート（45ページ） 本機のソフトウェアをアップデートします。
	映像設定（46ページ） つないだ端子に合わせた映像設定などを行います。
	音声設定（49ページ） つないだ端子に合わせた音声設定などを行います。
	BD/DVD視聴設定（53ページ） BDやDVDを視聴するときの詳細設定を行います。
	フォト設定（55ページ） スライドショーの速さを設定します。
	本体設定（56ページ） 本体全般の設定を行います。
	通信設定（57ページ） ネットワークなど通信の詳細設定を行います。
1･2･3	**かんたん設定（58ページ）** 基本的な設定を順に行います。
	設定初期化（58ページ） 出荷時の状態に戻します。

設定を変更する

ネットワークアップデート

設定したいこと	項目説明
ネットワークアップデート	本機のソフトウェアをアップデートして、機能を向上させます。 アップデートの情報については、以下のホームページでご確認ください。 http://sony.jp/bd-player/ **1 ↑↓で[ネットワークアップデート]を選び、⊕を押す。** ネットワークに接続すると、アップデートの確認画面が表示されます。 **2 ←→で[はい]を選び、⊕を押す。** ソフトウェアのダウンロードが始まり、自動的にアップデートされます。アップデートが完了すると本体表示窓に[FINISH]と5秒間表示され、本機の電源が切れます。 **3 I/⏻(電源)ボタンを押す。** ソフトウェアが更新された状態で起動します。 **ちょっと一言** • 本体表示窓に[VUP */9](*は進行中の手順の数字)が表示され、アップデートの進行状況をお知らせします。 • ご使用のソフトウェアのバージョンは、[本体設定]－[本体情報](56ページ)で確認できます。 • [設定]の内容はアップデート後も保持されます。 • [ソフトウェアアップデート通知](56ページ)を[入]に設定している場合、ソフトウェアの更新情報をお知らせします。ただし、使用する機器や環境によっては、ソフトウェアアップデート通知されない場合があります。2か月に1回程度を目安にネットワークアップデートを行うことをおすすめします。 **ご注意** • ソフトウェアのダウンロードおよびアップデート中は電源コードやLANケーブルを抜き差ししないでください。 • アップデート中はディスクトレイの開閉など、いかなる操作もできません。 • ネットワークの接続状況によって、ダウンロードにかかる時間は異なります。 • ネットワーク接続中にエラーメッセージが表示された場合は、[通信設定]－[ネットワーク設定]で設定値を確認してください(57ページ)。

アップデートディスクを使ってソフトウェアアップデートをするには

アップデートディスクで本機のソフトウェアをアップデートできます。アップデートディスクの入手方法については、本ページに記載されているホームページをご覧ください。

1 ディスクトレイにアップデートディスクを入れる。
アップデートの確認画面が表示されます。

2 [はい]を選んで ⊕ を押す。
ソフトウェアのアップデートが始まります。
アップデートが完了すると本体表示窓に[FINISH]と5秒間表示され、ディスクトレイが自動的に開きます。

3 ディスクを取り出す。
本機の電源が自動的に切れます。

4 I/⏻(電源)ボタンを押す。
ソフトウェアが更新された状態で起動します。

ご注意
• アップデート中は電源コードを抜かないでください。
• アップデート中はディスクトレイの開閉など、いかなる操作もできません。

映像設定

お買い上げ時の設定は、下線がついている項目です。

設定したいこと	項目	項目説明
テレビタイプ お使いのテレビの横縦比を選びます。	<u>16：9</u>	画面サイズが16：9のテレビとつなぐときに選びます。
	4：3	画面サイズが4：3のテレビとつなぐときに選びます。
画面モード 画面の横縦比を維持して映像を表示するか、画面いっぱいに映像を表示するか設定します（64、65ページ）。	<u>オリジナル</u>	ワイドモード機能が搭載されているテレビとつなぐときに選びます。ワイドテレビでも4：3映像を常に16：9で表示します。
	横縦比固定	映像の横縦比は維持したまま、映像サイズを変更します。
DVDワイド映像表示 16：9サイズの映像を記録したDVDを4：3画面のテレビで再生するときの画面サイズを設定します。 ［映像設定］の［テレビタイプ］が［4：3］で、同時に［画面モード］が［横縦比固定］のときに有効な設定です。 横縦比が16：9のワイド映像を見るときに調整してください。	<u>レターボックス</u>	ワイド映像を横長のまま表示し、画面の上下は黒く表示します。
	パンスキャン	ワイド映像の左右を自動的にカットしてテレビ画面全体に表示します。 **ご注意** DVDによっては［レターボックス］または［パンスキャン］に設定していても、自動的にどちらかで再生されるものがあります。
シネマ変換モード HDMI OUT端子またはD1/D2/D3/D4 VIDEO OUT端子、COMPONENT VIDEO OUT端子でつないでいて、480pや720p、1080i、1080pの信号を出力しているときに（18ページ）、映像の変換方法を設定します。映像にはビデオ素材（テレビドラマやアニメーション）とフィルム素材（映画フィルム）があり、ご覧になる映像に合わせて設定します。	<u>自動</u>	通常はこの設定にします。ビデオ素材とフィルム素材の違いを本機が検出し、自動的に素材に合わせた変換方法に切り換えます。
	ビデオ	記録されている映像素材にかかわらず、常にビデオ素材用の変換方法で映像を変換します。

設定したいこと	項目	項目説明
出力映像解像度設定 映像出力端子の種類や出力解像度を設定します。	HDMI ／ D映像またはコンポーネント映像	HDMI OUT端子またはD1/D2/D3/D4 VIDEO OUT端子、COMPONENT VIDEO OUT端子から信号出力します。 **出力解像度を設定する** 下記の出力解像度を選びます。出力解像度を変えると、30秒間選んだ解像度で映像が表示されます。画面の指示にしたがって操作してください。720p/1080i/1080pを選んだ場合、本体表示窓のHD表示が点灯します。 **自動（HDMIのみ）**：通常はこの設定にします。 テレビ側で受けられる最大の解像度で映像信号を 1080p→1080i→720p→480p→480iの優先順位で出力します。 映像が乱れたときや不自然なとき、お好みに合わないときは、ディスクやお持ちのテレビ/プロジェクターなどに合わせて他の設定を試してください。詳しくは、テレビ/プロジェクターなどの取扱説明書もご覧ください。 **480i**：D1 480i（525i）の映像信号を出力します。 **480p**：D2 480p（525p）の映像信号を出力します。 **720p**：D4 720p（750p）の映像信号を出力します。 **1080i**：D3 1080i（1125i）の映像信号を出力します。 **1080p（HDMIのみ）**：1080pの映像信号を出力します。 **ご注意** • 出力解像度を選んだあと、映像が乱れるまたは何も表示されない場合は、何もボタンを押さずに30秒間お待ちください。30秒後に、設定変更前の解像度で、解像度設定画面に戻ります。 もし画面に何も映らなくなった場合は、本体の ■（停止）ボタンを10秒以上押し続けてください。設定がリセットされ、最も低い解像度になります。映像出力解像度を変更したいときは、再設定してください。 • HDMI OUT端子とそのほかの映像出力端子に同時につないでいるときに、[自動]と[1080p]を選ぶとHDMI以外の出力端子から映像信号は出力されないことがあります（69ページ）。 他の機器とつないでいる場合は、RETURNボタンを押して[テレビ接続方法]に戻り、設定を変えてください。
	<u>映像またはS映像</u>	VIDEOまたはS VIDEO端子から信号出力します。
BD-ROM 1080/24p出力 映画フィルムと同じ毎秒24フレームで記録されたBD-ROMを再生するとき設定します。1080/24p対応のテレビにHDMI接続して、[出力解像度設定]で[HDMI]から[自動]または[1080p]を選択した場合、1080/24pで出力されます。	<u>自動</u>	1080/24pの映像信号を自動で出力します。
	入	1080/24pの映像信号を出力します。つないでいるテレビの種類に関係なく出力します。 **ご注意** • 1080/24pに対応していないテレビにつないで[入]を選んだ場合、BD-ROMを再生すると映像が出なくなります。 この場合、HOME を押してメニューを表示し、[切]に設定を変えてください。
	切	1080/24pの映像信号を出力しません。 1080/24pに対応していないテレビのとき設定してください。
HDMI映像出力フォーマット HDMI OUT端子からの映像信号の色空間変換を設定します。	<u>自動</u>	通常はこの設定にします。
	Y Cb Cr（4：2：2）	Y Cb Cr を 4：2：2 の比率で色変換を行います。
	Y Cb Cr（4：4：4）	Y Cb Cr を 4：4：4 の比率で色変換を行います。
	RGB（16-235）	出力信号を RGB 16 ～ 235 の範囲で色変換を行います。
	RGB（0-255）	出力信号を RGB 0 ～ 255 の範囲で色変換を行います。 **ご注意** • [RGB（0-255）]の設定で使う場合は、RGB（0-255）入力に対応した機器とHDMI接続していることをご確認ください。

次のページにつづく⇨

映像設定（つづき）

設定したいこと	項目	項目説明
HDMI Deep Color出力 HDMI OUT端子から出力される映像信号のDeep Color（色深度）の設定を行います。 色深度はビット数で表現され、その値が増えるほどより多くの色が表現できます。本機は12ビットまでの色深度に対応しています。本機をDeep Colorに対応したテレビにつなぐと、これまでにないより正確な色表現が可能になります。	自動	通常はこの設定を選びます。
	12bit	12ビットの映像信号を出力します。
	10bit	10ビットの映像信号を出力します。
	切	映像が不安定、または色が不自然な場合はこの設定を選びます。 **ご注意** 本機をDeep Colorに対応したテレビにつなぐときは、ハイスピードタイプのHDMIケーブルをお使いください。
SBM Super Bit Mapping機能を使用するかどうかを設定します。 Super Bit Mapping機能は、HDMI OUT端子から出力される映像信号にのみ有効です。	入	階調表現が豊かな映像が楽しめます。通常はこの設定を選びます。
	切	Super Bit Mapping機能を使用しません。
x.v.Color情報出力 xvYCC情報をつないだテレビやプロジェクターに送るか設定します。xvYCCに準拠した映像と x.v.Color表示に対応したテレビやプロジェクターを組み合わせることで、自然界に存在する物体色をより忠実に再現できます。	自動	通常はこの設定にします。
	切	映像が乱れたときや色が不自然なとき設定します。
一時停止モード 一時停止にしたときの映像のモードを設定します。 BD-ROMやAVCHD規格で記録されたディスクを再生する場合は、常に［自動］になります。	自動	通常はこの設定にします。動きの大きい被写体の映像がぶれずに表示されます。
	フレーム	動きの少ない被写体の映像が高い解像度で表示されます。
ケーブル補償 アナログコンポーネント接続（COMPONENT VIDEO OUT端子またはD1/D2/D3/D4 VIDEO OUT端子）での1080i/720p信号を、映像信号用同軸ケーブルを使って長い距離を伝送する場合に生じる、映像信号の影響を大きく受けるYchの高域伝送損失を補償する機能です。	切	ケーブル補償機能を使用しません。
	1 ～ 7	つないだ同軸ケーブルの長さに応じて適切な数値に切り換えます。 数値を上げるごとに、30 MHzで約0.4dBずつ補償量が増します。 **ご注意** • 性能・特性を保証するものではありません。 • お使いの接続線種や、コネクターの種類など使用環境が異なる場合、最適な設定値が異なります。 • 適切な値よりも大きく設定すると、画面の細かな部分がギラギラの強い映像になります。

音声設定

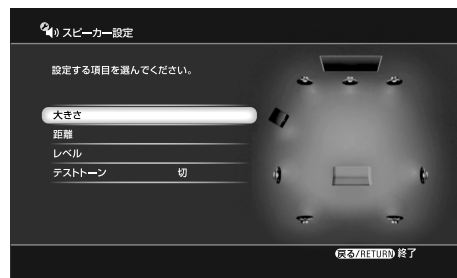
お買い上げ時の設定は、下線がついている項目です。

設定したいこと	項目	項目説明
優先音声端子 音声出力端子を選びます。設定されている優先端子以外からは、2チャンネルのリニアPCM信号が最大48 kHzで出力されます。	HDMI	HDMI OUT端子から音声信号を出力します。
	デジタル音声	DIGITAL OUT（COAXIAL/OPTICAL）端子から音声信号を出力します。
	マルチチャンネル音声	MULTI CHANNEL OUTPUT端子を使ってAVアンプとつないでいるときに、この設定を選びます。
	アナログ音声	AUDIO OUT L/R端子から音声信号を出力します。

スピーカー設定

最適なサラウンド音声を得るために、つないだスピーカーとそれぞれの視聴位置からの距離を設定してください。次に、テストトーンを使って音量と各スピーカー間のバランスを同じレベルに調節します。
［優先音声端子］で［マルチチャンネル音声］を選んでいるときに設定できます。

スピーカーを設定する

1 ↑↓で［大きさ］または［距離］を選んで、⊕を押す。

スピーカーの大きさ、または距離の設定画面が表示されます。

2 ↑↓で設定する項目を選んで、⊕を押す。

3 ↑↓でお好みの設定を選んで、⊕を押す。

◆大きさ
スピーカーの大きさを選びます。

- **フロント**
  大：通常の設定です。
  小：スピーカーが充分な低音を再生できないときに選びます。
- **センター**
  大：通常の設定です。
  小：スピーカーが充分な低音を再生できないときに選びます。
  なし：センタースピーカーをつないでいない場合に選びます。
- **サラウンド**
  大：通常の設定です。
  小：スピーカーが充分な低音を再生できないときに選びます。
  なし：サラウンドスピーカーをつないでいない場合に選びます。
- **サラウンドバック**
  大：通常の設定です。
  小：スピーカーが充分な低音を再生できないときに選びます。
  なし：サラウンドバックスピーカーをつないでいない場合に選びます。
- **サブウーファー**
  あり：LFE（低域効果音）信号を出力するサブウーファーをつないでいるときに選びます。
  なし：サブウーファーをつないでいない場合に選びます。

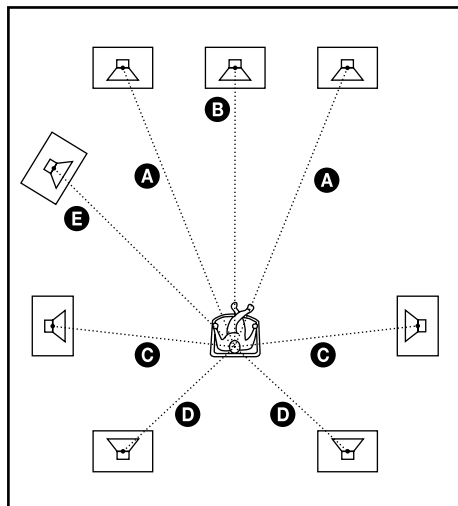
ご注意

- ［サブウーファー］を［あり］に設定しても、再生するBDやDVDにLFE信号が記録されていない場合は、サブウーファーから音は出ません。
- ［フロント］が［小］に設定されている場合は、［サブウーファー］を［なし］に設定できません。
- つないだフロントスピーカーが充分な低音を再生できず、かつ、サブウーファーをつないでいない場合は、［フロント］を［大］、［サブウーファー］を［なし］に設定してください。

次のページにつづく⇨

設定したいこと	項目	項目説明

◆距離

視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。
はじめに［フロント］でフロントスピーカーまでの距離（Ⓐ）を設定します。次に実際に置かれたセンタースピーカー、サラウンドスピーカー、サラウンドバックスピーカー、サブウーファーの距離を反映し、［センター］（Ⓑ）、［サラウンド］（Ⓒ）、［サラウンドバック］（Ⓓ）、［サブウーファー］（Ⓔ）で、各スピーカーの距離を調節します。

［距離］は、スピーカーを動かすごとに設定し直してください。

フロント：1 ～ 15mの範囲で、0.2m単位で設定できます。お買い上げ時の設定は3mです。
センター：0 ～ 15.6m（フロントの設定値に対して–1.6 ～ +0.6m）の範囲で、0.2m単位で設定できます。初期設定は［フロント］の設定値になります。
サラウンド：0 ～ 15.6m（フロントの設定値に対して–5.0 ～ +0.6m）の範囲で、0.2m単位で設定できます。初期設定は［フロント］の設定値になります。
サラウンドバック：0～15.6m（フロントの設定値に対して–5.0 ～ +0.6m）の範囲で、0.2m単位で設定できます。初期設定は［フロント］の設定値になります。
サブウーファー：0 ～ 15.6m（フロントの設定値に対して–1.6 ～ +0.6m）の範囲で、0.2m単位で設定できます。初期設定は［フロント］の設定値になります。

スピーカーのレベルを調節する

1. **↑↓で［テストトーン］を選んで、⊕を押す。**
2. **↑↓で「入」を選んで、⊕を押す。**
   各スピーカーから順番にテストトーンが聞こえます。
3. **↑↓で［レベル］を選んで、⊕を押す。**
   レベルの設定画面が表示されます。
4. **↑↓でレベルを調節したいスピーカーを選んで、⊕を押す。**
   選んだスピーカーからテストトーンが出ます。
5. **視聴位置から↑↓←→で値を調節し、⊕を押す。**
6. **調節が終わったら、RETURN（戻る）を押す。**
7. **↑↓で［テストトーン］を選んで、⊕を押す。**
8. **↑↓で「切」を選んで、⊕を押す。**

ちょっと一言

テストトーンを聞かずにレベルを調節するには、手順1で［レベル］を選んだ後、手順4 ～ 7の操作を行います。

設定したいこと	項目	項目説明
スピーカー設定		**◆レベル** フロント(Left/Right)、センター、サラウンド(Left/Right)、サラウンドバック(Left/Right)、サブウーファーの各スピーカーのレベルを、–12 ～ 0dBの範囲で、0.5dB単位で調節できます。お買い上げ時の設定は0dBです。簡易調節するときは、必ず[テストトーン]を「入」してください。 **◆テストトーン** **入**:各スピーカーからの音声レベルを調節するために、MULTI CHANNEL OUTPUT端子から順番にテストトーンを出します。[距離]、[レベル]の設定中は、任意に選択したスピーカーからテストトーンが出ます。 **切**:テストトーンはスピーカーから出ません。
HDMI音声出力 HDMIの音声信号の出力を設定します。	自動	通常はこの設定にします。テレビやAVアンプで受けられる最適な音声信号を出力します。 **ご注意** ドルビーデジタルやDTS、AACに対応しないテレビやAVアンプに本機をつないで[自動]を選ぶと、音が出ないことがあります。その場合は[2チャンネルPCM]を選んでください。
	2チャンネルPCM	音声信号を常に2チャンネルのリニアPCM信号にダウンミックスし、HDMI OUT端子から出力します。
BD音声設定 セカンダリーオーディオ(映画の解説など)・インタラクティブオーディオ(効果音など)を含むBDを再生するとき、セカンダリーオーディオ・インタラクティブオーディオをミキシングして出力するかを選択します。	ミックス	セカンダリーオーディオ・インタラクティブオーディオが含まれるBDを再生する場合、それらをミキシングして出力します。 **ご注意** [ミックス]に設定されている場合、96 kHzと192 kHz PCM音声信号は48 kHz PCMで出力されます。
	ダイレクト	セカンダリーオーディオ・インタラクティブオーディオが含まれるBDを再生する場合、それらをミキシングせずにプライマリオーディオ(主音声)を出力します。 **ちょっと一言** HDMI OUT端子からドルビー TrueHDやDTS-HDのビットストリームを出力するには、[ダイレクト]を選んでください。
音声出力ATT 音声出力レベルを低くして、音の歪みを防ぎます。	入	音がひずまないように音声の出力レベルを低くします。 **ご注意** DIGITAL OUT(COAXIAL/OPTICAL)端子、HDMI OUT端子からの出力には効果がありません。
	切	通常はこの設定にします。
ドルビーデジタル ドルビーデジタル信号の出力方式を設定します。 DIGITAL OUT(COAXIAL/OPTICAL)端子からの音声信号の出力を設定します。	ダウンミックスPCM	ドルビーデジタルデコーダーを内蔵していないオーディオ機器をつないでいるときに選びます。リニアPCM信号に変換(ダウンミックス)して出力します。
	ドルビーデジタル	ドルビーデジタルデコーダー内蔵のオーディオ機器をつないでいるときに選びます。
AAC AAC信号の出力方式を設定します。 DIGITAL OUT(COAXIAL/OPTICAL)端子からの音声信号の出力を設定します。	ダウンミックスPCM	AACデコーダーを内蔵していないオーディオ機器をつないでいるときに選びます。リニアPCM信号に変換(ダウンミックス)して出力します。
	AAC	AACデコーダー内蔵のオーディオ機器をつないでいるときに選びます。

次のページにつづく⇨

音声設定（つづき）

設定したいこと	項目	項目説明
DTS DTS信号の出力方式を設定します。 DIGITAL OUT（COAXIAL/OPTICAL）端子からの音声信号の出力を設定します。	ダウンミックスPCM	DTSデコーダーを内蔵していないオーディオ機器をつないだときに選びます。リニアPCM信号に変換（ダウンミックス）して出力します。
	DTS	DTSデコーダー内蔵のオーディオ機器をつないでいるときに選びます。
48 kHz/96 kHz PCM DIGITAL OUT（COAXIAL/OPTICAL）端子からの音声信号の出力を設定します。	48 kHz/16bit	96 kHz PCMの音声を48 kHz/16bitで出力します。
	96 kHz/24bit	96 kHz PCMの音声を96 kHz/24bitで出力します。ただし、著作権保護のための信号が含まれているときは、48 kHz/16bitで出力されます。 **ご注意** • 96 kHzに対応していないAVアンプなどをつないでいるときに［96 kHz/24bit］を選ぶと、音が出なかったり、突然大音量が出たりすることがあります。 • ［優先音声端子］が［HDMI］、［マルチチャンネル音声］または［アナログ音声］に設定されている場合、この機能は働きません。
オーディオDRC（BD/DVDのみ） ［オーディオDRC］（Dynamic Range Control）では、オーディオDRC対応のBDやDVDの音量を下げて聞くときに、小さい音までよく聞こえるようにします。	自動	BD-ROMの規格に準拠した音になります。他のディスクの場合、［スタンダード］と同じ音になります。
	スタンダード	［テレビ］と［ワイドレンジ］の中間の音になります。
	テレビ	小さい音までよく聞こえるようにします。特に、テレビのスピーカーを使って音を聞いているときに効果があります。
	ワイドレンジ	迫力のある音になります。Hi-Fiのスピーカーを使うとさらに効果があります。 **ご注意** • オーディオDRCは、ドルビーデジタル、ドルビーデジタルプラスおよびドルビーTrueHDの再生時のみ効果があります。 • ［音声設定］の［ドルビーデジタル］が［ドルビーデジタル］に設定されている場合（51ページ）、DIGITAL OUT（COAXIAL/OPTICAL）端子から出力される音声に［オーディオDRC］は働きません。ただし、BD再生時に［BD音声設定］（51ページ）を［ミックス］に設定してある場合、または［優先音声端子］（49ページ）を［HDMI］または［アナログ音声］に設定してある場合は除きます。
ダウンミックス マルチチャンネル（5.1チャンネル）で記録された音声を2チャンネルに変換する方法を選びます。	ドルビーサラウンド	ドルビーサラウンド（プロロジック）に対応しているオーディオ機器につないでいるときに選びます。ドルビーサラウンド（プロロジック）効果のかかった音声信号を2チャンネルに処理して出力します。 **ご注意** DIGITAL OUT（COAXIAL/OPTICAL）端子、HDMI OUT端子からビットストリームで出力されている場合、この機能は働きません。
	ノーマル	ドルビーサラウンド（プロロジック）に対応していないオーディオ機器につないでいるときに選びます。ドルビーサラウンド（プロロジック）効果のかかっていないステレオ音声信号を出力します。

BD/DVD視聴設定

ご注意

BDやDVD、タイトルによっては、再生の設定があらかじめ決められていることがあります。その場合、設定した機能は働きません。

設定したいこと	項目説明
BD/DVDメニュー言語	BD/DVDメニューに表示する言語を設定します。 [言語コード指定]を選んだときは、言語コードを入力する画面が表示されます。「言語コード一覧」(71ページ)を参照して、言語コードを入力します。
音声言語	BDやDVD再生時の音声の言語を設定します。 [言語コード指定]を選んだときは、言語コードを入力する画面が表示されます。「言語コード一覧」(71ページ)を参照して、言語コードを入力します。 **ちょっと一言** [オリジナル]を選ぶとディスクに記録されている優先言語が選ばれます。
字幕言語	BDやDVDに記録されている字幕の言語を設定します。 [言語コード指定]を選んだときは、言語コードを入力する画面が表示されます。「言語コード一覧」(71ページ)を参照して、言語コードを入力します。
BD視聴年齢制限	BD-ROMには、見る人の年齢によって、シーンの視聴を制限できるものがあります。制限されたシーンをカットしたり、別のシーンに差し換えて再生します。 **1 暗証番号を入力して[確定]を選び、◯を押す。** **2 制限する年齢を選び、◯を押す。** 年齢の数字が小さいほど制限が厳しくなります。[制限しない]を選ぶと、視聴年齢制限が解除されます。[年齢指定]を選ぶと、0歳から255歳までの年齢を↑↓←→または数字ボタンで入力できます。 **ちょっと一言** 暗証番号を変更するときは、「暗証番号設定」(54ページ)をご覧ください。暗証番号設定画面で新しい番号を入力し、[確定]を選びます。 **ご注意** • 暗証番号が登録されていないときは、暗証番号設定の画面が表示されます。 • 登録した暗証番号を忘れてしまったときは、ホームを押して から[設定初期化]を選び、[お買い上げ時の状態に設定]の[BD/DVD視聴設定]を選びます(58ページ)。[実行]を選ぶと以前の暗証番号が削除されます。「暗証番号設定」(54ページ)で設定し直してください。 • 視聴制限機能がないディスクを再生するときは、本機で視聴制限をしても再生は制限できません。 • ディスクによっては、再生中に視聴設定の変更を要求される場合があります。その場合、暗証番号を入力し、年齢を変更してください。 • [年齢指定]で[255]を選ぶと、視聴年齢制限は解除されます。
DVD視聴年齢制限	DVDビデオには、地域ごとに設けられたレベル(見る人の年齢など)によって、シーンの視聴を制限できるものがあります。制限されたシーンをカットしたり、別のシーンに差し換えて再生します。 **1 暗証番号を入力して[確定]を選び、◯を押す。** **2 制限するレベルを選び、◯を押す。** レベルの数字が小さいほど制限が厳しくなります。[制限しない]を選ぶと、視聴年齢制限が解除されます。 **ちょっと一言** 暗証番号を変更するときは、「暗証番号設定」(54ページ)をご覧ください。暗証番号設定画面で新しい番号を入力し、[確定]を選びます。 **ご注意** • 暗証番号が登録されていないときは、暗証番号設定の画面が表示されます。 • 登録した暗証番号を忘れてしまったときは、HOMEを押して から[設定初期化]を選び、[お買い上げ時の状態に設定]の[BD/DVD視聴設定]を選びます(58ページ)。[実行]を選ぶと以前の暗証番号が削除されます。「暗証番号設定」(54ページ)で設定し直してください。 • 視聴制限機能がないディスクを再生するときは、本機で視聴制限をしても再生は制限できません。 • ディスクによっては、再生中に視聴設定の変更を要求される場合があります。その場合、暗証番号を入力し、レベルを変更してください。

次のページにつづく⇨

BD/DVD視聴設定（つづき）

設定したいこと	項目	項目説明

BD/DVD視聴年齢制限使用地域

BD-ROMやDVDビデオには、住んでいる国や地域によって、シーンの視聴を制限できるものがあります。制限されたシーンをカットしたり、別のシーンに差し換えて再生します。

1 暗証番号を入力して[確定]を選び、⊕ を押す。

2 制限する地域を選び、⊕ を押す。

［地域コード指定］を選ぶと、地域コードを入力する画面が表示されます。「地域コード一覧」（71ページ）を参照して、地域コードを入力します。

ちょっと一言

暗証番号を変更するときは、「暗証番号設定」（54ページ）をご覧ください。暗証番号設定画面で新しい番号を入力し、［確定］を選びます。

ご注意

- 暗証番号が登録されていないときは、暗証番号設定の画面が表示されます。
- 登録した暗証番号を忘れてしまったときは、HOMEを押して ［設定初期化］を選び、［お買い上げ時の状態に設定］の［BD/DVD視聴設定］を選びます（58ページ）。［実行］を選ぶと以前の暗証番号が削除されます。「暗証番号設定」（54ページ）で設定し直してください。
- 視聴制限機能がないディスクを再生するときは、本機で視聴制限をしても再生は制限できません。
- ディスクによっては、再生中に視聴設定の変更を要求される場合があります。その場合、暗証番号を入力し、レベルを変更してください。

暗証番号設定

暗証番号を設定すると、視聴制限があるBDやDVDの視聴や再生を制限できます。必要に応じて、BDとDVDに違う制限レベルを設定できます。

1 暗証番号を入力する。

2 ［確定］を選び、⊕ を押す。

暗証番号を変更するには

［暗証番号設定］を選んだときに表示される画面で現在の暗証番号を入力し、その後で新しい暗証番号を入力します。

ハイブリッドディスク再生層設定

BDとDVD（またはCD）のハイブリッドディスクを再生するときに、どちらの記録層を優先するかを設定します。設定を変更したらディスクを入れ直してください。

項目	項目説明
BD	BDの記録層を再生します。
DVD/CD	DVDまたはCDの記録層を再生します。

BDインターネット接続

項目	項目説明
許可する	再生中のBDコンテンツからのインターネット接続を許可します。この機能を利用するには、ネットワーク接続（27ページ）が必要です。
許可しない	BDコンテンツからのインターネット接続を禁止します。

プレイバックメモリー

本機は再生中のBD*1やDVD*2について、ディスクごとに画質設定を保存することができます。特定のBDやDVDは毎回同じ画質設定で再生可能です。ディスク50枚分まで画質設定を保存できます。

*1 BDMVモードのBD-ROM/BD-RE/BD-R
*2 DVDビデオおよびVideoモードのDVD-RW/DVD-R/DVD+RW/DVD+R

項目	項目説明
入	ディスクごとの画質設定を保存します。 **ご注意** • 設定が50枚を超えたときは、古い設定から順に消去されます。 • 本機をブラビアリンクに対応したソニー製のテレビとつないだ場合、テレビの画質設定は［シネマ］以外のモードにしてください。
切	プレイバックメモリー機能を使用しません。

フォト設定

お買い上げ時の設定は、下線がついている項目です。

設定したいこと	項目	項目説明
スライドショーの速さ スライドショーの速さを設定します。	**速い**	［標準］より速い再生速度です。
	<u>標準</u>	基本の再生速度です。
	遅い	［標準］より遅い再生速度です。

本体設定

お買い上げ時の設定は、下線がついている項目です。

設定したいこと	項目	項目説明
本体表示の明るさ	明	表示窓とランプは常に明るく点灯します。
	暗	表示窓とランプは常に暗く点灯します。
	消灯	表示窓とランプはビデオや音楽、写真などの再生時には消灯し、再生時以外には暗く点灯します。
HDMI機器制御	入	HDMI機器制御機能を使ってHDMI機器制御対応の他機器と相互制御できます。
	切	HDMI機器制御による相互制御ができません。
高速起動モード	入	電源「切」（待機状態）時からの起動時間を短縮できます。起動後には、すばやく本機の操作を行えます。 **ご注意** ［入］に設定した場合、電源「切」（待機状態）のときでも通電状態になるため、待機時消費電力が増えたり、周囲の温度によってはファンが動作し続けたりします。
	切	起動時間を短縮しません。
オートパワーオフ BD、DVD、CD、写真の再生中、または、ソフトウェアのアップデート中以外のとき、何も操作されないまま30分が経過すると、本機の電源が自動的に切れます。	入	電源が自動的に切れます。
	切	電源は自動的に切れません。
自動画面表示	入 切	「入」を選ぶと、タイトルが変わるときや、映像モードや音声モードが変わるときに画面上でその情報を自動的に表示します。
スクリーンセーバー	入 切	「入」を選ぶと、ホームメニューなど再生映像以外の画面を表示したまま15分間何も操作しないとき、画面保護のためスクリーンセーバーが表示されます。
ソフトウェアアップデート通知	入 切	「入」を選ぶと、ソフトウェアの更新情報をお知らせします。機能を有効にするには、ネットワークに接続されている必要があります。 **ご注意** 使用する機器や環境によっては、ソフトウェアアップデート通知されない場合があります。2か月に1回程度を目安にネットワークアップデートを行うことをおすすめします（45ページ）。
本体情報	本機ソフトウェアのバージョンと、MACアドレスを確認できます。	

通信設定

お買い上げ時の設定は、下線がついている項目です。

設定したいこと	項目説明
ネットワーク設定 LANケーブルを接続し、インターネットを利用したいときに設定します。設定する項目は、状況によって異なります。プロバイダーからの資料などを参考に設定してください。	**1 [IPアドレス取得方法]を選び、 を押す。** **2 項目を選び、 を押す。** DHCPを利用：ブロードバンドルーターやプロバイダーのDHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）サーバー機能により、自動でネットワークの設定を割り当てます。 **固定IPアドレスを指定**：ブロードバンドルーターの使用状況に合わせた値やプロバイダーが指定する値があるときの設定です。手動でネットワークの設定を入力する必要があります。 次の項目にプロバイダー指定の値を手動で入力してください。 • IPアドレス • サブネットマスク • デフォルトゲートウェイ • DNSサーバー自動取得*1 • DNSサーバー（プライマリ）／（セカンダリ）*2 *1 DNSサーバー自動取得は、DHCP利用時のみ有効となります。IPアドレスの値を手動で入力したときはDNSの値も手動で入力する必要があります。 *2 [DNSサーバー自動取得]を[切]に設定すると、DNSサーバー（プライマリ）とDNSサーバー（セカンダリ）のアドレスを手動で設定できます。この場合、必ずDNSサーバー（プライマリ）は入力してください。入力しない場合にネットワークが正しく設定されません。 **3 プロバイダーからプロキシサーバーの指定があるときは、↑↓で[プロキシ設定]を選び、 を押す。** [プロキシ設定]画面が表示されます。プロキシサーバーの設定が必要ない場合は、手順7に進んでください。 **4 [プロキシサーバーを利用]を[入]に設定する。** **5 [プロキシサーバー]と[ポート]を選び、設定を入力する。** プロキシサーバーの情報を入力する場合は、下の「文字を入力するには」を参照してください。 **6 RETURN（戻る）を押す。** **7 ↑↓で[接続診断]を選び、 を押す。** **8 [実行]を選び、 を押す。** **9 [ネットワークは正しく接続されています]というメッセージが画面に表示されていることを確認する。** 設定は終了です。[ネットワークは正しく接続されています]と表示されない場合は、画面のメッセージにしたがってください。

ちょっと一言

- 接続診断でネットワークが正しく接続されていて、[BD/DVD視聴設定]の[BDインターネット接続]が[許可する]に設定されていれば、BD-Live（BDライブ）などでインターネット接続が可能となります（54ページ）。
- LANケーブルを別のネットワークに切り換えた場合、ネットワークにつながらなくなることがありますので、切り換えたときは「接続診断」を行ってください。

文字を入力するには

[プロキシ設定]で[プロキシサーバー]を選ぶと文字入力画面が表示されます。

1 選びたい文字に対応する数字ボタンを押す。
例：
「D」を選ぶときは、3ボタンを1回押します。
「F」を選ぶときは、3ボタンを3回押します。

2 →を押して次の文字に進む。
入力が終わったら、YELLOWボタン（入力終了）を押す。

次のページにつづく⇨

設定を変更する

通信設定（つづき）

設定したいこと	項目説明
	ボタン操作について • BLUEボタン（文字種切換）：入力する文字種をアルファベットと数字で切り換えます。 • REDボタン（A/a）：アルファベットの大文字と小文字を切り換えます。 • GREENボタン（記号）：記号の入力画面になります。 • YELLOWボタン（入力終了）：入力内容を確定し、直前の画面に戻ります。 • CLEARボタン（クリア／全クリア）：入力位置表示の文字を消します。入力した文字すべてを消す場合は、CLEARボタンを約2秒間押し続けてください。 • RETURNボタン（中止）：入力を中止して、直前の画面に戻ります。直前の入力内容は反映されません。 • ↑↓←→、（決定）ボタン：入力方法を選びます。文字を入力するときは、①↑↓←→で選びたい文字に対応するパネルを選び を押し、②←→で文字を選び で入力します。

かんたん設定

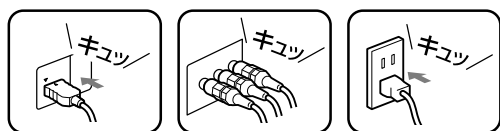
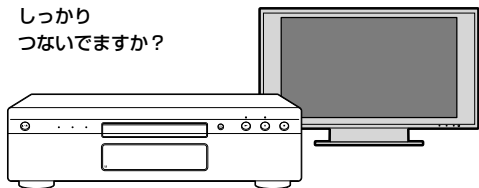
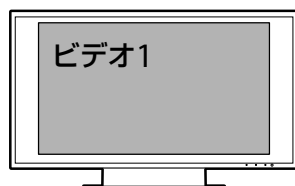
設定したいこと	項目説明
かんたん設定	本機を使うための基本的な設定をします。本機を使う前に必ずかんたん設定を行なってください。 かんたん設定について詳しくは、「接続と準備」の「［準備7］かんたん設定をする」（31ページ）をご覧ください。

設定初期化

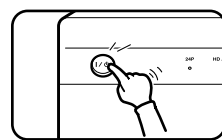
設定したいこと	項目説明
お買い上げ時の状態に設定	各設定ごとに、お買い上げ時の設定に戻すことができます。選んだ設定のすべての項目がお買い上げ時の設定に戻るので、ご注意ください。 **1　お買い上げ時の設定に戻したい設定を選び、 を押す。** 以下の設定をお買い上げ時の設定に戻すことができます。 －映像設定 －音声設定 －BD/DVD視聴設定 －フォト設定 －本体設定 －通信設定 －すべての設定の内容 **2　確認画面で［実行］を選び、 を押す。** **ご注意** ［すべての設定の内容］を選んで初期化を実行した場合、次のような状態になります。 －次にかんたん設定が完了するまで、BDランプが点灯します。 － メニューのすべての設定が、お買い上げ時の設定に戻ります。 －ディスク再生中にオプションメニューから設定された［画音設定］は、お買い上げ時の状態に戻りません。

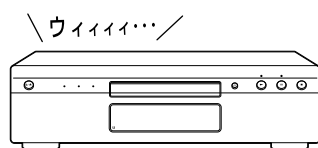
故障かな？と思ったら

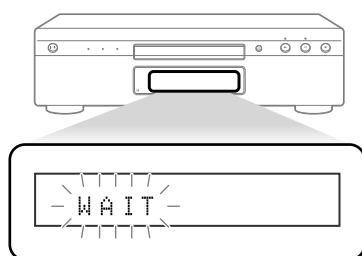
まず確認してください

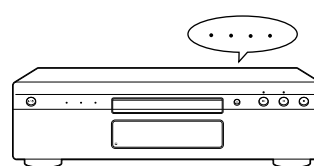
各種コード・ケーブル

テレビの入力切換

本機の映像が映るよう、テレビの入力は切り換わっていますか？

本機の電源

こんな場合は故障ではありません

電源を切っているのにファンの音がする

電源が「切」でも、高速起動の待機時などに、本機のファンが動作することがあります。

「WAIT」と点滅表示され、なかなか起動しない

本機の起動中は、本体表示窓に「WAIT」が点滅表示されます。本機の起動には数十秒かかりますので、そのままお待ちください。
起動時間を短くできる機能（高速起動モード）もあります（56ページ）。

動作を受け付けない/動いていない

明らかに本機が操作を受け付けない状態になった場合は、I/⏻（電源）ボタンを10秒以上押し続けてください。本機が再起動します。

➡ 症状に当てはまらない場合は、次ページ以降をご覧になり、当てはまる症状を探してください。

次のページにつづく⇨

修理に出す前に、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、ソニーの相談窓口（▶裏表紙）へお問い合わせください。

電源

症状	対処のしかた	参照ページ
電源が入らない。	• 電源コードがしっかり差し込まれているか確認してください。	30
	• 電源が入るまでに時間がかかることがあるので、しばらくお待ちください。	30
電源を入れたときに**［ネットワーク上に新しいソフトウェアバージョンが見つかりました。「ネットワークアップデート」からアップデートを行ってください。］**というメッセージが表示される。	• 新しいバージョンにソフトウェアをアップデートするには、「ネットワークアップデート」をご覧ください。	45

ディスク

症状	対処のしかた	参照ページ
ディスクを**再生できない**。	• ディスクの汚れをふき取ってください。	7
	• ディスクが裏返しに入っていないか確認してください。再生面を下にしてください。	7
	• ディスクが斜めにずれて入っていないか確認してください。	35
	• 本機で再生できるフォーマットのディスクか確認してください。	66
	• BDやDVDの地域番号（リージョンコード）が本機で再生できる番号になっているか確認してください。	66
	• 他機で録画されたディスクを再生するときは、正しくファイナライズされているか確認してください。	67

映像

症状	対処のしかた	参照ページ
映像が**出ない、乱れる**。	• 接続ケーブルのプラグがしっかり差し込まれているか確認してください。	18
	• 接続ケーブルが断線していないか確認してください。	18
	• テレビを本機につないでいる入力（「ビデオ1」など）に切り換えてください。	31
	• 2層BDや2層DVDを再生する場合、レイヤー（層）が切り換わるときに映像や音声が一瞬途切れることがあります。	67
［出力映像解像度設定］で設定を変えたとき、**何も表示されない**。	• 本体の ■（停止）ボタンを10秒以上押し続けてください。設定がリセットされ、最も低い解像度になります。	47
［映像設定］の［DVDワイド映像表示］で**設定した映像の横縦比で再生できない**。	• 映像の横縦比が固定されているタイトルを再生していませんか？	46

困ったときは

症状	対処のしかた	参照ページ
HDMI OUT端子とその他の映像出力端子に同時につないだときき、**HDMI OUT端子以外から映像が出ない**。	• [映像設定]から[出力映像解像度設定]を[D映像またはコンポーネント映像]に設定してください。	47
暗い部分が**暗すぎる**、または明るい部分が**明るすぎる**。	• 「再生の画質や音質を調整する」を参照して、[画質モード]を[スタンダード]に設定してください。	39
映像が**正しく表示されない**。	• [映像設定]の[出力映像解像度設定]を確認してください。	47
BD-ROMの**映像が表示されない**。	• [映像設定]の[BD-ROM1080/24p出力]を確認してください。	47

音声

症状	対処のしかた	参照ページ
音が出ない。	• 接続ケーブルのプラグがしっかり差し込まれているか確認してください。	18
	• 接続ケーブルが断線していないか確認してください。	18
	• AVアンプの入力端子を確認してください。	23
	• AVアンプの入力切換で本機の音声が出るようになっていることを確認してください。	23
	• 一時停止になっていないか確認してください。	—
	• 早送りまたは早戻しになっていないか確認してください。	—
	• DIGITAL OUT（COAXIAL/OPTICAL）端子、HDMI OUT端子でつないでいる場合は、[音声設定]を確認してください。	49
正しく音声が出ない。	• [音声設定]の[優先音声端子]を確認してください。	49
	• スピーカー設定を確認してください。	49
音が小さい。	• BDやDVDによっては、再生時の音量が小さい場合があります。 の[音声設定]から[オーディオDRC]を[テレビ]に設定すると、改善されることがあります。	52
	• の[音声設定]から[音声出力ATT]を[切]に設定してください。	51
ドルビーデジタルプラスやドルビーTrueHD、DTS-HD High Resolution Audio、DTS-HD Master Audioなどの**HD音声がビットストリームで出力されない**。	• [音声設定]から[BD音声設定]を[ダイレクト]に設定してください。	51
	• AVアンプがHD音声に対応しているか確認してください。	—
	• 480iまたは480p以外の、ハイビジョン画質の映像信号が本機からハイビジョン対応テレビに出力されているか確認してください。	70
インタラクティブオーディオが**出力されない**。	• [音声設定]から[BD音声設定]を[ミックス]に設定してください。	51

HDMI

症状	対処のしかた	参照ページ
HDMI接続したとき、**映像や音声が出力されない**。	• 電源を入れ直してください。	30
	• つないでいる機器の電源を入れ直してください。	—
	• HDMIケーブルを差し直してください。	19、24

次のページにつづく⇨

症状	対処のしかた	参照ページ
HDMI接続したとき、**映像が表示されない**、または**映像にノイズが出る**。	• 著作権保護機能に対応していないDVI機器とHDMI OUT端子をつないでいないか確認してください。	—
	• HDMI OUT端子を映像出力に使っている場合、出力映像解像度を変更してみてください。	47
HDMI接続したとき、**音声が出ない**。	• DVI機器の場合、音声は出力されません。	—
HDMI接続したとき、**正しく音声が出ない**。	• HDMI OUT端子とつないでいる機器が、本機の音声フォーマットに対応していますか？［音声設定］を確認してください。	49
HDMI機器制御機能が**働かない**。	• 接続機器の電源コード・HDMIケーブルがしっかりと接続されているか確認してください。	—
	• 本体表示窓のHDMI表示が点灯しない場合、HDMI接続を確認してください。	19、24
	• ［HDMI機器制御］が［入］になっているか確認してください。	56
	• 接続機器がHDMI機器制御機能に対応していることを確認してください（接続機器の取扱説明書をご覧ください）。	—
	• 接続機器のHDMI機器制御機能の設定を確認してください（接続機器の取扱説明書をご覧ください）。	—
	• HDMI接続を変更した場合は、電源を入れ直してください。	30
	• 停電があった場合は、本機の［HDMI機器制御］の設定を一度［切］にし、その後［入］に再設定してください。	56
	• HDMI機器制御機能について詳しくは、「HDMI機器制御を利用する」をご覧ください。	20
	• HDMI機器制御に対応していないAVアンプを通してテレビにつなぐと、HDMI機器制御が正しく機能しません。	—
	• HDMIケーブルを抜き差しした場合は、本機の映像が映るまでテレビの入力を切り換えてみてください。	31

外部メモリー（ローカルストレージ“local storage”）

症状	対処のしかた	参照ページ
外部メモリーが**認識されない**。	• 電源を切って、外部メモリーの向きをよく確認してEXTスロットに差し込んで、もう一度電源を入れてください。その後本体表示窓のEXT表示が点灯していることを確認してください。	26
BD-ROMに搭載されているボーナスコンテンツが**再生できない**。	• ディスクを取り出して電源を切ったあと、外部メモリーを差し直し、もう一度電源を入れてください。その後、本体表示窓のEXT表示が点灯していることを確認してから、BonusView（ボーナスビュー）、BD-Live（BDライブ）があるBD-ROMを入れてください。	—
記憶装置に空き容量がないというメッセージが画面に表示される。	• 外部メモリーの不要なデータを削除してください。	37

操作

症状	対処のしかた	参照ページ
リモコンが**働かない**。	• 乾電池を交換してください。	17
	• リモコンを本体に向けて操作してください。	17
	• リモコンを本体に近づけて操作してください。	17
ファイル名が**正しく表示されない**。	• 本機はISO8859-1準拠の文字コードのみ表示します。その他の文字コードの場合、違う文字に置き換わって表示されます。	—
BDやDVDの**最初から始まらない**。	• つづき再生になっています。オプションから[始めから再生]を選んでください。	35
停止、早送り／早戻しなどの**操作ができない**。	• 操作を禁止しているBDやDVDを再生しています。ディスクに付属の説明書もあわせてご覧ください。	—
字幕や音声言語を**変更できない**。	• BDまたはDVDメニューからの操作を試してください。	37
	• 再生しているBDやDVDに複数の字幕または音声言語が記録されているか確認してください。	—
	• そのBDやDVDでは音声言語の切り換えを禁止しています。	—
本体表示窓に**[LOCKED]**または**[TLK ON]**と表示され、**ディスクトレイが開かない**。	• [LOCKED]と表示された場合は、本体側でロックされています。解除するには、[UNLOCK]と表示されるまで本体の ❚❚（一時停止）ボタンを押してください。	14
	• [TLK ON]と表示された場合は、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。	—
⏏ を押しても**ディスクトレイが開かない**。	• 電源を切って電源コードを抜きます。本体の ⏏（開/閉）ボタンを押しながら電源コードをつなぎ直し、ディスクトレイが出たら ⏏（開/閉）ボタンをはなしてください。ディスクを取り出した後、本体の I/⏻（電源）ボタンを10秒以上押し続け、本機を再起動させてください。	—
	• 設定初期化の画面やBDデータを表示している場合は、リモコンの （戻る）を押してひとつ前の画面に戻ってから、もう一度 ⏏（開/閉）ボタンを押してください。	—
正常に動作しない。	• 本機の内部が結露していることがあります。	—
	• 本体表示窓の表示が消えるまで、本体の I/⏻（電源）ボタンを10秒以上押し続けてください。もし正常に動作しない場合は、電源コードをつなぎ直してください。	—

表示窓にアルファベットで始まる表示が出たら（自己診断機能）

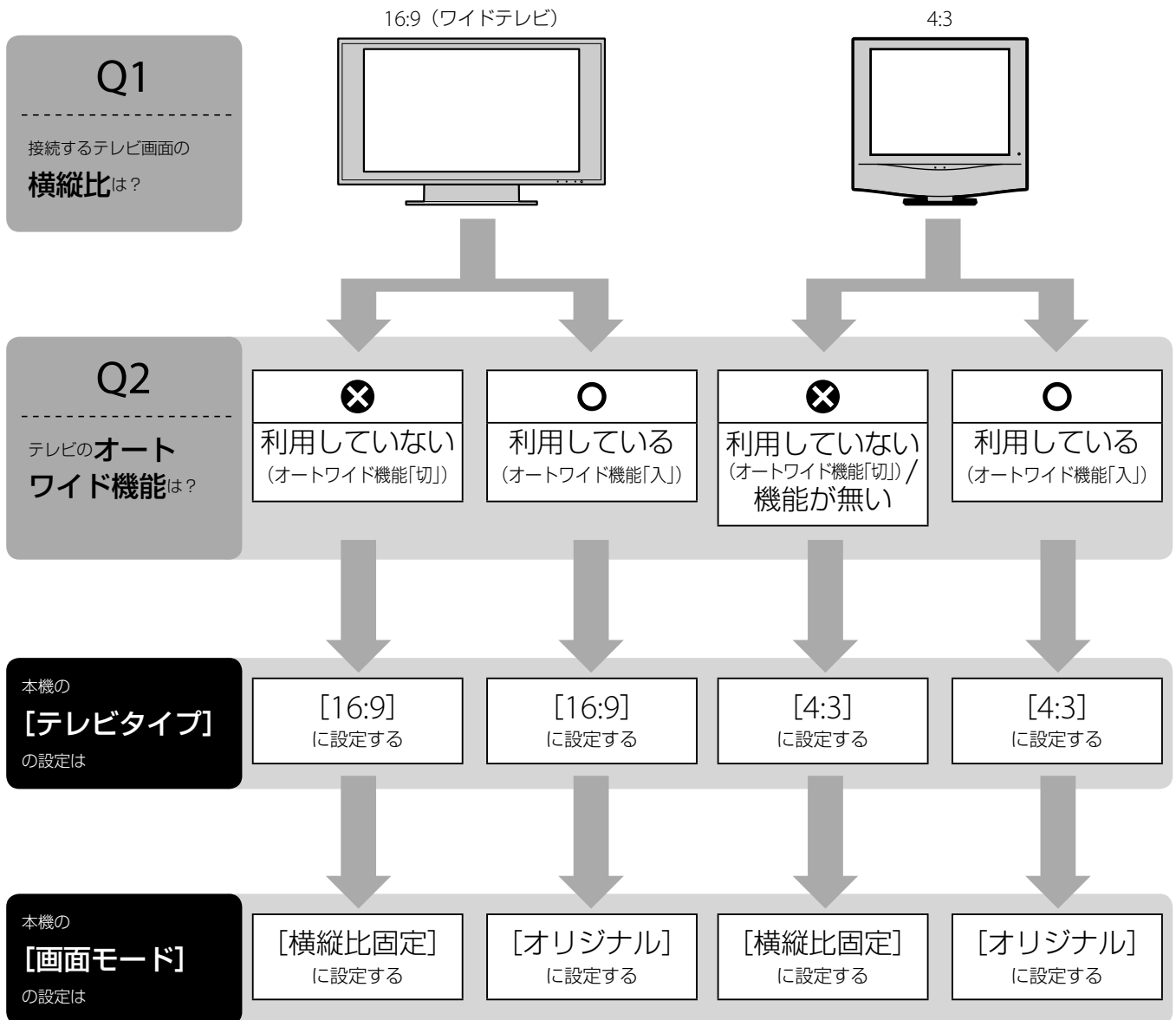
本機の異常を未然に防ぐために自己診断機能が働くと、表示窓にエラーコード、または画面全体に ⚠ のみが表示されます。その際は次のように対応してください。

エラーコード	原因と対策
EXXXX SYS ERR （Xは任意の数）	異常を未然に防ぐため自己診断機能が働いている。 ➡ ソニーの相談窓口（▶裏表紙）へお問い合わせください。その際はサービス番号の5桁すべてをお知らせください。 例：E 61 10
FAN ERR	• 本機後面の通風孔がふさがれていないか確認してください。 • 高温になるのを避けるため、風通しのいい場所に設置してください。

⚠ のみが画面全体に表示された場合

ソニーの相談窓口（▶裏表紙）へお問い合わせください。

テレビに表示される画面の横縦比について

ワイドテレビやワイドモード付きのテレビのときは、テレビ側のワイドモード設定によって表示のされかたが異なります。テレビの取扱説明書もあわせてご覧になり、ワイドモードの設定もご覧ください。

16:9のテレビで画面の映像が正しく表示されないときは

映像の見えかた	症状	対処のしかた
	映像が左右に圧縮されて表示され、黒帯が付いている	テレビで　ワイド切換機能で画面全体に表示できるようにします。(記録されている映像によってはできない場合があります。)
	映像が上下に圧縮されて表示され、黒帯が付いている	本機で　[テレビタイプ]を[16:9]に設定します。 テレビで　ワイド切換機能で画面全体に表示できるようにします。(記録されている映像によってはできない場合があります。)
	映像の上下左右に黒帯が付いている	テレビで　ワイド切換機能で画面全体に表示できるようにします。(記録されている映像によってはできない場合があります。)

4:3のテレビで画面の映像が正しく表示されないときは

映像の見えかた	症状	対処のしかた
	映像が左右に圧縮されて表示され、黒帯が付いている	本機で　[テレビタイプ]を[4：3]に設定します。
	映像が縦長で画面いっぱいに表示されている	本機で　[テレビタイプ]を[4：3]、[画面モード]を[横縦比固定]に設定します。

16:9のテレビで4:3の映像を画面いっぱいに引き伸ばして見たいときは

本機で　[テレビタイプ]を[16：9]、画面モードを[オリジナル]に設定します。

テレビで　ワイド切換機能で画面全体に表示できるようにします。(記録されている映像によってはできない場合があります。)

再生できるディスク一覧

ディスクの種類	ロゴ	本書内のマーク	内容
BD	Blu-ray Disc	BD	BDMVモードまたはBDAVモードの BD-ROM/BD-RE/BD-R （8 cmディスクや2層ディスクを含む）
DVDビデオ	DVD VIDEO	DVD	映画などが記録された市販またはレンタルされているDVD
DVD	DVD RW DVD R R4.7 RW DVD+ReWritable RW DVD+R RW DVD+R DL	DVD	+VRモードのDVD+RW/DVD+R、VideoモードまたはVRモードのDVD-RW/DVD-R （8 cmディスクやDVD+R DL、DVD-R DLを含む）
データDVD		DATA DVD	JPEG形式の画像ファイルが入った DVD+RW/DVD+R/DVD-RW/DVD-R
CD	COMPACT disc DIGITAL AUDIO	CD	音楽CDまたは音楽CD形式のCD-R/CD-RW
データCD	—	DATA CD	JPEG形式の画像ファイルが入ったCD-R/CD-RW

BDの互換性について

BDは新しい規格で日々進化を続けているため、ディスクの種類やバージョンによっては再生できない場合があります。
音源や出力端子、音声設定などにより出力される音質が異なります。詳細は70ページをご覧ください。

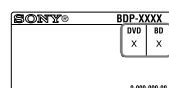
再生できないディスク

- カートリッジ型BD
- DVD-RAM
- HD DVD
- DVDオーディオ
- フォトCD
- CD EXTRAのデータ部分
- VCD/スーパー VCD
- スーパーオーディオCDの高密度記録層
- DualDiscの音楽専用面
- リージョンコードが異なるBD-ROM/DVD VIDEO
- 本機の映像方式（NTSC）と異なる映像方式（PALなど）で記録されたディスク

BD/DVD再生時の操作について

BD/DVD再生時の操作は、ソフトウェアで決められています。本機はBD/DVDのソフトウェアにしたがって再生するため、いくつかの機能が使えないことがあります。詳しくはBD/DVDに付属の取扱説明書をご覧ください。

リージョンコードについて（BD-ROM/DVDビデオのみ）

BD-ROM/DVDビデオには著作権保護のためのリージョンコードがあります。本機は、本機後面のラベルに記載されたものと同じリージョンコードのBD-ROM/DVDビデオしか再生できません。
ALL がついているDVDビデオは本機で再生できます。
BD-ROM/DVDビデオによっては、視聴地域制限により再生できないBD-ROM/DVDビデオでも、リージョンコードが明記されていない場合があります。

AVCHD規格で記録されたディスクの再生について

本機はAVCHD規格で記録されたディスクを再生できます。ただし、すべてのディスクを動作保証するものではありません。

AVCHD

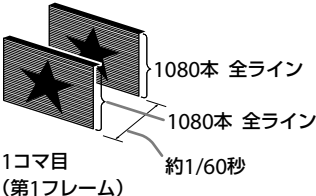
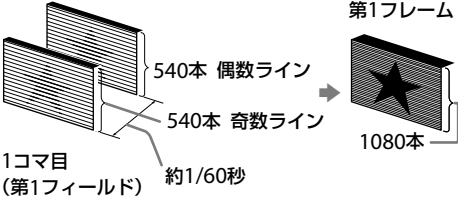
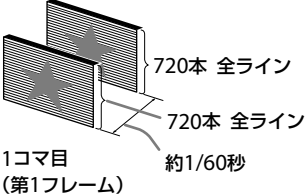
AVCHDは高度な圧縮技術により、1080iまたは720pのHD（ハイビジョン）映像を記録するハイビジョンデジタルビデオカメラの規格です。映像の圧縮にはMPEG-4AVC/H.264方式、音声の圧縮にはドルビーデジタルまたはリニアPCMが用いられます。MPEG-4AVC/H.264方式は、従来の圧縮方式に比べて高い圧縮符号化効率を持ちます。

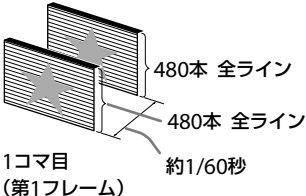
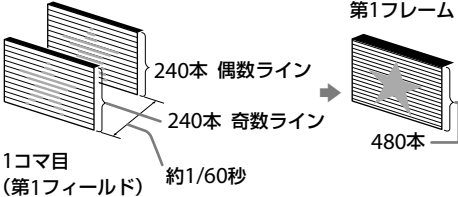
ディスクに関するご注意

- 記録済みBD-RE/BD-RまたはDVD+RW/DVD+R、DVD-RW/DVD-R、CD-RW/CD-Rは、傷や汚れ、また記録状態や記録機器、BD/DVD/CD記録ソフトの特性などにより再生できないことがあります。また、レコーダーやパソコンで記録したディスクで、終了情報を記録するファイナライズ処理を正しくしていないDVDおよびCDは再生できません。詳しくは、記録した機器の取扱説明書をお読みください。正しくファイナライズ処理されていても、一部の再生操作ができないことがあります。その場合は、通常再生でご覧ください。
- 本製品は、コンパクトディスク（CD）規格に準拠した音楽ディスクの再生を前提として設計されています。いくつかのレコード会社より著作権保護を目的とした技術が搭載された音楽ディスクが販売されていますが、これらの中にはCD規格に準拠していないものもあり、本製品で再生できない場合があります。
- 2層BDや2層DVDを再生する場合、レイヤー（層）が切り換わるときに映像や音声が一瞬途切れることがあります。
- 8 cm BD-RE/8 cm BD-Rは本機で再生できない場合があります。
- 本製品はVer.2.1のBD-RE、Ver.1.1、Ver.1.2およびVer.1.3のBD-R（LTH*を含む）に対応しています。

  * Low to High：有機色素系BD-Rに対応した記録方式。
- 本機はDTS 5.1 MUSIC DISCを再生できます。音声信号は「音声出力信号について」の表にしたがって出力されます（70ページ）。

DualDiscについてのご注意

DualDiscとはDVD規格に準拠した面と、音楽専用面とを組み合わせた新しい両面ディスクです。
なお、この音楽専用面はコンパクトディスク（CD）に規格には準拠していないため、本製品での再生は保証いたしません。

ご注意

- 記録状態によってはAVCHD規格の映像を再生できないことがあります。
- 正しくファイナライズされていない場合はAVCHD規格の映像を再生できないことがあります。

映像の解像度について

本機から出力できる映像解像度には全部で5種類あります。

ハイビジョン画質 HD

映像解像度	説明
1080p (1125p)	2コマ目(第2フレーム) 1080本 全ライン 1080本 全ライン 1コマ目 (第1フレーム) 約1/60秒
1080i (1125i)	2コマ目(第2フィールド) 第1フレーム 540本 偶数ライン 540本 奇数ライン 1080本 1コマ目 (第1フィールド) 約1/60秒
720p (750p)	2コマ目(第2フレーム) 720本 全ライン 720本 全ライン 1コマ目 (第1フレーム) 約1/60秒

標準画質 SD

映像解像度	説明
480p (525p)	2コマ目(第2フレーム) 480本 全ライン 480本 全ライン 1コマ目 (第1フレーム) 約1/60秒
480i (525i)	2コマ目(第2フィールド) 第1フレーム 240本 偶数ライン 240本 奇数ライン 480本 1コマ目 (第1フィールド) 約1/60秒

iはインターレース(飛び越し走査)、pはプログレッシブ(順次走査)の略。映像解像度の数字は有効走査線数を示し、( )内は総走査線数で数えたときの別称です。

映像出力解像度について

［映像設定］の［出力映像解像度設定］（47ページ）とつないでいる映像端子により、出力解像度は以下のように変わります。

解像度設定	［出力映像解像度設定］が［HDMI］のとき			［出力映像解像度設定］が［D映像またはコンポーネント映像］のとき		
	VIDEO OUT（VIDEO/S VIDEO）端子	D1/D2/D3/D4 VIDEO OUT端子、COMPONENT VIDEO OUT端子	HDMI OUT端子	VIDEO OUT（VIDEO/S VIDEO）端子	D1/D2/D3/D4 VIDEO OUT端子、COMPONENT VIDEO OUT端子	HDMI OUT端子
480i	480i	480i	480i	480i	480i	480i
480p	480i	480i	480p	480i	480p	480p
720p	480i	480i	720p	480i	720p*[1]	720p*[1]
1080i	480i	480i	1080i	480i	1080i*[1]	1080i*[1]
1080p	480i*[2]	480i*[2]	1080p	選択不可	選択不可	選択不可

*[1] DVDで著作権が保護されている場合、解像度は480pになります。
*[2] 解像度を1080/24 p で出力しているときは、映像は表示されません。

［出力映像解像度設定］が［映像またはS映像］のとき

つないでいる端子がVIDEO OUT（VIDEO/S VIDEO）端子またはD1/D2/D3/D4 VIDEO OUT端子、COMPONENT VIDEO OUT端子の場合は480iの映像信号、HDMI OUT端子の場合は480pの映像信号が出力されます。

音声出力信号について

音源や出力端子、本機の設定によって、音声出力は次のように変わります。

ディスク／音源		端子／設定[*1] デジタル HDMI OUT端子[*2] 自動[*3]	2チャンネルPCM[*3]	DIGITAL OUT（COAXIAL/OPTICAL）端子 ビットストリーム[*4]	PCM	アナログ MULTI CHANNEL OUTPUT端子[*2]	AUDIO OUT L/R端子
BD	LPCM 2ch	LPCM 2ch	LPCM 2ch	LPCM 2ch	LPCM 2ch	2ch	2ch
	LPCM 5.1ch	LPCM 5.1ch	LPCM 2ch	LPCM 2ch	LPCM 2ch	5.1ch	2ch
	LPCM 7.1ch	LPCM 7.1ch	LPCM 2ch	LPCM 2ch	LPCM 2ch	7.1ch	2ch
	ドルビーデジタル	LPCM 5.1ch[*5]	LPCM 2ch	ドルビーデジタル/LPCM 2ch[*6]	LPCM 2ch	5.1ch	2ch
	ドルビーデジタルプラス	LPCM 7.1ch[*5]	LPCM 2ch	ドルビーデジタル/LPCM 2ch[*6]	LPCM 2ch	7.1ch	2ch
	ドルビー TrueHD	LPCM 7.1ch[*5]	LPCM 2ch	ドルビーデジタル/LPCM 2ch[*6]	LPCM 2ch	7.1ch	2ch
	DTS	LPCM 5.1ch[*5]	LPCM 2ch	DTS/LPCM 2ch[*6]	LPCM 2ch	5.1ch	2ch
	DTS-HD High Resolution Audio	LPCM 7.1ch[*5]	LPCM 2ch	DTS/LPCM 2ch[*6]	LPCM 2ch	7.1ch	2ch
	DTS-HD Master Audio	LPCM 7.1ch[*5]	LPCM 2ch	DTS/LPCM 2ch[*6]	LPCM 2ch	7.1ch	2ch
	AAC	LPCM 5.1ch[*5]	LPCM 2ch	AAC/LPCM 2ch[*6]	LPCM 2ch	5.1ch	2ch
DVD	LPCM	LPCM 2ch	LPCM 2ch	LPCM 2ch	LPCM 2ch	2ch	2ch
	ドルビーデジタル	ドルビーデジタル	LPCM 2ch	ドルビーデジタル	LPCM 2ch	5.1ch	2ch
CD	LPCM	LPCM	LPCM 2ch	LPCM 2ch	LPCM 2ch	2ch	2ch
DTS 5.1 MUSIC DISC		DTS	LPCM 2ch	DTS	LPCM 2ch	5.1ch	2ch

*1 [優先音声端子]（49ページ）が[アナログ音声]のとき、どの端子につないでもLPCM 2chで出力されます。

*2 [優先音声端子]（49ページ）が[HDMI]、[デジタル音声]または[マルチチャンネル音声]のとき、選んでいない端子からはLPCM 2chで出力されます。

*3 自動：[音声設定]の[HDMI音声出力]（51ページ）で[自動]を選んだときを指します。
2ch PCM：[音声設定]の[HDMI音声出力]（51ページ）で[2チャンネルPCM]を選んだときを指します。

*4 ビットストリーム：[音声設定]の[ドルビーデジタル]（51ページ）で[ドルビーデジタル]を選んだとき、[AAC]（51ページ）で[AAC]を選んだときまたは[DTS]（52ページ）で[DTS]を選んだときを指します。

*5 [BD音声設定]（51ページ）が[ダイレクト]のとき、記録されている音声ストリームがビットストリームで出力されますが、AVアンプが対応している音声規格によっては、次のように出力される音声が変わります。
- ドルビー TrueHDやDTS-HDなどのHD音声に対応していないが、マルチチャンネルLPCMに対応しているAVアンプの場合、マルチチャンネルLPCM（最大7.1ch）で出力されます。
- HD音声やマルチチャンネルLPCMに対応していないが、ドルビーデジタル、AACまたはDTSに対応しているAVアンプの場合、ドルビーデジタル、AACまたはDTSビットストリームが出力されます。
- HD音声やマルチチャンネルLPCM、ドルビーデジタル、AACまたはDTSに対応していないAVアンプの場合、LPCM 2chが出力されます。

*6 プライマリーオーディオが2ch以下の場合は、LPCM 2chとして出力されます。

AAC（Advanced Audio Coding）は、Moving Picture Experts Group（MPEG）において規格化された音声圧縮方式で、BS・110度CSデジタル放送や地上デジタル放送で使用されています。

ご注意

480iまたは480pの映像信号が出力されている場合、[音声設定]の[BD音声設定]（51ページ）が[ダイレクト]に設定されていても、ドルビーTrueHDやDTS-HD Master Audioは、LPCMまたはドルビーデジタル、DTSビットストリームで出力されます。

言語コード一覧

詳しくは、53ページをご覧ください。

コード	言語
1027	Afar
1028	Abkhazian
1032	Afrikaans
1039	Amharic
1044	Arabic
1045	Assamese
1051	Aymara
1052	Azerbaijani
1053	Bashkir
1057	Belarusian
1059	Bulgarian
1060	Bihari
1061	Bislama
1066	Bengali; Bangla
1067	Tibetan
1070	Breton
1079	Catalan
1093	Corsican
1097	Czech
1103	Welsh
1105	Danish
1109	German
1130	Bhutani
1142	Greek
1144	English
1145	Esperanto
1149	Spanish
1150	Estonian
1151	Basque
1157	Persian
1165	Finnish
1166	Fiji
1171	Faroese
1174	French
1181	Frisian

コード	言語
1183	Irish
1186	Scots Gaelic
1194	Galician
1196	Guarani
1203	Gujarati
1209	Hausa
1217	Hindi
1226	Croatian
1229	Hungarian
1233	Armenian
1235	Interlingua
1239	Interlingue
1245	Inupiak
1248	Indonesian
1253	Icelandic
1254	Italian
1257	Hebrew
1261	Japanese
1269	Yiddish
1283	Javanese
1287	Georgian
1297	Kazakh
1298	Greenlandic
1299	Cambodian
1300	Kannada
1301	Korean
1305	Kashmiri
1307	Kurdish
1311	Kirghiz
1313	Latin
1326	Lingala
1327	Laothian
1332	Lithuanian
1334	Latvian; Lettish
1345	Malagasy

コード	言語
1347	Maori
1349	Macedonian
1350	Malayalam
1352	Mongolian
1353	Moldavian
1356	Marathi
1357	Malay
1358	Maltese
1363	Burmese
1365	Nauru
1369	Nepali
1376	Dutch
1379	Norwegian
1393	Occitan
1403	(Afan)Oromo
1408	Oriya
1417	Punjabi
1428	Polish
1435	Pashto; Pushto
1436	Portuguese
1463	Quechua
1481	Rhaeto-Romance
1482	Kirundi
1483	Romanian
1489	Russian
1491	Kinyarwanda
1495	Sanskrit
1498	Sindhi
1501	Sangho
1502	Serbo-Croatian
1503	Singhalese
1505	Slovak
1506	Slovenian
1507	Samoan
1508	Shona

コード	言語
1509	Somali
1511	Albanian
1512	Serbian
1513	Siswati
1514	Sesotho
1515	Sundanese
1516	Swedish
1517	Swahili
1521	Tamil
1525	Telugu
1527	Tajik
1528	Thai
1529	Tigrinya
1531	Turkmen
1532	Tagalog
1534	Setswana
1535	Tonga
1538	Turkish
1539	Tsonga
1540	Tatar
1543	Twi
1557	Ukrainian
1564	Urdu
1572	Uzbek
1581	Vietnamese
1587	Volapük
1613	Wolof
1632	Xhosa
1665	Yoruba
1684	Chinese
1697	Zulu
1703	無指定

言語名表記はISO639：1988（E/F)に準拠

地域コード一覧

詳しくは、54ページをご覧ください。

コード	地域
2044	Argentina
2047	Australia
2046	Austria
2057	Belgium
2070	Brazil
2079	Canada
2090	Chile
2092	China
2093	Colombia
2115	Denmark

コード	地域
2165	Finland
2174	France
2109	Germany
2200	Greece
2219	Hong Kong
2248	India
2238	Indonesia
2239	Ireland
2254	Italy
2276	Japan

コード	地域
2304	Korea
2333	Luxembourg
2363	Malaysia
2362	Mexico
2376	Netherlands
2390	New Zealand
2379	Norway
2427	Pakistan
2424	Philippines
2428	Poland

コード	地域
2436	Portugal
2489	Russia
2501	Singapore
2149	Spain
2499	Sweden
2086	Switzerland
2543	Taiwan
2528	Thailand
2184	United Kingdom

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や放送規格の異なる海外ではお使いになれません。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際にお買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
- 記録内容（コンテンツ）については、保証の対象外です。
- 当社にて記録内容（コンテンツ）の修復、復元、複製などは行いません。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックとご相談を

「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合が悪いときはソニーの相談窓口へ

ソニーの相談窓口（▶裏表紙）へご相談になるときは、次のことをお知らせください。
- 型名：BDP-S5000ES
- ディスクの種類：BD-ROM、DVDビデオ、BD-RE、BD-R、DVD-RW、DVD-Rなど
- つないでいるテレビやAVアンプのメーカーと型名
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日：

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではBDプレーヤーの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後最低8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、サービス窓口にご相談ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

主な仕様

システム

形式　BD/DVDプレーヤー

出力端子

LINE OUT AUDIO L/R
ピンジャック
出力レベル：2 Vrms（負荷インピーダンス：10 kΩ）

DIGITAL OUT（OPTICAL）
角型光ジャック/–18 dBm（発光波長660 nm）

DIGITAL OUT（COAXIAL）
ピンジャック
出力レベル：0.5 Vp-p/75 Ω

MULTI CHANNEL OUTPUT
ピンジャック
出力レベル：2 Vrms（負荷インピーダンス：10 kΩ）

HDMI OUT　19ピン標準コネクタ

COMPONENT VIDEO OUT（Y, PB/CB, PR/CR）
ピンジャック
Y：1.0 Vp-p/75 Ω、PB/CB：0.7 Vp-p/75 Ω、PR/CR：0.7 Vp-p/75 Ω

D1/D2/D3/D4 VIDEO OUT
D映像出力端子
Y：1.0 Vp-p/75 Ω、PB/CB：0.7 Vp-p/75 Ω、PR/CR：0.7 Vp-p/75 Ω

LINE OUT VIDEO
ピンジャック、1.0 Vp-p/75 Ω

LINE OUT S VIDEO
4ピンミニDIN
輝度信号：1.0 Vp-p/75 Ω
色信号：0.286 Vp-p/75 Ω

LAN（100）端子
100BASE-TX

EXT（外部メモリー）スロット
DC出力：最大5 V 500 mA

CONTROL S IN/IR IN
ミニジャック

RS-232C　D-sub 9ピン

電源・その他

電源　AC100 V、50/60 Hz
消費電力　42 W
最大外形寸法　430×125×365 mm
（幅×高さ×奥行き）最大突起含む
本体質量　約10kg
許容動作温度　5℃～ 35℃
許容動作湿度　25% ～ 80%
付属品　「［準備1］付属品を確認する」（17ページ）をご覧ください。

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

商標について

- Blu-ray DiscおよびBlu-ray Discロゴは商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または、登録商標です。
- ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
- Dolby、ドルビー、ProLogic及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
- DTSはDTS, Inc.の登録商標です。そして、DTS-HD Master AudioはDTS, Inc.の商標です。
Manufactured under license under U.S. Patent #'s: 5,451,942; 5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,226,616; 6,487,535 & other U.S. and worldwide patents issued & pending. DTS is a registered trademark and the DTS logos, Symbol, DTS-HD and DTS-HD Master Audio are trademarks of DTS, Inc. ©1996-2007 DTS, Inc. All Rights Reserved.
- “”、“xross media bar” および “XMB” は、ソニー株式会社および株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの商標です。
- AVCHDおよびAVCHDロゴはパナソニック株式会社とソニー株式会社の商標です。
- BD-Live（BDライブ）とBonusView（ボーナスビュー）は、Blu-ray Disc Associationの商標です。
- “x.v.Color” および “**x.v.Color**” は、ソニー株式会社の商標です。
- JavaおよびすべてのJava関連のマークは、米国およびその他の国における米国Sun Microsystems,Inc.の商標または登録商標です。
- “ブラビア プレミアムフォト” および “**ブラビアプレミアムフォト**” は、ソニー株式会社の商標です。
- “ブラビアリンク” および “BRAVIA Link™” は、ソニー株式会社の商標です。
- Super Sub-Alias Filterは、アナログ・デバイセズ社の商標です。
- 本製品に搭載されているフォントの内、新ゴR、新丸ゴRの各書体は株式会社モリサワより提供を受けており、これらの名称は同社の登録商標または商標であり、フォントの著作権も同社に帰属します。

ソフトウェア等に関する重要なお知らせ

この度は弊社製品（以下「本製品」）をお買い上げいただきありがとうございます。
本製品のご使用を開始される前に必ず、本製品に含まれるソフトウェア等に関するこのお知らせをお読みください。お客様による本製品の使用開始をもって、このお知らせの内容をご確認の上、ご同意いただけたものとさせていただきます。

ソフトウェア使用許諾契約書

本製品に含まれるソフトウェア（以下「許諾ソフトウェア」とします）につきまして、下記のソフトウェア使用許諾契約書をお読みください。
なお、本製品にはGNU General Public LicenseまたはGNU Lesser General Public Licenseの適用を受けるソフトウェアが含まれていますが、かかるソフトウェアは「許諾ソフトウェア」には含まれず、下記ソフトウェア使用許諾契約書の対象とはなりませんのでご注意ください。GNU GPL/LGPL適用ソフトウェアの使用許諾条件については、「GNU GPL/LGPL適用ソフトウェアに関するお知らせ」をご覧ください。
また、同様に、本製品には「OpenSSL（「Original SSLeay」ライブラリを含む）」および「NetBSD」、「JPEG」、「fdlibm」、「Root Certificate」が含まれていますが、下記ソフトウェア使用許諾契約書と、各ソフトウェアに関する「お知らせ」に記載されておりますソフトウェアの使用許諾条件に矛盾又は齟齬がある場合には、各「お知らせ」にかかるソフトウェアの範囲において、各「お知らせ」に記載されております使用許諾条件が優先いたします。

ソフトウェア使用許諾契約書

本契約は、お客様（以下「使用者」とします）と弊社（以下「ソニー」とします）との間での許諾ソフトウェアの使用許諾に関する条件を規定しております。

第1条（総則）
許諾ソフトウェアは、日本国内外の著作権法並びに著作者の権利およびこれに隣接する権利に関する諸条約その他知的財産権に関する法律によって保護されています。許諾ソフトウェアは、本契約の条件に従いソニーから使用者に対しての使用許諾されるもので、許諾ソフトウェアの著作権等の知的財産権は使用者に移転いたしません。

第2条（使用権）
1．ソニーは、許諾ソフトウェアの日本国内における非独占的な使用権を使用者に許諾します。
2．本契約によって生ずる許諾ソフトウェアの使用権とは、本製品上においてのみ、使用者が許諾ソフトウェアを使用する権利をいいます。
3．許諾ソフトウェアの使用は私的範囲に限定されるものとし、許諾ソフトウェアを営利目的を含むいかなる目的でも貸与または頒布する事はできません。

第3条（許諾条件）
1．使用者は、許諾ソフトウェアを取扱説明書に記載の使用方法に沿って使用するものとします。
2．使用者は、許諾ソフトウェアおよび関連書類等の一部または全部を複製、複写もしくは修正、追加等の改変をしてはならないものとします。
3．使用者は、許諾ソフトウェアおよび関連書類等を日本国外に輸出、移送をしてはならないものとします。
4．使用者は、許諾ソフトウェアに関しリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等のソースコード解析作業を行ってはならないものとします。
5．使用者は、許諾ソフトウェアの一部を許諾ソフトウェアから切り離して単独のソフトウェアとして使用してはならないものとします。
6．使用者は、許諾ソフトウェアおよび関連書類等を再使用許諾、貸与またはリースその他の方法で第三者に使用させてはならないものとします。
7．使用者は、許諾ソフトウェアおよび関連書類等を使用して、ソニーを含む第三者の著作権、特許権その他の知的財産権を侵害するような行為を行ってはならないものとします。
8．使用者は、許諾ソフトウェアおよび関連書類の著作権もしくは商標にかかる表示等の一部または全部を除去、変更、追加してはならないものとします。
9．使用者は、本製品と共に許諾ソフトウェアの一切（全ての構成部分、マニュアルなどの関連書類、電子文書および本契約書を含みます）を譲受人に譲渡し、かつ当該譲受人が本契約の全条項に同意することを条件とし、許諾ソフトウェアおよび前条に規定するその使用権を第三者に譲渡することが出来るものとします。なお、許諾ソフトウェアの一切が譲受人に譲渡され、かつ当該譲受人が本契約の全条項に同意した時点をもって、当該譲受人とソニーとの間で本契約の内容を条件とする契約が成立し、かつ、元の使用者とソニーとの間での本契約は解除されるものとします。

第4条（許諾ソフトウェアの権利）
許諾ソフトウェアおよびその関連書類に関する著作権等一切の権利は、ソニーまたはソニーが許諾ソフトウェアの再許諾権を許諾された原権利者（以下原権利者とします）に帰属するものとし、使用者は許諾ソフトウェアおよびその関連書類に関して本契約に基づき許諾された使用権以外の権利を有しないものとします。

第5条（ソニーおよび原権利者の免責）
ソニーおよび原権利者は、許諾ソフトウェアについて何等の保証を行うものではなく、使用者が本契約に基づき許諾された使用権を行使することにより生じた使用者もしくは第三者の損害に関していかなる責任も負わないものとします。但し、これを制限する別途法律の定めがある場合はこの限りではありません。

第6条（第三者に対する責任）
使用者が許諾ソフトウェアを使用することにより、第三者との間で著作権、特許権その他の知的財産権の侵害を理由として紛争を生じたときは、使用者自身が自らの費用で解決するものとし、ソニーおよび原権利者に一切の迷惑をかけないものとします。

第7条（自動アップデート）
1．許諾ソフトウェアにはソニーまたはソニーの指定する第三者のサーバーに本製品を接続した際に許諾ソフトウェアが自動的にアップデートされる機能を有するものがあります。使用者が、この自動アップデートの機能を用いない旨設定した場合、または、アップデートをするか否かを問わせる設定にした場合で且つ使用者がアップデートの実行を拒否した場合、使用者による許諾ソフトウェアの使用に関してソニーは何等の責任を負わないものとします。
2．使用者は、前項に従い自動アップデートの機能を有効にした場合、（A）許諾ソフトウェアのセキュリティ機能の向上、エラーの修正、アップデート機能の向上等の目的で許諾ソフトウェアが適宜自動的にアップデートされること、および（B）当該許諾ソフトウェアのアップデートに伴い、許諾ソフトウェアの機能が追加、変更または削除されることがあることに同意するものとします。

第8条（秘密保持）
使用者は、本契約により提供される許諾ソフトウェア、その関連書類等の情報および本契約の内容のうち公然と知られていないものについて秘密を保持するものとし、ソニーの承諾を得ることなく第三者に開示または漏洩しないものとします。

第9条（契約の解除）
ソニーは、使用者において次の各号の一に該当する事由があるときは、直ちに本契約を解除し、またはそれによって蒙った損害の賠償を使用者に対し請求できるものとします。
（1） 本契約に定める条項に違反したとき
（2） 差押、仮差押、仮処分その他強制執行の申立を受けたとき

第10条（許諾ソフトウェアの廃棄）
前条の規定により本契約が終了した場合、使用者は契約の終了した日から2週間以内に許諾ソフトウェア、関連書類およびその複製物を廃棄するものとします。ソニーが要求した場合、使用者は許諾ソフトウェア、関連書類およびその複製物を廃棄した旨を証明する文書をソニーに差し入れするものとします。

第11条（許諾ソフトウェアの更新）
1．使用者が、ネットワークからのダウンロード（第7条に定める自動アップデートを含む）あるいはソニーが提供または販売する更新用CDにより許諾ソフトウェアの更新を行う場合、更新後のソフトウェアについても本契約が適用されるものとします。ただし、ソニーより別の契約条件が提示される場合はこの限りではありません。なお、使用者は、更新用CDを許諾ソフトウェアの更新以外の目的で使用しないものとします。
2．前項に定める更新を行った結果、本製品に何らかの不都合が生じた場合には、ソニーの相談窓口へお問い合わせください（裏表紙）。

第12条（その他）
1．本契約の一部が法律によって無効となった場合でも、当該条項以外は有効に存続するものとします。
2．本契約に定めなき事項もしくは本契約の解釈に疑義を生じた場合には、ソニー、使用者は誠意をもって協議し、解決するものとします。

GNU GPL/LGPL適用ソフトウェアに関するお知らせ

本製品には、以下のGNU General Public License（以下「GPL」とします）またはGNU Lesser General Public License（以下「LGPL」とします）の適用を受けるソフトウェアが含まれております。
お客様は添付のGPL/LGPLの条件に従いこれらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。

パッケージリスト

linux-kernel.tar.gz
pump
lrzsz
busybox
gcc
glibc
netbase
dosfstools
lzo
mkcramfs
hostname
scfs

これらのソースコードは、Webでご提供しております。
ダウンロードする際には、以下のURLにアクセスしてください。
http://www.sony.net/Products/Linux
なお、ソースコードの中身についてのお問い合わせはご遠慮ください。
以下、GNU GENERAL PUBLIC LICENSE の原文を記載します。

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2, June 1991

Preamble
The Licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public License is intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users. This General Public License applies to most of the Free Software Foundation's software and to any other program whose authors commit to using it. (Some other Free Software Foundation software is covered by the GNU Lesser General Public License instead.) You can apply it to your programs, too.

When we speak of free software, we are referring to freedom, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish), that you receive source code or can get it if you want it, that you can change the software or use pieces of it in new free programs; and that you know you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid anyone to deny you these rights or to ask you to surrender the rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the software, or if you modify it.

For example, if you distribute copies of such a program, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that you have. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with two steps: (1) copyright the software, and (2) offer you this license which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the software.

Also, for each author's protection and ours, we want to make certain that everyone understands that there is no warranty for this free software. If the software is modified by someone else and passed on, we want its recipients to know that what they have is not the original, so that any problems introduced by others will not reflect on the original authors' reputations.

Finally, any free program is threatened constantly by software patents. We wish to avoid the danger that redistributors of a free program will individually obtain patent licenses, in effect making the program proprietary. To prevent this, we have made it clear that any patent must be licensed for everyone's free use or not licensed at all.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License applies to any program or other work which contains a notice placed by the copyright holder saying it may be distributed under the terms of this General Public License. The "Program", below, refers to any such program or work, and a "work based on the Program" means either the Program or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Program or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".) Each licensee is addressed as "you".

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running the Program is not restricted, and the output from the Program is covered only if its contents constitute a work based on the Program (independent of having been made by running the Program). Whether that is true depends on what the Program does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Program's source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and give any other recipients of the Program a copy of this License along with the Program.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Program or any portion of it, thus forming a work based on the Program, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

a) You must cause the modified files to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.

b) You must cause any work that you distribute or publish, that in whole or in part contains or is derived from the Program or any part thereof, to be licensed as a whole at no charge to all third parties under the terms of this License.

c) If the modified program normally reads commands interactively when run, you must cause it, when started running for such interactive use in the most ordinary way, to print or display an announcement including an appropriate copyright notice and a notice that there is no warranty (or else, saying that you provide a warranty) and that users may redistribute the program under these conditions, and telling the user how to view a copy of this License. (Exception: if the Program itself is interactive but does not normally print such an announcement, your work based on the Program is not required to print an announcement.)

These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Program, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Program, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Program.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Program with the Program (or with a work based on the Program) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may copy and distribute the Program (or a work based on it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you also do one of the following:

a) Accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

b) Accompany it with a written offer, valid for at least three years, to give any third party, for a charge no more than your cost of physically performing source distribution, a complete machine-readable copy of the corresponding source code, to be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange; or,

c) Accompany it with the information you received as to the offer to distribute corresponding source code. (This alternative is allowed only for noncommercial distribution and only if you received the program in object code or executable form with such an offer, in accord with Subsection b above.)

The source code for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For an executable work, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the executable. However, as a special exception, the source code distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

If distribution of executable or object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place counts as distribution of the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

4. You may not copy, modify, sublicense, or distribute the Program except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense or distribute the Program is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

5. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Program or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Program (or any work based on the Program), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Program or works based on it.

6. Each time you redistribute the Program (or any work based on the Program), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute or modify the Program subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties to this License.

7. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Program at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Program by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Program.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system, which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

8. If the distribution and/or use of the Program is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Program under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

9. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Program specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Program does not specify a version number of this License, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

10. If you wish to incorporate parts of the Program into other free programs whose distribution conditions are different, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

次のページにつづく⇨

NO WARRANTY

11. BECAUSE THE PROGRAM IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE PROGRAM, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE PROGRAM "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE PROGRAM IS WITH YOU. SHOULD THE PROGRAM PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

12. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE PROGRAM AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE PROGRAM (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE PROGRAM TO OPERATE WITH ANY OTHER PROGRAMS), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Programs

If you develop a new program, and you want it to be of the greatest possible use to the public, the best way to achieve this is to make it free software which everyone can redistribute and change under these terms.

To do so, attach the following notices to the program. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the program's name and an idea of what it does.>
Copyright (C) <year> <name of author>

This program is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2 of the License, or (at your option) any later version.

This program is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU General Public License along with this program; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 Temple Place - Suite 330, Boston, MA 02111-1307, USA.

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

If the program is interactive, make it output a short notice like this when it starts in an interactive mode:

Gnomovision version 69, Copyright (C) year name of author Gnomovision comes with ABSOLUTELY NO WARRANTY; for details type `show w'. This is free software, and you are welcome to redistribute it under certain conditions; type `show c' for details.

The hypothetical commands `show w' and `show c' should show the appropriate parts of the General Public License. Of course, the commands you use may be called something other than `show w' and `show c'; they could even be mouse-clicks or menu items--whatever suits your program.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the program, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright
interest in the program `Gnomovision'
(which makes passes at compilers) written
by James Hacker.

<signature of Ty Coon>, 1 April 1989
Ty Coon, President of Vice

This General Public License does not permit incorporating your program into proprietary programs. If your program is a subroutine library, you may consider it more useful to permit linking proprietary applications with the library. If this is what you want to do, use the GNU Lesser General Public License instead of this License.

GNU LESSER GENERAL PUBLIC LICENSE

Version 2.1, February 1999
Copyright (C) 1991, 1999 Free Software Foundation, Inc.

51 Franklin Street, Fifth Floor, Boston, MA 02110-1301 USA
Everyone is permitted to copy and distribute verbatim copies of this license document, but changing it is not allowed.

[This is the first released version of the Lesser GPL. It also counts as the successor of the GNU Library Public License, version 2, hence the version number 2.1.]

Preamble

The licenses for most software are designed to take away your freedom to share and change it. By contrast, the GNU General Public Licenses are intended to guarantee your freedom to share and change free software--to make sure the software is free for all its users.

This license, the Lesser General Public License, applies to some specially designated software packages--typically libraries--of the Free Software Foundation and other authors who decide to use it. You can use it too, but we suggest you first think carefully about whether this license or the ordinary General Public License is the better strategy to use in any particular case, based on the explanations below.

When we speak of free software, we are referring to freedom of use, not price. Our General Public Licenses are designed to make sure that you have the freedom to distribute copies of free software (and charge for this service if you wish); that you receive source code or can get it if you want it; that you can change the software and use pieces of it in new free programs; and that you are informed that you can do these things.

To protect your rights, we need to make restrictions that forbid distributors to deny you these rights or to ask you to surrender these rights. These restrictions translate to certain responsibilities for you if you distribute copies of the library or if you modify it.

For example, if you distribute copies of the library, whether gratis or for a fee, you must give the recipients all the rights that we gave you. You must make sure that they, too, receive or can get the source code. If you link other code with the library, you must provide complete object files to the recipients, so that they can relink them with the library after making changes to the library and recompiling it. And you must show them these terms so they know their rights.

We protect your rights with a two-step method: (1) we copyright the library, and (2) we offer you this license, which gives you legal permission to copy, distribute and/or modify the library.
To protect each distributor, we want to make it very clear that there is no warranty for the free library. Also, if the library is modified by someone else and passed on, the recipients should know that what they have is not the original version, so that the original author's reputation will not be affected by problems that might be introduced by others.

Finally, software patents pose a constant threat to the existence of any free program. We wish to make sure that a company cannot effectively restrict the users of a free program by obtaining a restrictive license from a patent holder. Therefore, we insist that any patent license obtained for a version of the library must be consistent with the full freedom of use specified in this license.

Most GNU software, including some libraries, is covered by the ordinary GNU General Public License. This license, the GNU Lesser General Public License, applies to certain designated libraries, and is quite different from the ordinary General Public License. We use this license for certain libraries in order to permit linking those libraries into non-free programs.

When a program is linked with a library, whether statically or using a shared library, the combination of the two is legally speaking a combined work, a derivative of the original library. The ordinary General Public License therefore permits such linking only if the entire combination fits its criteria of freedom. The Lesser General Public License permits more lax criteria for linking other code with the library.

We call this license the "Lesser" General Public License because it does Less to protect the user's freedom than the ordinary General Public License. It also provides other free software developers Less of an advantage over competing non-free programs. These disadvantages are the reason we use the ordinary General Public License for many libraries. However, the Lesser license provides advantages in certain special circumstances.

For example, on rare occasions, there may be a special need to encourage the widest possible use of a certain library, so that it becomes a de-facto standard. To achieve this, non-free programs must be allowed to use the library. A more frequent case is that a free library does the same job as widely used non-free libraries. In this case, there is little to gain by limiting the free library to free software only, so we use the Lesser General Public License.

In other cases, permission to use a particular library in non-free programs enables a greater number of people to use a large body of free software. For example, permission to use the GNU C Library in non-free programs enables many more people to use the whole GNU operating system, as well as its variant, the GNU/Linux operating system.

Although the Lesser General Public License is Less protective of the users' freedom, it does ensure that the user of a program that is linked with the Library has the freedom and the wherewithal to run that program using a modified version of the Library.

The precise terms and conditions for copying, distribution and modification follow. Pay close attention to the difference between a "work based on the library" and a "work that uses the library". The former contains code derived from the library, whereas the latter must be combined with the library in order to run.

GNU GENERAL PUBLIC LICENSE TERMS AND CONDITIONS FOR COPYING, DISTRIBUTION AND MODIFICATION

0. This License Agreement applies to any software library or other program which contains a notice placed by the copyright holder or other authorized party saying it may be distributed under the terms of this Lesser General Public License (also called "this License"). Each licensee is addressed as "you".

A "library" means a collection of software functions and/or data prepared so as to be conveniently linked with application programs (which use some of those functions and data) to form executables.

The "Library", below, refers to any such software library or work which has been distributed under these terms. A "work based on the Library" means either the Library or any derivative work under copyright law: that is to say, a work containing the Library or a portion of it, either verbatim or with modifications and/or translated straightforwardly into another language. (Hereinafter, translation is included without limitation in the term "modification".)

"Source code" for a work means the preferred form of the work for making modifications to it. For a library, complete source code means all the source code for all modules it contains, plus any associated interface definition files, plus the scripts used to control compilation and installation of the library.

Activities other than copying, distribution and modification are not covered by this License; they are outside its scope. The act of running a program using the Library is not restricted, and output from such a program is covered only if its contents constitute a work based on the Library (independent of the use of the Library in a tool for writing it). Whether that is true depends on what the Library does and what the program that uses the Library does.

1. You may copy and distribute verbatim copies of the Library's complete source code as you receive it, in any medium, provided that you conspicuously and appropriately publish on each copy an appropriate copyright notice and disclaimer of warranty; keep intact all the notices that refer to this License and to the absence of any warranty; and distribute a copy of this License along with the Library.

You may charge a fee for the physical act of transferring a copy, and you may at your option offer warranty protection in exchange for a fee.

2. You may modify your copy or copies of the Library or any portion of it, thus forming a work based on the Library, and copy and distribute such modifications or work under the terms of Section 1 above, provided that you also meet all of these conditions:

   a) The modified work must itself be a software library.
   b) You must cause the files modified to carry prominent notices stating that you changed the files and the date of any change.
   c) You must cause the whole of the work to be licensed at no charge to all third parties under the terms of this License.
   d) If a facility in the modified Library refers to a function or a table of data to be supplied by an application program that uses the facility, other than as an argument passed when the facility is invoked, then you must make a good faith effort to ensure that, in the event an application does not supply such function or table, the facility still operates, and performs whatever part of its purpose remains meaningful.

   (For example, a function in a library to compute square roots has a purpose that is entirely well-defined independent of the application. Therefore, Subsection 2d requires that any application-supplied function or table used by this function must be optional: if the application does not supply it, the square root function must still compute square roots.)

   These requirements apply to the modified work as a whole. If identifiable sections of that work are not derived from the Library, and can be reasonably considered independent and separate works in themselves, then this License, and its terms, do not apply to those sections when you distribute them as separate works. But when you distribute the same sections as part of a whole which is a work based on the Library, the distribution of the whole must be on the terms of this License, whose permissions for other licensees extend to the entire whole, and thus to each and every part regardless of who wrote it.

Thus, it is not the intent of this section to claim rights or contest your rights to work written entirely by you; rather, the intent is to exercise the right to control the distribution of derivative or collective works based on the Library.

In addition, mere aggregation of another work not based on the Library with the Library (or with a work based on the Library) on a volume of a storage or distribution medium does not bring the other work under the scope of this License.

3. You may opt to apply the terms of the ordinary GNU General Public License instead of this License to a given copy of the Library. To do this, you must alter all the notices that refer to this License, so that they refer to the ordinary GNU General Public License, version 2, instead of to this License. (If a newer version than version 2 of the ordinary GNU General Public License has appeared, then you can specify that version instead if you wish.) Do not make any other change in these notices.

Once this change is made in a given copy, it is irreversible for that copy, so the ordinary GNU General Public License applies to all subsequent copies and derivative works made from that copy.

This option is useful when you wish to copy part of the code of the Library into a program that is not a library.

4. You may copy and distribute the Library (or a portion or derivative of it, under Section 2) in object code or executable form under the terms of Sections 1 and 2 above provided that you accompany it with the complete corresponding machine-readable source code, which must be distributed under the terms of Sections 1 and 2 above on a medium customarily used for software interchange.

If distribution of object code is made by offering access to copy from a designated place, then offering equivalent access to copy the source code from the same place satisfies the requirement to distribute the source code, even though third parties are not compelled to copy the source along with the object code.

5. A program that contains no derivative of any portion of the Library, but is designed to work with the Library by being compiled or linked with it, is called a "work that uses the Library". Such a work, in isolation, is not a derivative work of the Library, and therefore falls outside the scope of this License.

However, linking a "work that uses the Library" with the Library creates an executable that is a derivative of the Library (because it contains portions of the Library), rather than a "work that uses the library". The executable is therefore covered by this License. Section 6 states terms for distribution of such executables.

When a "work that uses the Library" uses material from a header file that is part of the Library, the object code for the work may be a derivative work of the Library even though the source code is not. Whether this is true is especially significant if the work can be linked without the Library, or if the work is itself a library. The threshold for this to be true is not precisely defined by law.

If such an object file uses only numerical parameters, data structure layouts and assessors, and small macros and small inline functions (ten lines or less in length), then the use of the object file is unrestricted, regardless of whether it is legally a derivative work. (Executables containing this object code plus portions of the Library will still fall under Section 6.)

Otherwise, if the work is a derivative of the Library, you may distribute the object code for the work under the terms of Section 6. Any executables containing that work also fall under Section 6, whether or not they are linked directly with the Library itself.

6. As an exception to the Sections above, you may also combine or link a "work that uses the Library" with the Library to produce a work containing portions of the Library, and distribute that work under terms of your choice, provided that the terms permit modification of the work for the customer's own use and reverse engineering for debugging such modifications.

You must give prominent notice with each copy of the work that the Library is used in it and that the Library and its use are covered by this License. You must supply a copy of this License. If the work during execution displays copyright notices, you must include the copyright notice for the Library among them, as well as a reference directing the user to the copy of this License. Also, you must do one of these things:

a) Accompany the work with the complete corresponding machine-readable source code for the Library including whatever changes were used in the work (which must be distributed under Sections 1 and 2 above); and, if the work is an executable linked with the Library, with the complete machine-readable "work that uses the Library", as object code and/or source code, so that the user can modify the Library and then relink to produce a modified executable containing the modified Library. (It is understood that the user who changes the contents of definitions files in the Library will not necessarily be able to recompile the application to use the modified definitions.)

b) Use a suitable shared library mechanism for linking with the Library. A suitable mechanism is one that (1) uses at run time a copy of the library already present on the user's computer system, rather than copying library functions into the executable, and (2) will operate properly with a modified version of the library, if the user installs one, as long as the modified version is interface-compatible with the version that the work was made with.

c) Accompany the work with a written offer, valid for at least three years, to give the same user the materials specified in Subsection 6a, above, for a charge no more than the cost of performing this distribution.

d) If distribution of the work is made by offering access to copy from a designated place, offer equivalent access to copy the above specified materials from the same place.

e) Verify that the user has already received a copy of these materials or that you have already sent this user a copy.

For an executable, the required form of the "work that uses the Library" must include any data and utility programs needed for reproducing the executable from it. However, as a special exception, the materials to be distributed need not include anything that is normally distributed (in either source or binary form) with the major components (compiler, kernel, and so on) of the operating system on which the executable runs, unless that component itself accompanies the executable.

It may happen that this requirement contradicts the license restrictions of other proprietary libraries that do not normally accompany the operating system. Such a contradiction means you cannot use both them and the Library together in an executable that you distribute.

7. You may place library facilities that are a work based on the Library side-by-side in a single library together with other library facilities not covered by this License, and distribute such a combined library, provided that the separate distribution of the work based on the Library and of the other library facilities is otherwise permitted, and provided that you do these two things:

   a) Accompany the combined library with a copy of the same work based on the Library, uncombined with any other library facilities. This must be distributed under the terms of the Sections above.
   b) Give prominent notice with the combined library of the fact that part of it is a work based on the Library, and explaining where to find the accompanying uncombined form of the same work.

8. You may not copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library except as expressly provided under this License. Any attempt otherwise to copy, modify, sublicense, link with, or distribute the Library is void, and will automatically terminate your rights under this License. However, parties who have received copies, or rights, from you under this License will not have their licenses terminated so long as such parties remain in full compliance.

9. You are not required to accept this License, since you have not signed it. However, nothing else grants you permission to modify or distribute the Library or its derivative works. These actions are prohibited by law if you do not accept this License. Therefore, by modifying or distributing the Library (or any work based on the Library), you indicate your acceptance of this License to do so, and all its terms and conditions for copying, distributing or modifying the Library or works based on it.

10. Each time you redistribute the Library (or any work based on the Library), the recipient automatically receives a license from the original licensor to copy, distribute, link with or modify the Library subject to these terms and conditions. You may not impose any further restrictions on the recipients' exercise of the rights granted herein. You are not responsible for enforcing compliance by third parties with this License.

11. If, as a consequence of a court judgment or allegation of patent infringement or for any other reason (not limited to patent issues), conditions are imposed on you (whether by court order, agreement or otherwise) that contradict the conditions of this License, they do not excuse you from the conditions of this License. If you cannot distribute so as to satisfy simultaneously your obligations under this License and any other pertinent obligations, then as a consequence you may not distribute the Library at all. For example, if a patent license would not permit royalty-free redistribution of the Library by all those who receive copies directly or indirectly through you, then the only way you could satisfy both it and this License would be to refrain entirely from distribution of the Library.

If any portion of this section is held invalid or unenforceable under any particular circumstance, the balance of the section is intended to apply, and the section as a whole is intended to apply in other circumstances.

It is not the purpose of this section to induce you to infringe any patents or other property right claims or to contest validity of any such claims; this section has the sole purpose of protecting the integrity of the free software distribution system which is implemented by public license practices. Many people have made generous contributions to the wide range of software distributed through that system in reliance on consistent application of that system; it is up to the author/donor to decide if he or she is willing to distribute software through any other system and a licensee cannot impose that choice.

This section is intended to make thoroughly clear what is believed to be a consequence of the rest of this License.

12. If the distribution and/or use of the Library is restricted in certain countries either by patents or by copyrighted interfaces, the original copyright holder who places the Library under this License may add an explicit geographical distribution limitation excluding those countries, so that distribution is permitted only in or among countries not thus excluded. In such case, this License incorporates the limitation as if written in the body of this License.

次のページにつづく⇨

13. The Free Software Foundation may publish revised and/or new versions of the Lesser General Public License from time to time. Such new versions will be similar in spirit to the present version, but may differ in detail to address new problems or concerns.

Each version is given a distinguishing version number. If the Library specifies a version number of this License which applies to it and "any later version", you have the option of following the terms and conditions either of that version or of any later version published by the Free Software Foundation. If the Library does not specify a license version number, you may choose any version ever published by the Free Software Foundation.

14. If you wish to incorporate parts of the Library into other free programs whose distribution conditions are incompatible with these, write to the author to ask for permission. For software which is copyrighted by the Free Software Foundation, write to the Free Software Foundation; we sometimes make exceptions for this. Our decision will be guided by the two goals of preserving the free status of all derivatives of our free software and of promoting the sharing and reuse of software generally.

NO WARRANTY

15. BECAUSE THE LIBRARY IS LICENSED FREE OF CHARGE, THERE IS NO WARRANTY FOR THE LIBRARY, TO THE EXTENT PERMITTED BY APPLICABLE LAW. EXCEPT WHEN OTHERWISE STATED IN WRITING THE COPYRIGHT HOLDERS AND/OR OTHER PARTIES PROVIDE THE LIBRARY "AS IS" WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESSED OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. THE ENTIRE RISK AS TO THE QUALITY AND PERFORMANCE OF THE LIBRARY IS WITH YOU. SHOULD THE LIBRARY PROVE DEFECTIVE, YOU ASSUME THE COST OF ALL NECESSARY SERVICING, REPAIR OR CORRECTION.

16. IN NO EVENT UNLESS REQUIRED BY APPLICABLE LAW OR AGREED TO IN WRITING WILL ANY COPYRIGHT HOLDER, OR ANY OTHER PARTY WHO MAY MODIFY AND/OR REDISTRIBUTE THE LIBRARY AS PERMITTED ABOVE, BE LIABLE TO YOU FOR DAMAGES, INCLUDING ANY GENERAL, SPECIAL, INCIDENTAL OR CONSEQUENTIAL DAMAGES ARISING OUT OF THE USE OR INABILITY TO USE THE LIBRARY (INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF DATA OR DATA BEING RENDERED INACCURATE OR LOSSES SUSTAINED BY YOU OR THIRD PARTIES OR A FAILURE OF THE LIBRARY TO OPERATE WITH ANY OTHER SOFTWARE), EVEN IF SUCH HOLDER OR OTHER PARTY HAS BEEN ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES.

END OF TERMS AND CONDITIONS

How to Apply These Terms to Your New Libraries
If you develop a new library, and you want it to be of the greatest possible use to the public, we recommend making it free software that everyone can redistribute and change. You can do so by permitting redistribution under these terms (or, alternatively, under the terms of the ordinary General Public License).

To apply these terms, attach the following notices to the library. It is safest to attach them to the start of each source file to most effectively convey the exclusion of warranty; and each file should have at least the "copyright" line and a pointer to where the full notice is found.

<one line to give the library's name and an idea of what it does.>
Copyright (C) <year> <name of author>

This library is free software; you can redistribute it and/or modify it under the terms of the GNU Lesser General Public License as published by the Free Software Foundation; either version 2.1 of the License, or (at your option) any later version.

This library is distributed in the hope that it will be useful, but WITHOUT ANY WARRANTY; without even the implied warranty of MERCHANTABILITY or FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. See the GNU Lesser General Public License for more details.

You should have received a copy of the GNU Lesser General Public License along with this library; if not, write to the Free Software Foundation, Inc., 59 Temple Place, Suite 330, Boston, MA 02111-1307 USA

Also add information on how to contact you by electronic and paper mail.

You should also get your employer (if you work as a programmer) or your school, if any, to sign a "copyright disclaimer" for the library, if necessary. Here is a sample; alter the names:

Yoyodyne, Inc., hereby disclaims all copyright interest in the library `Frob' (a library for tweaking knobs) written by James Random Hacker.

signature of Ty Coon, 1 April 1990
Ty Coon, President of Vice

That's all there is to it!

OpenSSLソフトウェアに関するお知らせ

本製品には、弊社がその著作権者とのライセンス契約に基づき使用しているソフトウェアである「OpenSSL（「Original SSLeay」と称するライブラリーを含む）」が搭載されております。当該ソフトウェアの著作権者の要求に基づき、弊社は、以下の内容をお客様に通知する義務があります。

下記内容をご一読くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。
パッケージ名 sony-target-grel-openssl-0.9.8g-020201.src.rpm

OpenSSL
Copyright (c) 1998-2006 The OpenSSL Project. All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit. (http://www.openssl.org/)"

4. The names "OpenSSL Toolkit" and "OpenSSL Project" must not be used to endorse or promote products derived from this software without prior written permission. For written permission, please contact openssl-core@openssl.org.

5. Products derived from this software may not be called "OpenSSL" nor may "OpenSSL" appear in their names without prior written permission of the OpenSSL Project.

6. Redistributions of any form whatsoever must retain the following acknowledgment:
"This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (http://www.openssl.org/)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE OpenSSL PROJECT ``AS IS" AND ANY EXPRESSED OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE OpenSSL PROJECT OR ITS CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION)
HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE)
ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com). This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Original SSLeay License

Original SSLeay
Copyright (C) 1995-1998 Eric Young (eay@cryptsoft.com)
All rights reserved.

This package is an SSL implementation written by Eric Young (eay@cryptsoft.com).
The implementation was written so as to conform with Netscapes SSL.

This library is free for commercial and non-commercial use as long as the following conditions are aheared to. The following conditions apply to all code found in this distribution, be it the RC4, RSA, lhash, DES, etc., code; not just the SSL code. The SSL documentation included with this distribution is covered by the same copyright terms except that the holder is Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com).

Copyright remains Eric Young's, and as such any Copyright notices in the code are not to be removed.
If this package is used in a product, Eric Young should be given attribution as the author of the parts of the library used. This can be in the form of a textual message at program startup or in documentation (online or textual) provided with the package.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.

2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.

3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
"This product includes cryptographic software written by Eric Young (eay@cryptsoft.com)"
The word 'cryptographic' can be left out if the rouines from the library being used are not cryptographic related :-).

4. If you include any Windows specific code (or a derivative thereof) from the apps directory (application code) you must include an acknowledgement:
"This product includes software written by Tim Hudson (tjh@cryptsoft.com)"

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY ERIC YOUNG ``AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The licence and distribution terms for any publically available version or derivative of this code cannot be changed. i.e. this code cannot simply be copied and put under another distribution licence [including the GNU Public Licence.]

FreeType

The FreeType Project is copyright (C) 1996-2000 by David Turner, Robert Wilhelm, and Werner Lemberg. All rights reserved except as specified below.

THE FREETYPE PROJECT IS PROVIDED 'AS IS' WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EITHER EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE. IN NO EVENT WILL ANY OF THE AUTHORS OR COPYRIGHT HOLDERS BE LIABLE FOR ANY DAMAGES CAUSED BY THE USE OR THE INABILITY TO USE, OF THE FREETYPE PROJECT.

NetBSDソフトウェアに関するお知らせ

BSD License

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. All advertising materials mentioning features or use of this software must display the following acknowledgement:
   This product includes software developed by the NetBSD Foundation, Inc. and its contributors.
4. Neither the name of The NetBSD Foundation nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE REGENTS AND CONTRIBUTORS ``AS IS'' AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE REGENTS OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

The following notices are required to satisfy the license terms of the software that we have mentioned in this document:

This product includes software developed by Adam Glass.
This product includes software developed by Bill Paul.
This product includes software developed by Charles M. Hannum.
This product includes software developed by Christian E. Hopps.
This product includes software developed by Christopher G. Demetriou.
This product includes software developed by Christopher G. Demetriou for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Christos Zoulas.
This product includes software developed by Gardner Buchanan.
This product includes software developed by Gordon W. Ross
This product includes software developed by Jonathan Stone for the NetBSD Project.
This product includes software developed by Manuel Bouyer.
This product includes software developed by Rolf Grossmann.
This product includes software developed by TooLs GmbH.
This product includes software developed by the NetBSD Foundation, Inc. and its contributors.
This product includes software developed by the University of California, Berkeley and its contributors.
This product includes software developed by the University of California, Lawrence Berkeley Laboratory and its contributors.
This product includes software developed by the University of California, Lawrence Berkeley Laboratory.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Wasabi Systems, Inc.
This product includes software developed for the NetBSD Project by Matthias Drochner..

JPEGに関するお知らせ

本製品の一部には、Independent JPEG Groupの研究成果を使用しています。
パッケージファイル名 sony-target-grel-libjpeg-6b-020201.src.rpm

以上

In plain English:

1. We don't promise that this software works. (But if you find any bugs, please let us know!)
2. You can use this software for whatever you want. You don't have to pay us.
3. You may not pretend that you wrote this software. If you use it in a program, you must acknowledge somewhere in your documentation that you've used the IJG code.

In legalese:
The authors make NO WARRANTY or representation, either express or implied, with respect to this software, its quality, accuracy, merchantability, or fitness for a particular purpose. This software is provided "AS IS", and you, its user assume the entire risk as to its quality and accuracy.

Permission is hereby granted to use, copy, modify, and distribute this software (or portions thereof) for any purpose, without fee, subject to these conditions:
(1) If any part of the source code for this software is distributed, then this README file must be included, with this copyright and no-warranty notice unaltered; and any additions, deletions, or changes to the original files must be clearly indicated in accompanying documentation.
(2) If only executable code is distributed, then the accompanying documentation must state that "this software is based in part on the work of the Independent JPEG Group".
(3) Permission for use of this software is granted only if the user accepts full responsibility for any undesirable consequences; the authors accept NO LIABILITY for damages of any kind.

These conditions apply to any software derived from or based on the IJG code, not just to the unmodified library. If you use our work, you ought to acknowledge us.

Permission is NOT granted for the use of any IJG author's name or company name in advertising or publicity relating to this software or products derived from it. This software may be referred to only as "the Independent JPEG Group's software".

We specifically permit and encourage the use of this software as the basis of commercial products, provided that all warranty or liability claims are assumed by the product vendor.

PuTTYソフトウェアに関するお知らせ

本製品には、PuTTYソフトウェアの一部のコードが搭載されております。
ソースパッケージ：putty-0.58.tar.gz
ライセンス条文：http://www.chiark.greenend.org.uk/~sgtatham/putty/licence.html

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of this software and associated documentation files (the "Software"), to deal in the Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, sublicense, and/or sell copies of the Software, and to permit persons to whom the Software is furnished to do so, subject to the following conditions:

The above copyright notice and this permission notice shall be included in all copies or substantial portions of the Software.

THE SOFTWARE IS PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT. IN NO EVENT SHALL SIMON TATHAM BE LIABLE FOR ANY CLAIM, DAMAGES OR OTHER LIABILITY, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, TORT OR OTHERWISE, ARISING FROM, OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE SOFTWARE OR THE USE OR OTHER DEALINGS IN THE SOFTWARE.

fdlibmソフトウェアに関するお知らせ

@(#)fdlibm.h 1.5 95/01/18

Developed at SunSoft, a Sun Microsystems, Inc. business. Permission to use, copy, modify, and distribute this software is freely granted,provided that this notice is preserved.

Root Certificatesに関するお知らせ

In addition, the Runtimes and Runtime Components may contain one or more root certificates (herein referred to as "Root Certificates"). You may not modify the Root Certificates.

Nano-XMLに関するお知らせ

This software is provided 'as-is', without any express or implied warranty. In no event will the authors be held liable for any damages arising from the use of this software.

Permission is granted to anyone to use this software for any purpose, including commercial applications, and to alter it and redistribute it freely, subject to the following restrictions:

1. The origin of this software must not be misrepresented; you must not claim that you wrote the original software. If you use this software in a product, an acknowledgment in the product documentation would be appreciated but is not required.
2. Altered source versions must be plainly marked as such, and must not be misrepresented as being the original software.
3. This notice may not be removed or altered from any source distribution.

MPEG-4 AVCおよびVC-1に関するお知らせ

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE AND VC-1 PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL AND NON-COMMERCIAL USE OF A CONSUMER TO DECODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD ("AVC VIDEO") AND/OR THE VC-1 STANDARD ("VC-1 VIDEO") THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL AND NON-COMMERCIAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO AND/OR VC-1 VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE. ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C. SEE HTTP://WWW. MPEGLA.COM

用語集

五十音順

サムネイル

複数の画像を一覧表示するために縮小された画像。

視聴年齢制限（35）

国・地域ごとの規制レベルに合わせて、視聴年齢制限に対応したディスクの再生を制限するBD-ROM/DVDの機能。
制限のしかたはBD-ROM/DVDによって異なり、まったく再生できない場合や、過激な場面をとばしたり、別の場面に差し換えて再生する場合などがあります。

ドルビーデジタルプラス（70）

ドルビーラボラトリーズの開発した音声圧縮符号化技術。7.1チャンネルのマルチチャンネルサラウンドに対応しています。

ドルビー TrueHD（70）

可逆圧縮で音声を記録する次世代光ディスクのための技術。8チャンネルまでのマルチチャンネルサラウンドに対応し、高品質なオリジナルの音源を完全に再現します。

ブラビアプレミアムフォト（43）

写真らしい高精細で微妙な質感や色あいの表現を可能にする機能です。「ブラビアプレミアムフォト」に対応したソニー製機器同士の組み合わせで、写真をフルハイビジョン高画質でお楽しみいただけます。人肌や花びらの繊細な描写、砂浜や波の質感など、美しいフォト画質を大画面でお楽しみいただけます。

ブラビアリンク（20）

ハイビジョンテレビ<ブラビア>付属のリモコンで、本機を簡単に操作できます。

ポップアップメニュー（37）

BD-ROMを再生中に、再生を継続させながらメニューを表示させる機能のことです。再生画面を見ながら、チャプターや音声、字幕の変更や設定などが行えます。

リニアPCM（LPCM）（70）

音声信号の符号化方式のひとつで、圧縮と伸張による音声劣化が発生しない方式です。

数字順/アルファベット順

AACS

著作権保護技術のひとつで、「アドバンスド・アクセス・コンテント・システム（Advanced Access Content System）」の略。次世代光ディスクに記録されたデジタルコンテンツを管理するための規格です。これにより、高品質な映像や音声をもつデジタル作品をお楽しみいただけます。

AVCHD（67）

高度な圧縮技術により、1080i*[1]または720p*[2]のHD（ハイビジョン）映像を記録するハイビジョンデジタルビデオカメラの規格。映像の圧縮にはMPEG-4AVC/H.264方式、音声の圧縮にはドルビーデジタルまたはリニアPCMが用いられます。MPEG-4AVC/H.264方式は、従来の圧縮方式に比べて高い圧縮符号化効率を持ちます。

*[1] 有効走査線数が1080本で、表示方式はインターレース方式

*[2] 有効走査線数が720本で、表示方式はプログレッシブ方式

BD（Blu-ray Disc）（8）

大容量データの保存やハイビジョン映像の記録・再生を目的として開発されたディスクフォーマット。BDは片面1層のディスクで25GBまで2層のディスクで50GBまでのデータを記録できます。

BD-J

双方向操作を可能とするためにBD-ROMフォーマットではJavaをサポートしています。
"BD-J"と呼ばれるJavaアプリケーションは、コンテンツ制作者がBD-ROMタイトル用に双方向コンテンツを作る上で自由度の高い機能を提供しています。

BD-R（Blu-ray Disc Recordable）（66）

一度だけ記録可能なBD。記録したコンテンツは上書きできないため、大切なデータの保存や映像素材の保管・配布に使用できます。

BD-RE（Blu-ray Disc Rewritable）（66）

何度も書き換えが可能なBD。上書き可能なため、さまざまな編集や、テレビ番組の予約録画などに適しています。

BD-ROM（Blu-ray Disc Read-Only Memory）（66）

映画などの映像を記録して市販される読み込み専用のBD。映画などの映像素材をハイビジョン画質で収録できることに加え、双方向性コンテンツ、ポップアップメニューによるメニュー操作、字幕のさまざまな表示方法や、スライドショーなどの拡張機能があります。映像の記録はMPEG2に加えて、新世代コーデックMPEG4 AVCやSMPTE VC-1に対応。また音声では最大8chのサラウンド音声を収録可能で、今までにない迫力の映像と音声をお楽しみいただけます。

D映像端子（21）

D映像入力端子付きテレビと1本のケーブルでかんたんにコンポーネント映像信号を接続できます。D映像出力端子には対応する信号フォーマットによってD1、D2、D3、D4端子があります。

- D1端子：525i（480i）の信号
- D2端子：525i（480i）と525p（480p）の信号
- D3端子：525i（480i）と525p（480p）、1125i（1080i）の信号
- D4端子：525i（480i）と525p（480p）、1125i（1080i）、750p（720p）の信号

* iはインターレース、pはプログレッシブの略。カッコ内の数字は有効走査線数で数えたときの別称です。

Deep Color（48）

HDMI端子内を通る信号の色深度を高めたビデオ信号です。
従来のHDMI端子では、1ピクセル（画素）で表現可能な色数は24ビット（16,777,216色）でしたが、Deep Colorに対応した場合、より高い36ビットなどに対応することが可能になります。多ビット化により色の濃さの階調をより細かく表現できるため、連続した色の変化をなめらかに表すことができます。

DTS-HD High Resolution Audio（70）

デジタルシアターシステムズ社の開発したデジタルサラウンドフォーマット。最大96 kHzのサンプリング周波数、7.1チャンネルのマルチチャンネルサラウンドに対応します。非可逆圧縮で記録された音声を、最大6Mbpsのビットレートで転送します。

DTS-HD Master Audio（70）

可逆圧縮で記録された音声を最大24.5Mbpsのビットレートで転送します。また、最大192 kHzのサンプリング周波数、7.1チャンネルのマルチチャンネルサラウンドに対応します。

HDリアリティーエンハンサー（10、39）

再生中の映像信号をリアルタイムに画素ごとに解析し、最適な処理を施して、細部の明瞭化、ノイズの除去、階調をよりなめらかにする、ソニー独自の技術です。

HDMI（High-Definition Multimedia Interface）（19）

パソコン用ディスプレイなどで使用されているDVI（Digital Visual Interface）規格を拡張した次世代テレビ向けのデジタルインターフェース規格。
ハイビジョン映像とマルチチャンネル音声を1つのケーブルで、信号がデジタルのまま、劣化することなく伝送できます。デジタル映像信号の暗号化記述を使用した著作権保護技術であるHDCP*にも対応しています。

* HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）：デジタル映像信号の暗号化方式で、HDMIを経由して送信されるデジタルコンテンツの不正コピー防止を目的とする著作権保護用システムです。

IPアドレス（アイピーアドレス）

TCP/IP（伝送制御プロトコル/インターネットプロトコル）ネットワークで使用される識別情報。通常は、3桁の数字4組を点で区切って表示されます。
例:「192.168.139.105」など

JPEG（42）

静止画のファイル形式の一つ。他のファイル形式よりも画質の劣化を抑えて、ファイル容量を少なくできます。

LAN（27）

ケーブルや光ファイバーや無線などを使って、周辺機器や他の機器を接続し、データをやり取りする同じ建物やフロア内のみのネットワーク。社内や学校内、家庭内など、一定範囲内のネットワークのことです。

LTH（Low to High）（67）

有機色素系BD-Rに対応した記録方式。

MACアドレス（マックアドレス）

LAN上につながっている機器を識別するために各機器ごとに割り当てられている番号。ケーブルテレビ会社によっては、本機のMACアドレスの届出が必要な場合があります。本機のMACアドレスは、[本体設定]の[本体情報]で確認できます。

SBM（Super Bit Mapping）for Video（10、48）

人間の視覚特性を考慮して、8ビットの映像信号に14ビット相当の情報量を伝達して通常よりもよりなめらかな階調表現を可能にするソニー独自の技術です。

次のページにつづく⇨

x.v.Color（48）

動画色空間規格の国際規格のひとつ「xvYCC」に対応した機器に付す名称としてソニーが提案している商標です。従来より広い色域を再現でき、赤、青、緑はもちろん、赤紫の花の色や、複雑に変化する美しい海の青色など、自然界の色を鮮やかに、リアルに再現します。

24p True Cinema（9）

映画フィルムは毎秒24コマで撮影されていますが、テレビ画面では毎秒60コマに変換されて表示されるため、映画本来の表現とは異なるものになります。24p True Cinemaに対応するテレビとプレーヤーを接続すると、映画フィルムと同じ毎秒24コマで表示され、映画の質感そのままでお楽しみいただけます。

索引